作成:2024/10/02
科目コード:UM111

修士論文指導演習1

Supervisory Seminar on Master's Thesis 1

温　文(WEN WEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM111
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY6910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習2（秋学期）」と併せて、 修士論文を作成する前期課程2年次生を対象に、研究と論文執筆の指導を行う。この演習においては、少なくとも研究テーマを確定させ、研究計画を立案することまでを完了させる。(可能ならば、予備調査や予備実験を終えることが望ましい。)

Together with "Supervisory Seminar on Master's Thesis 2" (fall semester), this class will provide supervision to 2nd-year master's program students as they conduct research and write their theses. In this seminar, students are required to complete at least the process of determining a research theme and formulating a research design. (It is advisable to complete a preliminary survey or experiment.)

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、 詳細な研究計画の設定、 研究の遂行、 データの分析、 論文執筆について指導する。「修士論文指導演習2（秋学期）」と併せて、 指導は心理学専攻所属の教員（指導教員、副指導教員）が担当する。

For each student's particular research theme, supervision will be provided with regard to detailed research planning, execution, data analysis, and article writing. Supervision for this class as well as for "Supervisory Seminar on Master's Thesis 2 (fall semester)" will be provided by an advisor and sub-advisor who are faculty members of the Graduate Program in Psychology.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:研究計画の立案(1)
【3】:研究計画の立案(2)
【4】:研究計画の立案(3)
【5】:先行研究のレビュー(1)
【6】:先行研究のレビュー(2)
【7】:先行研究のレビュー(3)
【8】:具体的研究方法の決定と準備(1)
【9】:具体的研究方法の決定と準備(2)
【10】:具体的研究方法の決定と準備(3)
【11】:具体的研究方法の決定と準備(4)
【12】:予備調査／実験の実施(1)
【13】:予備調査／実験の実施(2)
【14】:予備調査／実験の実施(3)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究計画:25% 文献レビュー:25% 実験／調査の準備:25% 実験／調査の実施:25%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で適宜紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UM112

修士論文指導演習1

Supervisory Seminar on Master's Thesis 1

石黒　格(ISHIGURO ITARU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM112
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY6910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習2（秋学期）」と併せて、 修士論文を作成する前期課程2年次生を対象に、研究と論文執筆の指導を行う。この演習においては、少なくとも研究テーマを確定させ、研究計画を立案することまでを完了させる。(可能ならば、予備調査や予備実験を終えることが望ましい。)

Together with "Supervisory Seminar on Master's Thesis 2" (fall semester), this class will provide supervision to 2nd-year master's program students as they conduct research and write their theses. In this seminar, students are required to complete at least the process of determining a research theme and formulating a research design. (It is advisable to complete a preliminary survey or experiment.)

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、 詳細な研究計画の設定、 研究の遂行、 データの分析、 論文執筆について指導する。「修士論文指導演習2（秋学期）」と併せて、 指導は心理学専攻所属の教員（指導教員、副指導教員）が担当する。

For each student's particular research theme, supervision will be provided with regard to detailed research planning, execution, data analysis, and article writing. Supervision for this class as well as for "Supervisory Seminar on Master's Thesis 2 (fall semester)" will be provided by an advisor and sub-advisor who are faculty members of the Graduate Program in Psychology.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:研究計画の立案(1)
【3】:研究計画の立案(2)
【4】:研究計画の立案(3)
【5】:先行研究のレビュー(1)
【6】:先行研究のレビュー(2)
【7】:先行研究のレビュー(3)
【8】:具体的研究方法の決定と準備(1)
【9】:具体的研究方法の決定と準備(2)
【10】:具体的研究方法の決定と準備(3)
【11】:具体的研究方法の決定と準備(4)
【12】:予備調査／実験の実施(1)
【13】:予備調査／実験の実施(2)
【14】:予備調査／実験の実施(3)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究計画:25% 文献レビュー:25% 実験／調査の準備:25% 実験／調査の実施:25%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で適宜紹介する。

修士論文指導演習2

Supervisory Seminar on Master's Thesis 2

温　文(WEN WEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM121
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY6910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習1（春学期）」と併せて、 修士論文を作成する前期課程2年次生を対象に、 研究と論文執筆の指導を行う。得られたデータに基づいて、研究結果の分析方法、解釈、論文の執筆方法、論文全体の構成、研究の解釈や意義などに関する考察などについての指導を受ける。

Combined with "Supervisory Seminar on Master's Thesis 1 (spring semester)," this class will provide supervision to 2nd-year master's program students as they conduct research and write their theses. Based on the data obtained, students will receive instruction on analyzing and interpreting research results and discussion.

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、 詳細な研究計画の設定、研究の遂行、データの分析、論文執筆について指導する。「修士論文指導演習1（春学期）」と併せて、 指導は心理学専攻所属の教員（指導教員、副指導教員）が担当する。

For each student's particular research theme, supervision will be provided with regard to detailed research planning, execution, data analysis, and article writing. As with "Supervisory Seminar on Master's Thesis 1 (spring semester)," supervision will be provided by an advisor and sub-advisor who are faculty members of the Graduate Program in Psychology.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:予備実験／調査結果の分析(1)
【3】:予備実験／調査結果の分析(2)
【4】:本実験／調査計画の立案(1)
【5】:本実験／調査計画の立案(2)
【6】:本実験／調査方法の決定と準備(1)
【7】:本実験／調査方法の決定と準備(2)
【8】:実験／調査の実施(1)
【9】:実験／調査の実施(2)
【10】:結果の分析と考察(1)
【11】:結果の分析と考察(2)
【12】:論文の執筆(1)
【13】:論文の執筆(2)
【14】:研究発表の準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究計画:25% 実験／調査の準備:25% 実験／調査の実施:25% 結果の分析と考察:25%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で適宜紹介する。

修士論文指導演習2

Supervisory Seminar on Master's Thesis 2

石黒　格(ISHIGURO ITARU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM122
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY6910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習1（春学期）」と併せて、 修士論文を作成する前期課程2年次生を対象に、 研究と論文執筆の指導を行う。得られたデータに基づいて、研究結果の分析方法、解釈、論文の執筆方法、論文全体の構成、研究の解釈や意義などに関する考察などについての指導を受ける。
Combined with "Supervisory Seminar on Master's Thesis 1 (spring semester)," this class will provide supervision to 2nd-year master's program students as they conduct research and write their theses. Based on the data obtained, students will receive instruction on analyzing and interpreting research results and discussion.

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、 詳細な研究計画の設定、研究の遂行、データの分析、論文執筆について指導する。「修士論文指導演習1（春学期）」と併せて、 指導は心理学専攻所属の教員（指導教員、副指導教員）が担当する。
For each student's particular research theme, supervision will be provided with regard to detailed research planning, execution, data analysis, and article writing. As with "Supervisory Seminar on Master's Thesis 1 (spring semester)," supervision will be provided by an advisor and sub-advisor who are faculty members of the Graduate Program in Psychology.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:予備実験／調査結果の分析(1)
【3】:予備実験／調査結果の分析(2)
【4】:本実験／調査計画の立案(1)
【5】:本実験／調査計画の立案(2)
【6】:本実験／調査方法の決定と準備(1)
【7】:本実験／調査方法の決定と準備(2)
【8】:実験／調査の実施(1)
【9】:実験／調査の実施(2)
【10】:結果の分析と考察(1)
【11】:結果の分析と考察(2)
【12】:論文の執筆(1)
【13】:論文の執筆(2)
【14】:研究発表の準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究計画:25% 実験／調査の準備:25% 実験／調査の実施:25% 結果の分析と考察:25%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で適宜紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UM131

基礎心理学研究法

Research Methods in Psychonomic Science

木原　健(KIHARA KEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM131
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5210
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

実験心理学の研究手法とその背景にある理論的体系について、実践可能なレベルで理解することを目標にする。
Achieving the practical level of understaing and abilities to use methodological and theoretical knowledge in psychonomic science.

授業の内容 / Course Contents

基礎心理学の研究遂行に必要な知識と技術について概説する。研究テーマの設定から、文献調査などの準備段階、実験の実施、成果発表に至るまで、研究の各ステップについて具体的事例を交えながら解説する。また、職業としての基礎心理学者の実際や、研究倫理についても説明する。受講者自身の研究活動に応用できるように、課題の提出を求めて演習形式で講義を行うこともある。なお、受講者の関心や理解度に応じて授業計画の内容は柔軟に変更する。
In this class, knowledge and techniques that are necessary to conduct research in psychonomic science are lectured. How to decide on research topics, do reference work, run experiments, and present the findings are outlined step by step with specific examples. Psychonomic scientist as a professional and their ethical standards are also explained. Students will be asked to introduce tasks that are ordered. Contents in this class may be changed depending on the interests and understanding of the students.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション / Introduction
【2】:受講者による自身の研究紹介 / Presentation of participants' own research
【3】:研究テーマの設定とキャリアパス戦略 / Research theme setting and career path strategy
【4】:文献の探し方と読み方 / How to find, read, and refer to related literature.
【5】:実験デザイン / Experimental Design
【6】:従属変数(1) 行動指標 / Dependent variable(1) Behavior measurment
【7】:従属変数(2) 脳機能計測 / Dependent variable(2) Brain function measurment
【8】:従属変数(3) 眼球運動計測 / Dependent variable(3) Eye movement measurement
【9】:従属変数(4) 生体反応計測 / Dependent variable (4) Biological response measurement
【10】:統計指標 / Statistical index
【11】:論文執筆(1) 論文の全体構成 / Writing paper(1) Overall structure
【12】:論文執筆(2) 論文投稿と査読 / Writing paper(2) Paper submission and peer review
【13】:学会発表 / Conference Presentation
【14】:職業としての基礎心理学者 / Psychonomic scientist as a professional

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習が必要な場合はその都度指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内で指示した提出物:20% 出席および授業への取り組み:20%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

参考文献 / Readings

その都度紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UM132

応用心理学研究法

Research Methods in Applied Psychology
研究の立案・実施と論文作成の技法

小口　孝司(OGUCHI TAKASHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM132
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

応用心理学を研究するにあたり，どのように研究に取り組めばよいかを学ぶ。学術的コミュニケーションのツールである論文の形式を知るとともに，研究を計画・実施・報告する際に考えておくことが必要なことは何かを理解することを目指す。
This class is aimed at learn how to work on resarch in applied psychology. The goal is to know the format of a paper as a tool for scholarly communication and to understand what needs to be considered when planning, conducting, and reporting research.

授業の内容 / Course Contents

テキスト"Publication Manual of American Psychological Association (seventh edition) "を輪読する。受講者はそれぞれの担当章のレジメを作成し，発表する。発表を元に議論を行い，研究方法についての理解を深める。
In this class, we will read the text "Publication Manual of the American Psychological Association (seventh edition)" in turn. Each student will prepare a resume of the chapter for which he/she is responsible and present it to the class. Discussions will be held based on the presentations to deepen understanding of research methods.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:学術論文の書き方と出版に際しての原則
【3】:論文の構成要素と形式
【4】:学術論文での報告のしかたに関する基準
【5】:文章の形式と文法
【6】:偏りのない言葉遣い
【7】:書式
【8】:図表
【9】:本文中の引用
【10】:引用文献リスト
【11】:多様な文献の引用のしかた
【12】:法的事項の引用
【13】:論文出版までのプロセス
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表者は担当章のレジメを作成する。発表者以外もテキストの該当箇所を読んでおくこと。授業中に解決されなかった疑問等については発表者あるいは各自で調べ，その結果を後日共有する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表内容:50% 議論への参加:50%

テキスト / Textbooks

American Psychological Association Publication Manual of the American Psychological Association: seventh edition
American Psychological Association 2020 9781433832161

参考文献 / Readings

高野陽太郎・岡隆（編） 心理学研究法 補訂版 有斐閣 2017 9784641220867
日本心理学会 執筆・投稿の手びき（2022 年版）https://psych.or.jp/manual

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

社会心理学，産業・組織心理学の基礎的な学習を終えていること（学部時代にそれらの科目を履修していること）。さらに，基礎的な統計学や分析の基礎を理解し，活用していること。

作成:2024/10/02
科目コード:UM201

知覚心理学特殊研究

Advanced Studies in Perceptual Psychology

氏家　悠太(UJIIE YUTA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM201
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5220
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

知覚心理学およびその関連領域(認知心理学, 実験心理学, 認知科学, 発達科学等)の最新の研究知見に触れ, 批判的にデータを検証する視点やプレゼンテーション・ディスカッション能力などのスキルを獲得することを目指す。

Through learning recent research in perceptual psychology and related fields (cognitive psychology, experimental psychology, cognitive science, developmental science, etc.), students develop their academic skills such as critical inspection of data, giving presentations, and persuasive discussion.

授業の内容 / Course Contents

最新の研究内容について, プレゼンテーション形式で発表を行い, 履修者全員で議論・討論を行う。扱う内容については, 最近発表された研究論文および自身で行った最近の研究内容あるいは研究計画などが考えられる。最近の研究論文を紹介する場合には, 知覚心理学およびその関連領域(認知心理学, 実験心理学, 神経生理学, 認知神経科学等)の英語論文であることが望ましい。自身の研究内容について発表を行う際には, 学会発表のトレーニングを兼ねる。研究内容の優れた点や問題点などを考えることで, データを論理的・批判的に検証する視点などを養う。

Each student is required to deliver an oral presentation on recent research topics, followed by group discussions and debates among all students. The presentation content may encompass recently published articles or a student's own recent research data or research plan. When students give a presentation about recent research publications, they are encouraged to select English papers, primarily from perceptual psychology and related fields (cognitive psychology, experimental psychology, cognitive science, developmental science, etc.). When students talk about their study work, it will double as training for presenting results at actual research conferences. By considering the advantages and problems evident in their research, students will develop an ability to understand data from a logical and critical perspective.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:研究発表・討論(1)
【3】:研究発表・討論(2)
【4】:研究発表・討論(3)
【5】:研究発表・討論(4)
【6】:研究発表・討論(5)
【7】:研究発表・討論(6)
【8】:研究発表・討論(7)
【9】:研究発表・討論(8)
【10】:研究発表・討論(9)
【11】:研究発表・討論(10)

【12】:研究発表・討論(11)
【13】:研究発表・討論(12)
【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ガイダンス時に準備学習の内容について教示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表:60% 出席と討論:40%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UM203

認知心理学特殊研究

Advanced Studies in Cognitive Psychology

木原　健(KIHARA KEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM203
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5220
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

生理心理学および精神生理学的手法を用いた認知心理学の研究について、最近の研究内容を理解して検討を加える。
This class will examine recent cognitive-psychological studies with physiological measurements.

授業の内容 / Course Contents

脳波、脳血流、眼球運動などの生理計測を用いた認知心理学的研究に関する最近の専門書から、発表者は自らの興味に従って章を選択し、内容をまとめたスライドで発表する。発表された内容は受講者全員で検討する。
発表者は、当日までに発表用のスライドを準備する。発表者以外の受講生も、発表後に十分な討論ができるよう、事前に関連文献などを予習する。発表技法や研究技法に関しては、適宜指導する。
Based on their own interests, students choose a chapter in a recent book introducing cognitive-psychological studies with physiological measurements, such as electroencephalogram, brain blood flow, and eye movements, for presentation. Presented material then be discussed and debated by the whole class.
The presenter(s) prepare a slide for the presentation. Students who are not presenting are also expected to investigate relevant literature in advance and contribute to the discussion. Guidance regarding presentation and research techniques will be provided as necessary.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクションおよび発表内容の決定 / Introduction and determination of presentation contents
【2】:スライド発表と討論(1)/ Slide presentation and discussion (1)
【3】:スライド発表と討論(2)/ Slide presentation and discussion (2)
【4】:スライド発表と討論(3)/ Slide presentation and discussion (3)
【5】:スライド発表と討論(4)/ Slide presentation and discussion (4)
【6】:スライド発表と討論(5)/ Slide presentation and discussion (5)
【7】:スライド発表と討論(6)/ Slide presentation and discussion (6)
【8】:スライド発表と討論(7)/ Slide presentation and discussion (7)
【9】:スライド発表と討論(8)/ Slide presentation and discussion (8)
【10】:スライド発表と討論(9)/ Slide presentation and discussion (9)
【11】:スライド発表と討論(10)/ Slide presentation and discussion (10)
【12】:スライド発表と討論(11)/ Slide presentation and discussion (11)
【13】:スライド発表と討論(12)/ Slide presentation and discussion (12)
【14】:スライド発表と討論(13)/ Slide presentation and discussion (13)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習が必要な場合はその都度指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容と発表技量:50% 議論への参加と出席:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本生理心理学会(企画)堀忠雄・尾崎久記(監修)室橋春光・苧阪満里子(編集) 生理心理学と精神生理学 第Ⅲ巻 展開 北大路書房 2018 9784762830198

作成:2024/10/02
科目コード:UM205

社会心理学特殊研究

Advanced Studies in Social Psychology

石黒　格(ISHIGURO ITARU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM205
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生の研究関心に合わせた英字文献を講読し、各自の研究の推進に貢献する。
In this course, students will read English articles following their research interests to make progress in their research.

授業の内容 / Course Contents

現代人の社会関係に関わる文献、特にソーシャル・メディアとの関係に関わる文献を提案しますが、履修者各自が、自らの研究関心に合わせて文献を持ち寄ることを推奨します。一人で読むのは難解だと感じる文献を、誰かと一緒に読むというかたちで利用してかまいません。
The instructor suggests articles and books regarding social relationships and the impacts of social media on the social relationships. However, students will be strongly recommended to suggest other articles that they consider important for their research.

授業計画 / Course Schedule

【1】:The bright and dark sides of social media use during COVID-19 lockdown
【2】:Quantifying gender preferences in human social interactions using a large cellphone dataset
【3】:“Defriending” in a polarized age: Political and racial homophily and tie dissolution
【4】:Facebook Social Use and Anxiety: A replication attempt
【5】:Activity in social media and intimacy in social relationships
【6】:The effect of social networking websites on positive self-views: An experimental investigation.
【7】:Social comparison on Facebook: Motivation, affective consequences, self-esteem, and Facebook fatigue
【8】:Longitudinal analyses of the effects of age, marriage, and parenthood on social contacts and support
【9】:Twitter versus Facebook: Exploring the role of narcissism in the motives and usage of different social media platforms
【10】:学生提案文献
【11】:学生提案文献
【12】:学生提案文献
【13】:学生提案文献
【14】:学生提案文献

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自で文献の探索と講読を行う。単に1つの文献を見つけて発表するのではなく、複数の文献を読んだ上で、特に面白い、あるいは重要なものを発表するのが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:60% 議論への貢献:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UM206

産業・組織心理学特殊研究

Advanced Studies in Industrial/ Organizational Psychology
PRE-SUASION

小口　孝司(OGUCHI TAKASHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM206
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

産業・組織心理学に密接に関わる下記のテキストを用いて、pre-suasion について考察を深め、以て各自の研究への応用を図る。さらに、研究に対する批判力と、研究を大局的な視点から評価する力を養う。また、研究についてのディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につける。
The concept of “pre-suasion” which is closely related to Industrial/Organizational psychology will be examined while referring to the below text. Students will seek applications to their research. They will improve their ability to evaluate research critically and take a global view of it. In addition, students will hone their discussion and presentation skills.

授業の内容 / Course Contents

Robert Cialdini 教授による古典的名著とされる“Influence”が上梓されてから、30 年以上が経ている。それは如何に人を動かすかの原理、原則を解説したものである。彼が他人を動かすための前準備のテクニックについて解説したものが、この“Pre-suasion”である。Pre-suasion とは、pre(前)と suasion(勧告・説得)を合わせた Cialdini 教授による造語である。本書を輪読する。その際、担当者は、各章(節)を担当して解説する。さらにその章で紹介されている研究の中で、担当者が最も興味深かったと思う研究論文についても調べ、併せてその概要を紹介する。その後受講生の間で議論をして理解を深めるとともに、各人の研究テーマとの関連性を考究していく。
More than 30 years have passed since Professor Robert Cialdini published his classic book Influence. In it, he explained the theory and principles at play when convincing or getting a person to do something. Then in his book Pre-suasion, he elucidated the technique involved in preparing a person in advance to persuade more easily. Professor Cialdini coined the term “pre-suasion” by combining “pre″ (i.e., in advance) with “-suasion” (from “persuasion”). The chapters of Professor Cialdini’s book will be divided among the registered students. Each student will be responsible for understanding and explaining his/her assigned section. Within that section, the student should select the research that interested him/her the most, find other related articles, and present a summary. Through discussion and debate, the class will further deepen their understanding of the material and examine its relevance to each student’s research.

授業計画 / Course Schedule

【1】:導入
【2】:担当章(節)の決定
【3】:Previleged moments
【4】:The importance of attention
【5】:What’s focal is causal
【6】:Commanders of attention
【7】:The primacy of associations
【8】:Persuasive geographies

【9】:The mechanics of pre-suasion
【10】:Six main roads to change
【11】:Being together
【12】:Acting together
【13】:Ethical use
【14】:Post-suasion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

下記のテキストを輪読する。その際、担当者を各章(あるいは各節)ごとに決める。担当者は、レジュメを作成して、受講者全員に配布する。レジュメには章の要約とそこに示されている1つの研究の要約も記載すること。レジュメに基づいて発表を行った後、全員で討論を行う。自分の担当章(節)以外の部分にも目を通しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 担当発表:50% 討論への参加:50%

テキスト / Textbooks

Cialdini, R. Pre-suasion Simons & Schuster 2016 978501109799

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

心理学科を卒業程度の心理学的基礎知識、ならびに統計学の知識を有し、活用していることが求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

作成:2024/10/02
科目コード:UM207

応用行動分析学特殊研究

Advanced Studies in Applied Behavior Analysis
発達障害を手がかりとした障害，人権理念および支援制度の理解と心理支援

山崎　晃史(YAMAZAKI KOUJI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM207
授業形態	オンデマンド(全回オンデマンド)	授業形態(補足事項)	9 月 20 日(金)に初回授業を配信し，以降毎金曜日に学年歴に従い 14 回配信する。(休講日、休暇期間の配信はない)
校地	新座	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

福祉分野に関わる公認心理師の実践として障害(特に発達障害)をもつ児童や人の心理社会的課題を理解する。その支援と方法について保健，医療，福祉，教育の諸制度をふまえながら実践できる力量を身につける。共生する社会の実現を念頭に，多職種連携協働(IPW)による支援のあり方を具体的に理解する。
As practicing of Certified Public Psychologists involved in the field of social welfare, students will gain an understanding of the psychosocial issues surrounding children and adults with disabilities (especially those with developmental disorders).While acquiring a full understanding of the healthcare, medical, welfare, and educational institutions involved, they will gain competence in support procedures and in the actual support of such people. Always bearing in mind the end goal of coexistence within society, they will also come to understand in detail how support is provided through interprofessional working (IPW).

授業の内容 / Course Contents

リアクションや質問に応答しながら講義を進める。
まず，1)障害を理解する諸視点を学び，2)ノーマライゼーションやインクルージョンといった人権理念の展開と現状を取り上げる。そして，3)ケアマネジメントや多職種連携協働(IPW)の手法を学び，4)制度や社会資源の全容を把握しながら，5)発達障害を手がかりにライフサイクルに沿った心理支援の実際に触れる。また，6)発達障害領域の心理支援のトピックスを取り上げる。
なお本授業では，福祉分野に関わる公認心理師のあり方を具体的に考察していく。
The lecture will proceed by responding to reactions and questions.
After first (1) considering a variety of perspectives on the understanding of disease, we will (2) examine “normalization” and “inclusion” as human rights, as well as their expansion and current status. We will then (3) cover techniques for care management and interprofessional working (IPW), (4) grasp the “big picture” of societal resources and institutions, and (5) touch upon the realities of providing psychological support at key points during the life cycles of the developmentally disabled. Finally, we will (6) deal with some topics in the area of psychological support to the developmentally disabled.
Moreover, this class will consider the actual duties of certified public psychologists who work in the field of welfare.

授業計画 / Course Schedule

【1】:【障害をもつ児者の支援の核にあるもの】
滝乃川学園創始者石井亮一の生涯を紹介し支援を支える価値観を考える。

授業期間中に課す調べ学習について説明する。
【2】:【障害観の変容】
ノーマライゼーションおよびインクルージョンが障害領域の中心理念となったこと，障害の捉え方が社会モデルを取り入れたもの（国際生活機能分類など）になったことを理解する。合理的配慮の考え方についても触れる。
【3】:【障害福祉における「生活のしづらさ」という視点】
障害福祉領域における心理支援を生活臨床の一環と捉え，「生活や学びのしづらさ」に応えていく実際を事例に基づき理解する。心理支援とソーシャルワークがそれぞれ独自性を保ちながらも融合する実態を確認する。
【4】:【連携とは何か】
障害福祉は連携と協働によって成り立つこと，それは役割分担をし，他機関にリファーすること以上の重要なテーマ（＝支援が行き届かない領域を無くすこと）を抱えていることを理解する。関連してケアマネジメントおよび専門職連携協働の考え方に触れる。
【5】:【障害福祉の制度】
幸せな生活を支えるしくみとしての障害福祉は，さまざまな場面を想定した多様なサービスから成り立っていることを理解する。
【6】:【障害の原因理解をめぐる議論】
発達障害や精神障害の多くが脳の機能障害とされているそのことをあらためて考える。人との関係性を含めた環境要因の重要性と障害理解におけるその位置づけを理解する。
【7】:【中間まとめ】
リアクションや質問に応じてここまでの授業を補足するとともに，必要に応じて障害福祉を巡る時事的な話題に触れる。
【8】:【初期支援における心理支援】
乳幼児期の支援の全体像と，公認心理師の役割について理解する。
【9】:【インクルーシブ保育】
インクルーシブな保育の実際を視聴覚教材で確認しながら，育ち合う保育の意義を理解する。
【10】:【障害児教育の歴史に学ぶ】
イタール，セガン，モンテッソーリなどの先人が切り開いた感覚教育，自発性の教育の姿から，児童期の支援に必要な視点を理解する。
【11】:【発達支援の諸方法の活用】
認知発達治療，応用行動分析，構造化，ペアレントトレーニングなどのいわゆる「療育」を公認心理師はどのように用いるべきなのか，臨床の場を想定しながら考える。
【12】:【インクルーシブ教育】
インクルーシブ教育の理念，実際，課題を理解する。インクルーシブ教育の実際を記録した番組動画を参照する。
【13】:【成人期の支援】
障害を持つ方々の生活とその支援の実際を取り上げる。就労支援の実際についても触れる。
【14】:【さまざまな課題と当事者からのメッセージ】
障害領域を巡るさまざまな課題を取り上げ，当事者からのメッセージを紹介する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ（ﾊﾟﾜﾎﾟ等）の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容に対応したテキスト箇所をよく読み込むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業各回リアクション:40% 調べ学習報告:30% レポート:30%

テキスト / Textbooks

大石幸二監修・山崎晃史編著 公認心理師・臨床心理士のための発達障害論 学苑社 2019 9784761408046

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

発達障害の診断と支援について基礎的なことがらを理解していること。

その他 / Others

公認心理師を目指している院生向けに内容を構成します。障害福祉領域での支援はどうあるべきかという倫理的な視点を提供すると共に，公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として医療，福祉のなかで業務を行ってきた経験からの

話をみなさんに語ります。

作成:2024/10/02
科目コード:UM209

発達心理学特殊研究

Advanced Studies in Developmental Psychology

ユ, リラ(YU LIRA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM209
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

発達心理学と関連する研究トピックスについて発表しながら学ぶことで、胎児期から老年期までのヒト特有の行動と心の発達に関する発展的知識を身につける。

By presenting research topics in Developmental Science, students will acquire advanced knowledge on the development of human-unique behavior and mind from fetal period to late adulthood.

授業の内容 / Course Contents

指定した参考文献の中からそれぞれ担当する「発達段階」を選択し、順番に発表を行う。参加者は、発表担当者が担当する発達段階の特徴について予習レポートを作成することで、能動的に学び、積極的に議論を行うことが求められる。

Each student will give a presentation in turn by choosing one of the "Developmental stages" from the designated references. All students are expected to prepare a preliminary report in advance and actively participate in the discussion.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス・発表担当者および順番の割り当て
【2】:胎児期
【3】:新生児期
【4】:乳児期Ⅰ
【5】:乳児期Ⅱ
【6】:幼児期Ⅰ
【7】:幼児期Ⅱ
【8】:児童期
【9】:思春期
【10】:成人初期・中期
【11】:成人後期・老年期
【12】:非定型発達Ⅰ
【13】:非定型発達Ⅱ
【14】:比較認知発達

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習レポートの作成、発表担当回の事前準備、授業後のレポート作成、授業最終回後の総括レポート作成を求める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表担当回の発表内容:30% 予習・事後レポート:30% 議論への参加:20% 最終レポート割合::20%

テキスト / Textbooks

特に無し。必要であれば授業内で適宜紹介する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜配布する。

心理統計法特殊研究

Advanced Studies in Statistical Methods for Psychology

川久保　惇(KAWAKUBO ATSUSHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM213
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5220
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

心理学研究において用いられる主要なデータ解析法について，理論的な枠組みを理解する。
自分の研究領域と関心に基づく研究課題(リサーチクエスチョン)に対応したデータ分析の方法を適切に選択できるようになる。
誤用を避け，結果を適切に解釈できるよう分析方法の理論的な理解を深めつつ，具体的な分析手続を習得する。
Students will come to understand the theoretical framework behind the major data analysis methods used in psychology research.
They will then be able to select the most suitable analysis method(s) for their own respective fields and for research questions that interest them.
As they deepen their theoretical understanding of the methods, students will also practice analysis procedures using computer software, both of which will equip them to interpret results properly and avoid misuse.

授業の内容 / Course Contents

代表的なデータ解析法を取り上げ，理論的な考え方，分析手順，ソフトウェアの使い方，分析における留意点について理解を深める。

The course will cover representative data analysis methods to deepen students' understanding of theoretical concepts, analysis procedures, software usage, and points to keep in mind when analyzing data.

授業計画 / Course Schedule

【1】:導入
【2】:統計法の基礎の確認
【3】:平均値の比較①
t 検定
【4】:平均値の比較②
分散分析
【5】:χ 二乗検定
【6】:回帰分析
【7】:階層的重回帰分析と調整分析
【8】:媒介効果の分析
【9】:探索的因子分析と尺度構成
【10】:確認的因子分析
【11】:共分散構造分析(構造方程式モデリング)の基礎
【12】:共分散構造分析の実践

【13】:共分散構造分析の応用
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は，必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業内の発表:50% 授業内での取り組み:50%

テキスト / Textbooks

授業時にそれぞれのデータ解析法に応じた文献を指示する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UM214

現代心理学特殊研究

Advanced Studies in Contemporary Psychology

本田　秀仁(HONDA HIDEHITO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM214
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	PSY5920
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	集中講義　授業実施日は以下の通り 8 月 5 日(月)3-5 限、6 日(火)・7 日(水)1-4 限、8 日(木)2-4 限		

授業の目標 / Course Objectives

認知科学には様々な分野が存在し、内容も多岐にわたる。本講義ではこれまでの認知科学の研究で明らかになった人間の心の性質を学ぶ中で、その興味深い特徴について理解することを目標とする。また、人間の認知は直面する問題をどのように解決しているのかについて、計算論の視点も含めながら理解することを目標とする。

Cognitive science encompasses a wide variety of fields and content. In this lecture, the goal is to understand the interesting features of the human cognition revealed by research in cognitive science. It also aims to understand how human cognition solves the problems human face, from the computational perspective.

授業の内容 / Course Contents

認知科学の理論や研究について幅広く講義する。認知科学が扱う問題と日常生活での経験についてリンクさせながら、人間の心が持つ特徴について説明を行う。

The lecture will cover a wide range of theories and research in cognitive science. The characteristics of the human cognition will be explained, linking the problems with daily life and experiences.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション、認知の研究の歴史:
・授業の概要、授業計画、評価基準等を説明する
・認知の研究の歴史について学ぶ
【2】:認知モデルとはなにか:
人間の認知をモデル化することの意味について学ぶ
【3】:記憶の性質:
人間の記憶の性質について、心理学の研究で明らかにされた性質について学ぶ
【4】:記憶の計算論:
人間の記憶の特徴について、計算論的視点から学ぶ
【5】:意思決定:
人間が行う意思決定の特徴について学ぶ
【6】:意思決定の計算論:
人間が行う意思決定の特徴について、計算論的な視点から学ぶ
【7】:中間のまとめ:
これまでの内容を概観し、整理した上で人間の認知の特徴について考える
【8】:経験則(ヒューリスティック):
人間が判断時に用いる経験則(ヒューリスティック)の性質について学ぶ

【9】:″知ろうとする″心と″知ろうとしない″心:
″知りたい″と思う心の性質と、″知りたくない″と思う心の性質、知に関して対極する心の性質について学ぶ
【10】:経験:
経験によって形成される認知の特徴について学ぶ
【11】:ナッジ・ブースト:
人間の判断や意思決定をより合理的するための介入法について学ぶ
【12】:認知的インタラクション:
個人が持つ認知的特徴が人との相互作用に対して与える影響について学ぶ
【13】:認知の人間らしさ:
AI との比較でわかる人間らしい心について学ぶ
【14】:総まとめ:
講義内容の確認と総括を行う

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は, 必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 講義内容に基づくレポート課題(複数回):60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義資料等はすべて web 上を介して配布する。

作成:2024/10/02
科目コード:UM216

認知・身体心理学特殊研究

Advanced Studies in Cognitive and Embodied Psychology

温　文(WEN WEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM216
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

・認知・身体心理学の関連領域の最新の研究知見に触れ、先行研究を批判的な視点から検証し、クリティカルシンキング・プレゼンテーション・ディスカッション能力を鍛える。
・認知心理学、認知神経科学、実験心理学等幅広く文献調査する能力、文献調査の結果を批判的にまとめる能力等、研究者にとって必要な能力を身につける。
・レプリケーション研究の意義と方法を理解し、既存研究の結果や過程の信頼性を検証する方法、ジャーナルやプレプリントに掲載する方法を把握する。
Students will learn the latest research findings through literature research, and will learn to present and discuss on these findings with a critical view. Students will also acquire the skills of collecting and reviewing literatures from cognitive psychology, cognitive neuroscience, experimental psychology and other relevant fields. At last, students will acquire knowledge and skills regarding replication studies, including methods and publications.

授業の内容 / Course Contents

・最近の研究論文についてプレゼンテーション形式で発表し、批判的な観点から討論を行う。
・自分自身が興味を持つテーマに関する文献調査を行い、文献調査の結果に関するプレゼンテーションとディスカッションを行う。
・履修生全体でレプリケーション研究の計画を立て、一つレプリケーション研究を分担して行い、ジャーナルまだはプレプリントに掲載する一連の作業を行う。

Students will give presentations regarding recent published papers. Students will also be required to conduct literature review, and give a presentation of the review. Discussions will be conducted after each presentation. At last, all students will make a plan of a replication study together, and conduct the study through the term and attempt to publish the results on pre-registered journals or preprint sites.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:研究発表・討論
【3】:研究発表・討論
【4】:研究発表・討論
【5】:研究発表・討論
【6】:研究発表・討論
【7】:研究発表・討論
【8】:研究発表・討論
【9】:研究発表・討論

【10】:研究発表・討論
【11】:研究発表・討論
【12】:研究発表・討論
【13】:研究発表・討論
【14】:研究発表・討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表論文や文献調査の論文を事前によく読んでくること。またレプリケーション研究をするための実験と解析を授業時間外に行う必要がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席および授業への取り組み:30% 発表による評価:40% 討論による評価:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

知覚心理学特殊演習

Advanced Seminar on Perceptual Psychology

氏家　悠太(UJIIE YUTA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM301
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

知覚心理学およびその関連領域(認知心理学, 実験心理学, 認知科学, 発達科学等)の最新の研究知見に触れ, 各自の研究スキルの発展および研究成果の公表を目指す。

Through learning recent research findings in perceptual psychology and related fields (cognitive psychology, experimental psychology, cognitive science, developmental science, etc.), this class will promote the development of participants' research skills and enable them to publish their research findings.

授業の内容 / Course Contents

知覚心理学およびその関連領域(認知心理学, 実験心理学, 認知科学, 発達科学等)に関する自身の研究内容について, 最新の知見と絡めてプレゼンテーション形式で発表を行う。そして, 履修者全員で研究内容の改善点や発展案について議論・討論を行う。これらを通じて, 研究成果が国内外の学会だけではなく国際査読誌で公表されるよう, 研究内容の深化を行う。

履修者自身の研究データをもとに授業を進める。そのため, 知覚心理学およびその関連領域の研究を遂行している学生の履修を推奨する。

Each student will present their research and engage in discussions related to the latest findings in perceptual psychology and associated fields, such as cognitive psychology, experimental psychology, cognitive science, and developmental science. Following each presentation, all students will collectively discuss and debate the content, offering suggestions for improvements. Through these activities, students deepen their research and prepare for publishing their research findings at domestic and international conferences and in refereed international journals.

The class will be based on the participants' own research results. Therefore, students who are conducting research in perceptual psychology or a related field may register for this class.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:研究発表・討論(1)
【3】:研究発表・討論(2)
【4】:研究発表・討論(3)
【5】:研究発表・討論(4)
【6】:研究発表・討論(5)
【7】:研究発表・討論(6)
【8】:研究発表・討論(7)
【9】:研究発表・討論(8)
【10】:研究発表・討論(9)
【11】:研究発表・討論(10)

【12】:研究発表・討論(11)
【13】:研究発表・討論(12)
【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自身の研究内容に関連する英語文献を可能な限り多く調べること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表:60% 出席・討論:40%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

認知心理学特殊演習

Advanced Seminar on Cognitive Psychology

都築　誉史(TSUZUKI TAKASHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM303
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

人間の高次認知過程や情報行動に関する履修者ごとのテーマについて，研究発表とカンファレンスを行い，実証的研究を遂行する知識と技能を習得する。

In this course, students (1) make presentations and hold conferences on subjects related to higher cognitive processes and information behavior and (2) acquire the knowledge and skills to perform empirical research.

授業の内容 / Course Contents

発表者は，高次認知過程(記憶，知識，言語理解，問題解決，推論，意思決定など)や情報行動に関する最近の英文学術雑誌論文を広く展望し，批判的な検討を加えて研究テーマを設定し，実験方法も含めたレポート発表を行う。このレポート発表について，全員で討論する。発表技法，研究法(実験手法やデータ解析)，論文執筆などに関しても適宜指導を行う。

研究カンファレンスを実施し，履修者各自の研究と，担当者が中心となって進めている研究の進捗状況について，意見交換や情報交換を積極的に行う。

授業の内容や進め方については，初めに面談を行い，受講者の専門分野や学習希望内容を十分配慮する。

In this course, students broadly review recent English academic journal articles on higher cognitive processes (e.g., memory, knowledge, language understanding, problem solving, reasoning, decision making) and information behavior and then formally present them to the other students. Critical examination of the research theme should be included, and a report including the experimental method is submitted. All students discuss this report. The instructor also provides guidance on presentation techniques, research methods (experimental methods and data analysis), and the writing of research papers when necessary.

The students in charge hold research conferences and actively exchange opinions, information, and progress on their research. At the beginning of the course, interviews are held regarding the content and method of the course, during which the students' specialization and the content of their study is carefully considered.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:レポート発表と討論(1)
【3】:レポート発表と討論(2)
【4】:レポート発表と討論(3)
【5】:レポート発表と討論(4)
【6】:レポート発表と討論(5)
【7】:レポート発表と討論(6)
【8】:レポート発表と討論(7)
【9】:レポート発表と討論(8)

【10】:レポート発表と討論(9)
【11】:実験手法とデータ解析(1)
【12】:実験手法とデータ解析(2)
【13】:実験手法とデータ解析(3)
【14】:実験手法とデータ解析(4)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表内容と発表技量:50% 議論への参加と出席:50%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

その他 / Others

https://www2.rikkyo.ac.jp/~tsuzuki/
https://www2.rikkyo.ac.jp/web/tsuzukisemi/

作成:2024/10/02
科目コード:UM305

社会心理学特殊演習

Advanced Seminar on Social Psychology

石黒　格(ISHIGURO ITARU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM305
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会心理学研究に必要とされる知識、技術を習得し、各自の研究の質を高めることを目標とする。
This class aims to improve students' research quality by furnishing the knowledge and techniques required to work in social psychology and quantitative surveys.

授業の内容 / Course Contents

リサーチ・ミーティング形式で行う。毎回、各自が自らの研究計画と進捗状況、遭遇している問題点について発表し、その後、教員を含めた全員で議論を行う。必要に応じて、技術的な説明を行う。
The class will be structured as if it was a research conference. Students will report their current progress and difficulties regarding their research. Based on these, the adviser and students will have a discussion regarding the research. If necessary, the adviser will give technical advice to the students.

授業計画 / Course Schedule

【1】:発表と議論
【2】:発表と議論
【3】:発表と議論
【4】:発表と議論
【5】:発表と議論
【6】:発表と議論
【7】:発表と議論
【8】:発表と議論
【9】:発表と議論
【10】:発表と議論
【11】:発表と議論
【12】:発表と議論
【13】:発表と議論
【14】:発表と議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自が、各自の研究を遂行する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:60% 議論への貢献:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UM306

産業・組織心理学特殊演習

Advanced Seminar on Industrial/ Organization Psychology
産業・組織心理学、観光心理学、社会心理学の演習

小口　孝司(OGUCHI TAKASHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM306
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

産業・組織心理学、観光心理学、社会心理学を行うにあたっての知識、基本的技法を習得するとともに、研究の質を高める方法を具体例を交えながら明らかにしていくことを目標とする。
This class aims to improve research quality by furnishing the knowledge and techniques required to work in industrial and organizational psychology, tourism psychology, and social psychology.

授業の内容 / Course Contents

授業は研究カンファレンスの形式で実施し、履修者各自の研究と、研究室が推進するプロジェクト研究について、進捗状況の報告、意見交換、情報交換、相互アドバイスなどを行う。必要に応じて、必要な技法の習得の実習を行う。
This course is structured as if it were a research conference. Students give progress reports on their research and on projects underway in their respective laboratories. Based on these reports, they exchange opinions and information and provide each other advice to each other. If necessary, opportunities to practice relevant techniques can be arranged.

授業計画 / Course Schedule

【1】:研究カンファレンス1
【2】:研究カンファレンス2
【3】:研究カンファレンス3
【4】:研究カンファレンス4
【5】:研究カンファレンス5
【6】:研究カンファレンス6
【7】:研究カンファレンス7
【8】:研究カンファレンス8
【9】:研究カンファレンス9
【10】:研究カンファレンス10
【11】:研究カンファレンス11
【12】:研究カンファレンス12
【13】:研究カンファレンス13
【14】:研究カンファレンス14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

履修登録の前提として、産業・組織心理学、観光心理学、社会心理学の基礎知識が必須である。履修後はメーリングリスト等で授業に必要な準備の指示を適宜行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 自身の研究の質・量:50% 研究カンファレンスでの積極的発言:50%

テキスト / Textbooks

必要な資料は授業で配布する。

参考文献 / Readings

授業中に随時紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UM309

発達心理学特殊演習

Advanced Seminar on Developmental Psychology

白井　述(SHIRAI NOBU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM309
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

発達心理学やその関連諸分野の最新の知見に触れる。またそうした知見と自分自身の研究との関係性を整理し、自分の研究目標を学術的な文脈において相対化する。

Students are expected to acquire updated findings in developmental psychology and relevant research areas and to re-estimate one's own research in the context of the previous relevant research.

授業の内容 / Course Contents

毎回の授業に発表者を割り当てる。発表者は自分自身の研究上の関心と関連する先行研究に関するレビューを行い、その内容と自身の研究とを関連付けて発表する。その後、発表者以外の履修者も交えて発表内容についての質疑応答を行う。

In an every-week class, a presenter will be pre-selected from students. The presenters prepare a presentation of a mini-review of a research topic in accordance with her/his research interests. The other students must participate in the discussion after the presentation to promote learning of the research topic shown by the presenter.

授業計画 / Course Schedule

【1】:授業のガイダンス・毎回の発表担当者の割当
【2】:担当者による発表とそれに基づく議論
【3】:担当者による発表とそれに基づく議論
【4】:担当者による発表とそれに基づく議論
【5】:担当者による発表とそれに基づく議論
【6】:担当者による発表とそれに基づく議論
【7】:担当者による発表とそれに基づく議論
【8】:担当者による発表とそれに基づく議論
【9】:担当者による発表とそれに基づく議論
【10】:担当者による発表とそれに基づく議論
【11】:担当者による発表とそれに基づく議論
【12】:担当者による発表とそれに基づく議論
【13】:担当者による発表とそれに基づく議論
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当者は十分の発表準備をして担当回に臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表担当回における発表の内容:50% 毎回の授業における議論への貢献度:50%

テキスト / Textbooks

特に無し。

参考文献 / Readings

特に無し。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

発表者と聴衆との間の積極的なディスカッションを期待します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

特になし。

作成:2024/10/02
科目コード:UM311

現代心理学特殊演習

Advanced Seminar on Contemporary Psychology
心理学専攻(前期課程)における総合演習

石黒 格／温 文／白井 述／小口 孝司／氏家 悠太／都築 誉史(ISHIGURO ITARU/ WEN WEN/ SHIRAI NOBU/ OGUCHI TAKASHI/ UJIIE YUTA/ TSUZUKI TAKASHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM311
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5920
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生が自身の研究について発表を行い、他の大学院生や専攻教員からの質問やアドバイスを受けることによって、自身の研究テーマ、方法、分析などの向上を図る。さらに他の大学院生の研究報告を聞き、討論を行うことを通して、心理学研究への多面的な理解を深め、研究能力を伸長させることを目標とする。
Each student will give a presentation on his/her own research. Following each presentation, improvements to the research theme, methods, analysis, etc., will be sought through questions and advice from faculty members and other graduate students. Additionally, as you discuss and question the research reported by other graduate students, you will deepen your understanding of psychology from multiple perspectives and thereby improve your own research competence.

授業の内容 / Course Contents

この授業は心理学専攻所属教員全員による研究指導の場である。基本的には、研究指導教員全員と、大学院博士課程前期課程・後期課程の大学院生全員が、毎回授業に出席する。司会進行や運営は大学院生が行う。大学院生による研究発表に対し、全員で積極的に討論を行い、指導教員・副指導教員以外の研究指導教員からもアドバイス等をもらう。
This class serves as a venue for receiving research guidance from all faculty members of the Graduate Program in Psychology. In principle, all faculty advisors and all doctoral program and master's program students will attend each session. Graduate students will manage and lead the sessions. All attendees will assertively discuss and raise questions about the research presented by graduate students. Although each student's own advisor and sub-advisor will be present, any faculty member may address advice, questions, etc., to any graduate student.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:研究発表と討論(1)
【3】:研究発表と討論(2)
【4】:研究発表と討論(3)
【5】:研究発表と討論(4)
【6】:研究発表と討論(5)
【7】:研究発表と討論(6)
【8】:研究発表と討論(7)
【9】:研究発表と討論(8)
【10】:研究発表と討論(9)
【11】:研究発表と討論(10)

【12】:研究発表と討論(11)
【13】:研究発表と討論(12)
【14】:演習全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究発表:70% 討論参加:30%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UM313

認知・身体心理学特殊演習

Advanced Seminar on Cognitive and Embodied Psychology

温　文(WEN WEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM313
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

・認知・身体心理学の関連領域の最新の研究知見に触れ、先行研究を批判的な視点から検証し、クリティカルシンキング・プレゼンテーション・ディスカッション能力を鍛える。
・認知心理学、認知神経科学、実験心理学等幅広く文献調査する能力、文献調査の結果を批判的にまとめる能力等、研究者にとって必要な能力を身につける。
・自身の研究内容の発表と研究成果の公表ができるようになる。
Students will learn the latest research findings through literature research, and will learn to present and discuss on these findings with a critical view. Students will also acquire the skills of collecting and reviewing literatures from cognitive psychology, cognitive neuroscience, experimental psychology and other relevant fields. At last, students will give presentation regarding their own research and aim to publish their research results.

授業の内容 / Course Contents

・最近の研究論文についてプレゼンテーション形式で発表し、批判的な観点から討論を行う。
・自分自身が興味を持つテーマに関する文献調査を行い、文献調査の結果に関するプレゼンテーションとディスカッションを行う。
・履修生自身の研究計画、研究進捗について発表し、履修者全体で議論する。必要に応じて教員と個別面談を行う。

Students will give presentations regarding recent published papers. Students will also be required to conduct literature review, and give a presentation of the review. Discussions will be conducted after each presentation. At last, students will give presentations regarding their own research progress, and conduct group discussion. Individual discussions with the mentor will also be conducted if needed.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:研究発表・討論
【3】:研究発表・討論
【4】:研究発表・討論
【5】:研究発表・討論
【6】:研究発表・討論
【7】:研究発表・討論
【8】:研究発表・討論
【9】:研究発表・討論
【10】:研究発表・討論
【11】:研究発表・討論

【12】:研究発表・討論
【13】:研究発表・討論
【14】:研究発表・討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表論文や文献調査の論文を事前によく読んでくること。またプレゼンテーションを事前によく準備すること

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席および授業への取り組み:30% 発表による評価:40% 討論による評価:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

心理臨床特殊研究1

Advanced Studies in Clinical Psychology 1

金　智慧(KIM JIHYE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM401
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5420
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

①質的研究法の基本的な考え方、各手法に関する基礎的な知識を得る。
②質的データの収集および分析に取り組み、質的研究法について実践的に理解する。
①Students will obtain basic concepts of qualitative research methods and basic knowledge about each method.
②Students will engage in the collection and analysis of qualitative data and gain a practical understanding of qualitative research methods.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、近年注目を集めている質的研究法について学習し、自らの研究基盤をつくることを目的とする。授業では、講義だけでなく、研究例を読み進めることで理解を深めていく。また、インタビューを実践し、質的データ収集とその分析に取り組み、実践的に学んでいく。
この授業は研究法(つまり、方法)を学ぶ授業であり、方法を実践する自分自身のスタイルを自覚する授業でもある。授業で課される宿題や、研究法の実践、分析プロセスを体験することを通じて、技法の獲得のみならず、自己への覚知を促していきたい。
In this class, students will learn about qualitative research methods, which have been attracting much attention in recent years, with the aim of creating a foundation for their own research. In the class, students will deepen their understanding not only through lectures but also through reading research examples. In addition, students will learn practically by practicing interviews and working on qualitative data collection and its analysis.
This class is a class to learn research methods (i.e., methods) and to become aware of one's own style of practicing methods. Through homework assignments, practice of research methods, and experience in the analysis process, we hope to encourage students not only to acquire techniques but also to become more self-aware.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション:臨床心理学における研究の意味
【2】:質的研究とは何か
【3】:フィールドワーク、観察法の基礎
【4】:質的研究を読む①(議論)
【5】:インタビュー法の基礎、インタビューガイドの作成①問いを立てる
【6】:インタビューガイドの作成②インタビューガイドの精緻化
【7】:質的研究を読む②(議論)
【8】:インタビューの実施とトランスクリプトの作成
【9】:質的研究を読む③(議論)
【10】:質的研究の実習①データの読み
【11】:質的研究の実習②データを分析する

【12】:質的分析の実習③モデルをまとめあげる
【13】:成果発表・講評
【14】:まとめ:質的分析の様々な方法、質的研究の質

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、前授業の学習内容を振り返ってから授業に参加すること。また、研究法に関する資料および研究論文を読み、発表と議論の準備を行う。質的研究の演習はグループで実施するため、必要に応じて授業時間外に話し合いや授業の準備を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%
平常点割合 :40% 出席および授業参加度:10% 課題提出:20% 発表:10%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

能智正博 臨床心理学を学ぶ6 質的研究法 東京大学出版会 2011 9784130151368
スタイナー・クヴァール 質的研究のための「インター・ビュー」 新曜社 2016 9784788514751
川喜田二郎 発想法ー創造性開発のために 中央公論社 1967 9784121001368
無藤隆・南博文・麻生武・やまだようこ・サトウタツヤ(編) 質的心理学ー創造的に活用するコツ 新曜社 2004 9784788509139
岩壁茂・杉浦義典(編) 臨床心理学 75(13 巻 3 号)研究の方法を知る 金剛出版 2013
丹野義彦(編) 臨床心理学全書 5 臨床心理学研究法 誠信書房 2004 9784414413250

作成:2024/10/02
科目コード:UM403

精神医学特殊研究

Advanced Studies in Psychiatry

松永　美希(MATSUNAGA MIKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM403
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5520
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

保健医療分野に関わる公認心理師に必要な精神医学・心身医学の基本的な知識を身につける。
Students will master the fundamentals of psychiatry and psychosomatic medicine to the extent required of licensed psychologists in health care services.

授業の内容 / Course Contents

主要な精神疾患の病態・症状・治療法等について、医師の視点から講義を行う。本年度は心身医学特論が開講されないため、この授業では心身医学で用いる理論と技法、心身症の評価・治療方法についても扱う。
Lectures will be given on pathophysiology, symptoms, and treatment of major psychiatric disorders from the clinicians' point of view. This class will cover theories and techniques in psychosomatic medicine and how to assess and treat psychosomatic disorders since the special lecture on psychosomatic medicine will not be offered this year.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション、精神医学総論
【2】:気分障害
【3】:統合失調症
【4】:強迫症、不安症
【5】:摂食障害
【6】:自閉スペクトラム症
【7】:注意欠陥・多動性障害
【8】:心的外傷後およびストレス因関連障害、パーソナリティ障害
【9】:中間まとめ
【10】:心身医学とは、心身医学で用いる理論と技法 1
【11】:心身医学で用いる理論と技法 2
【12】:心身医学で用いる理論と技法 3
【13】:心身医学で用いる理論と技法 4
【14】:最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献や初学者向けテキストに目を通して授業前に用語に馴染むこと、授業後に講義資料を復習し知識の整理を行うこと等を推奨する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 中間レポート:36% 授業・討論への参加態度:24% 期末レポート:40% 最終レポート割合::0%最終テスト割合::0%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

尾崎紀夫/三村將/水野 雅文/村井俊哉 標準精神医学(第7版) 医学書院 2018/2/26 9784260032469
American Psychiatric Association DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引 医学書院 2014/10/23 9784260019088
高橋茂樹 精神科(Simple Step SERIES) 海馬書房 2018/7/1 9784907921194
吉内一浩 医学のあゆみ BOOKS 今日から実践！日常診療に役立つ行動医学・心身医学アプローチ 医歯薬出版 2018/11/9 9784263206829
日本行動医学会 行動医学テキスト 中外医学社 2015/10/21 9784498048287
日本心療内科学会 心療内科学 朝倉書店 2022/6/29 9784254322651

作成:2024/10/02
科目コード:UM404

コミュニティ心理学特殊研究

Advanced Studies in Community Psychology

上田　将史(UEDA MASAFUMI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM404
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5420
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

昨今、社会の複雑化を背景に、クライエントが抱える問題も多様化、複雑化している。また、国の施策も地域包括ケアシステムや多職種連携・協働の推進に向かう中で、人と環境との適合を図るためのアプローチについて理解を深めておくことは、支援にあたる者にとって必須と言えるだろう。これに加え、コミュニティのメンタルヘルスやウェルビーイングの増進に寄与することで、公認心理師や臨床心理士の社会的意義もより高まっていくと思われる。本講義では、コミュニティ心理学の理念や発想に基づくアプローチを学び、福祉・教育・産業・医療など様々な領域での運用方法について理解を深め、上記の力を身につけることを目的とする。

As society has become more complex in recent years, the problems faced by clients have diversified and become more complex as well. Also, as government policy seeks to promote comprehensive, regional care systems and inter-professional cooperation, a deep understanding of approaches to integrating people into their environments will be necessary for those undertaking the task of psychological support. Furthermore, as certified public psychologists and certified clinical psychologists contribute to the promotion of community mental health and wellbeing, their value to society is likely to increase. In this class, students will learn about approaches that are rooted in the philosophy and ideas of community psychology, and they will deepen their understanding of methods applicable in a variety of fields including welfare, education, industry, and medicine. The goal is for students to become competent in all of the above.

授業の内容 / Course Contents

①家族関係等集団の関係性に焦点をあてた心理支援の理論と方法及び②地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について取り上げる。さらに③心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用として、さまざまな介入や多職種協働について学ぶ。活動・実践についての発表・ディスカッション、演習を通してコミュニティ心理学的なアプローチについて理解を深める。

This class will examine ① the theory and methods of psychological support focused on human relationships within groups such as families, and ② the theory and methods of psychological support applicable to regional communities and groups/organizations. Moreover, students will learn about ③ the various interventions and inter-professional cooperation that employ psychological counseling, advice, guidance, etc. to ① and ② above. Students' understanding of Community Psychology-type approaches will be enriched through presentations, discussion, and seminars regarding practical know-how and activities.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:コミュニティ心理学の理念と発想
【3】:コミュニティ心理学的アプローチの特徴①
【4】:コミュニティ心理学的アプローチの特徴②
【5】:予防的介入・心理教育

【6】:危機理論と危機介入・心理教育
【7】:地域・福祉領域におけるコミュニティ・アプローチ:発表とディスカッション
【8】:学校・教育領域におけるコミュニティ・アプローチ:発表とディスカッション
【9】:産業領域におけるコミュニティ・アプローチ:発表とディスカッション
【10】:医療・保健領域におけるコミュニティ・アプローチ:発表とディスカッション
【11】:コンサルテーション①
【12】:コンサルテーション②
【13】:サポートネットワーキング
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義内で行うワークやディスカッションに主体的に取り組むとともに、コミュニティにおける様々な問題に関心を持ち、関連資源との接点を作り、講義で学んだ観点から考察を深めていくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への取り組みとディスカッションへの参加:35% 発表準備と内容:30% 最終レポート割合::35%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

植村勝彦・高畠克子・箕口雅博・原裕視・久田満編 よくわかるコミュニティ心理学[第3版] ミネルヴァ書房 2017 9784623080915
久田満・丹羽郁夫(編) コンサルテーションとコラボレーション (コミュニティ心理学シリーズ 2巻) 金子書房 2022 9784760892785
山本和郎 危機介入とコンサルテーション ミネルヴァ書房 2000 9784623032266
氏原寛・成田善弘編 コミュニティ心理学とコンサルテーション・リエゾン 培風館 2000 9784563056254
金沢吉展編 臨床心理的コミュニティ援助論 誠信書房 2004 9784414413311
山本和郎編 臨床心理学的地域援助の展開 培風館 2001 9784563056490
中島健一編 第17巻 福祉心理学 (公認心理師の基礎と実践) 遠見書房 2018 9784866160672
その他、授業の中で適宜紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UM405

心理療法特殊研究

Advanced Studies in Psychotherapy

西谷　晋二(NISHITANI SHINJI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM405
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	PSY5420
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	集中講義　授業実施日は以下の通り 8 月 5 日(月)・6 日(火)1-5 限、7 日(水)1-4 限		

授業の目標 / Course Objectives

心理支援場面において、子どもに出会うことは少なくないが、その際、セラピストに求められるのは、大人に比べて未成熟な彼らの言語を補うかのようなイメージ表現を読み取ることである。そのため、本授業ではプレイセラピーに必要な基礎知識を学ぶだけでなく、イメージ表現に対するアプローチ方法も習得することを目標とする。

For practitioners working in the field psychological support and therapy, dealing with children is not rare. For children, in comparison to adult clients, the therapist must interpret and employ more visually-oriented types of expression to compensate for the less mature language of children. Therefore, students will not only learn the basic knowledge required to conduct “play therapy,” but will also master approaches to visually-oriented types of communication.

授業の内容 / Course Contents

プレイセラピーの歴史や概論、セラピストとして必要な姿勢などの基礎的知識だけでなく、公認心理師、臨床心理士として日々成長する子どもの心の在りように対応すべく、力動的・認知発達的視点など応用的知識についても講義を行う。

In addition to basic knowledge of play therapy such as its history, an overview of the method, and the posture that the therapist must assume, lectures will also relate the know-how that a certified public psychologist or a clinical psychologist needs to care for children. Since children mature a bit each day, support must be provided from a dynamic, cognitive development perspective.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:プレイセラピー概論①
【3】:プレイセラピー概論②
【4】:プレイセラピーとユング心理学①
【5】:プレイセラピーとユング心理学②
【6】:プレイセラピーとユング心理学③
【7】:プレイセラピーとユング心理学④
【8】:プレイセラピーにおけるイメージ体験①
【9】:プレイセラピーにおけるイメージ体験②
【10】:プレイセラピーにおける描画
【11】:プレイセラピーと児童期
【12】:プレイセラピーと思春期
【13】:プレイセラピーと発達障害
【14】:まとめ・レポート提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講師が配布する資料に関して予習・復習を行うことはもちろんのこと、適宜挙げる参考文献についても目を通すこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への参加態度:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

講師が用意・配布する資料を用いる。

参考文献 / Readings

河合隼雄 ユング心理学入門 培風館 1967 4563055115
M. スタイン ユング 心の地図(新装版) 青土社 2019 4791771583
C.G. ユング 分析心理学セミナー1925:ユング心理学のはじまり 創元社 2019 4422117084
その他、授業内で適宜挙げる。

その他 / Others

主に講師による講義形式で授業を進めるが、適宜、検討やワークを行うため、学生には主体的態度で授業に臨むことを求める。

作成:2024/10/02
科目コード:UM406

学校心理学特殊研究

Advanced Studies in School Psychology

柳　百合子(YANAGI YURIKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UM406
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5420
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学校心理学の観点から，知識や理論を理解し，現場で応用可能な技能を獲得する。学校・教育現場で有用な研究的姿勢を身に付ける。

To understand basic knowledge and theories from the perspective of school psychology, and to acquire skills that can be applied in the field. To acquire a research attitude that is useful in schools and educational settings.

授業の内容 / Course Contents

学校心理学に関する知識や理論を理解するために，事前に文献や書籍等を調べて発表する。現場で応用可能な技能を獲得するためにロールプレイを行い議論する。学校・教育現場で有用な研究的姿勢を身に付けるため論文を紹介し講義する。

To understand the basic knowledge and theories of school psychology, students will research literature and books in advance and present their findings. Role-plays will be conducted and discussed in order to acquire skills that can be applied in the field. There will be lectures and papers on how to develop research skills that will be useful in a school environment.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
イントロダクション　学校心理学とは
【2】:チーム学校
【3】:3 段階の心理教育的援助サービス
【4】:4 種類のヘルパー論，援助要請
【5】:学校現場に入るまで
【6】:初回面接
【7】:アセスメント
【8】:本人面接
【9】:保護者面接
【10】:コンサルテーション・外部連携
【11】:不登校
【12】:特別支援・発達障害・精神疾患
【13】:ストレス/アンガーマネジメント・SST・アサーショントレーニング
【14】:危機対応

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として，事前に内容に関する資料を読んできて，意見や疑問を持つこと。復習として，再度講義で学んだ理論に関する文献や資料を読むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 平常点(リアクションペーパー，授業態度，出席):40% 授業内の小テスト1回:20% 最終レポート:20% 授業内に出した課題の提出:20%

テキスト / Textbooks

水野治久・石隈利紀 よくわかる学校心理学 ミネルヴァ書房 2013 9784623063963
山口豊一・ 松嵜 くみ 学校心理学にもどづく教育相談 金子書房 2021 9784760824229
内田 利広・内田 純子 スクールカウンセラーの第一歩:学校現場への入り方から面接実施までの手引き 創元社 2011 9784422115115
半田 一郎 スクールカウンセラーと教師のための「チーム学校」入門 日本評論社 2020 9784535563858

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

積極的な授業態度，論理的な思考力，ディスカッション力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC を持ってくること

その他 / Others

・PowerPoint を用いた講義を行う。
・授業内で課すワークでは事例検討やロールプレイ等を模して行う。

作成:2024/10/02
科目コード:UN101

臨床心理学特論1

Advanced Studies in Clinical Psychology 1
技法としてのクライエント中心療法

山中　淑江(YAMANAKA YOSHIE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN101
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

カール・ロジャーズの著作の講読を通じて、カウンセリングや心理療法の過程はどのように進展し、そこで何が起きるのかを学び、治療・回復・成長などの効果を促進するものは何かについて検討し、心理臨床のさまざまな領域に通底する哲学や態度、技法を学ぶ。
By subscribing to the works of Carl Rogers, we learn how the counseling and psychotherapy process develops and what happens there, examine what facilitates the effects of treatment, recovery, and growth, and explore the psychological learn the philosophies, attitudes, and techniques that underlie various clinical areas.

授業の内容 / Course Contents

カール・ロジャーズ著「カウンセリングと心理療法―実践のための新しい概念―」を講読し、クライエント中心療法の理論を、ディスカッションによって、日常生活や自らの体験と照らし合わせて理解を深める。教育相談、学生相談、福祉、医療などの現場の特徴や、そこでクライエント中心療法をどのように生かせるかについて学ぶ。
We will read ``Counseling and Psychotherapy - New Concepts for Practice'' by Carl Rogers, and deepen their understanding of the theory of client-centered therapy by referring it to their daily lives and their own experiences through discussion. And we learn about the characteristics of educational counseling, student counseling, welfare, medical care, and other settings, and how client-centered therapy can be used in these settings.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション・発表分担
【2】:第 1 章
【3】:第 2 章
【4】:第 3 章
【5】:第 4 章
【6】:第 5 章
【7】:第 6 章
【8】:第 7 章
【9】:第 8 章
【10】:第 9 章
【11】:ハーバート・ブライアンのケース①
【12】:ハーバート・ブライアンのケース②
【13】:ハーバート・ブライアンのケース③
【14】:総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストを読んでおく。担当章を熟読して討議のポイントを用意する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%
平常点割合 :40% 発表:20% 討論:20%

テキスト / Textbooks

C.R.ロジャーズ カウンセリングと心理療法―実践のための新しい心理療法― 岩崎学術出版 2005 4753305031

参考文献 / Readings

村山正治 ロジャースをめぐって―臨床を生きる発想と方法― 混合出版 2005 4772408827

作成:2024/10/02
科目コード:UN102

臨床心理学特論2

Advanced Studies in Clinical Psychology 2
思春期・青年期の心理臨床

原　信夫(HARA SHINOBU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN102
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

思春期・青年期の心理臨床に必要となる、①発達を踏まえたアセスメント、②非言語的・イメージ的表現の理解、③家族、友人や学校など環境面の理解と対応について、演習や事例検討を通じて実践的な理解を深めることを目標とする。
As the following are essential in adolescent clinical psychology, a practical grasp of each will be cultivated through seminars and case studies: ① the assessment based on developmental stage; ② understanding non-language, visually-oriented types of expression; and ③ understanding the client's environment and dealing with his/her family, friends, and school.

授業の内容 / Course Contents

思春期・青年期の心理臨床の特徴について概観し、思春期・青年期のクライエントにおけるアセスメントと見立てについて考える。非言語的・イメージ表現については、描画、イメージ、フォーカシングなどを演習を通して学ぶ。さらに、事例を通して、上記の内容に加え、クライエントを取り巻く家族、友人、学校など環境面への対応、連携や関わりについて考える。
We will survey the characteristics and peculiarities of adolescent clinical psychology, and consider the assessment and diagnosis of adolescent clients. Non-language, visually-oriented types of expression such as drawing, impressions/imagery, focusing, etc. will be examined through seminars. Then through case studies, we will additionally consider how to deal with and cooperate with individuals in a client's environment (family, friends, and school).

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:思春期・青年期の心理臨床の概観①
【3】:思春期・青年期の心理臨床の概観②
【4】:思春期・青年期の心理アセスメント①
【5】:思春期・青年期の心理アセスメント②
【6】:思春期・青年期の心理アセスメント③
【7】:非言語的・イメージ表現の理解①
【8】:非言語的・イメージ表現の理解②
【9】:非言語的・イメージ表現の理解③
【10】:非言語的・イメージ表現の理解④
【11】:事例検討①
【12】:事例検討②
【13】:事例検討③
【14】:事例検討④

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

あらかじめ指定した配布資料や参考文献を読み、発表とディスカッションを行う。関連する書籍、文献を読み、積極的に授業に参加すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内でのディスカッション:30% 発表準備と内容:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

なし。授業内で適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UN104

臨床心理面接特論2

Advanced Studies in Psychotherapy 2
臨床心理面接の体験学習

林　もも子(HAYASHI MOMOKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN104
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学面接の体験学習により、自分自身の感受性、イメージ、応答、苦手なところなどの臨床心理実践に関わる特徴を理解する。
By experiencing clinical psychology interviews first-hand, you will come to understand the peculiarities of your own receptivity, image, responses, weak points, etc. as they relate to the practice of clinical psychology.

授業の内容 / Course Contents

いくつかの方法により、部分的に面接を体験し、グループワークなどの方法を用いて体験学習を行う。
自らの応答の特徴を理解する。
他者に対する成長促進的な関わりを学ぶ。
Experience-based learning will be conducted through a variety of methods including group work and experiencing an interview part by part.
You will come to understand the peculiarities of your own responses.
You will also learn how to encourage growth in other people.

授業計画 / Course Schedule

【1】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。
【2】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。
【3】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。
【4】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。
【5】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。
【6】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。
【7】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。
【8】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。
【9】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について

理解する。
【10】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。
【11】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。
【12】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。
【13】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の体験学習を振り返り、自己課題を明確にして次の学習の場にのぞむ。また、臨床実践と照らして自分の実践を振り返る。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 体験学習への積極的な参加:60% 他者に対する成長促進的関わり:20% 最終レポート割合::20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UN106

臨床心理査定演習2

Advanced Seminar in Personality Assessment 2
人格・行動の理解と臨床心理面接への応用

大石　幸二／笠原　千秋(OISHI KOUJI/ KASAHARA CHIAKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN106
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は次の2つである。1つは、臨床心理士ないし公認心理師が行う心理支援活動に必要な心理的アセスメントの目的や意義、方法、倫理、その観点・展開について十分に理解することである。もう1つは、その適切かつ円滑な実施およびフィードバックができ、心理支援を要するクライエントの支援に結びつけることができるようになることである。
This class has two objectives. ① Furnish sufficient understanding of the purpose, meaning, and methods of psychological assessments, the ethics surrounding them, and the further development of the above to function as a certified public psychologist or clinical psychologist. ② Train students to conduct assessments and provide feedback smoothly and appropriately, and to be able to link assessments with the psychological support provided to clients.

授業の内容 / Course Contents

授業の目標を達成するために、臨床心理査定を臨床心理面接につなぐという観点から人格検査や認知機能検査に直接触れながら、適宜事例検討を行いながら臨床心理査定の実践についても学ぶ。
To achieve the objectives of this class, students will learn the practicalities of clinical psychological assessments by examining actual cases while directly experiencing personality inventories and cognitive function tests from the viewpoint of their application in clinical psychological interviews.

授業計画 / Course Schedule

【1】:心理検査と人格理論
【2】:TEG体験
【3】:TEG事例検討
【4】:バウム体験
【5】:バウム事例検討
【6】:内田クレペリン体験
【7】:内田クレペリン事例検討
【8】:MMSEとFAB体験
【9】:MMSEとFAB事例検討
【10】:PFスタディ体験
【11】:PFスタディ事例検討
【12】:行動観察と機能分析(ゲストスピーカーによる発題と理解深化1)
【13】:臨床面接と診断理解(ゲストスピーカーによる発題と理解深化2)
【14】:心理査定と臨床面接

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

臨床心理査定を進めるためには、検査実施や所見作成の経験が必要とされる。これは授業時間ばかりでなく、授業時間外の練習と考察が欠かせない。また、そのために自分自身が心理検査を体験することが重要である。その体験にもとづいて、事例の検討を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業参加:30% 発表討論:30% 提出物:40%

テキスト / Textbooks

必要に応じて授業時に紹介を行うことで、自ら学修を深められるようにする。

参考文献 / Readings

大石幸二ほか 標準公認心理師養成テキスト 文光堂 2022 9784830636301
参考文献にて紹介した書籍に加え，必要に応じてその都度紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

心理検査、臨床心理査定、臨床心理面接に関する予備知識を必要とする。心理学関連分野の学部・学科を卒業していない場合には、これらの基礎知識について、事前に学修しておく必要がある。

その他 / Others

臨床心理査定演習2は、臨床心理士資格関連科目である。一方、公認心理師資格関連科目ではない。取り上げる検査内容や事例は、受講者の学修状況等により適宜調整を行う。なお、事例検討の際には、グループ討議と発表を行う。

作成:2024/10/02
科目コード:UN111

臨床心理基礎実習1

Basic Clinical Training 1
臨床心理士の基礎的な知識や態度の修得

林 もも子／原 信夫／松永 美希(HAYASHI MOMOKO/ HARA SHINOBU/ MATSUNAGA MIKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN111
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	CLP5110
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理士として基礎的な倫理および治療構造を理解し、学内実習施設における支援者との関りの基礎を学び、事例検討会や面接の陪席など、支援の現場に触れて支援者としての基本的な知識と態度を身につける
Understand the fundamental ethics and therapy structure applied by clinical psychologists. Then while experiencing the actual therapy environment at the on-campus training facility, they will participate in case studies, observe client interviews, and acquire the basic knowledge and attitude required of a therapist.

授業の内容 / Course Contents

講義の中で、臨床心理士の歴史と機能を学ぶ。臨床心理士の職責、すなわち、① 臨床心理士の役割 ② 臨床心理士の法的義務及び倫理 ③ 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 ④ 情報の適切な取扱い ⑤ 保健医療、福祉、教育その他の分野における臨床心理士の具体的な業務 ⑥多職種連携及び地域連携 についての基礎的な学習をする。
学内実習施設における電話受付実習を 10 時間行う。学内実習施設における面接の陪席を、事前学習、事後の振り返りを含め、6 時間行う。学内実習施設における事例検討会に 9 時間参加する。
Lectures will examine the history and function of certified clinical psychologists. Students will learn about the basic duties of certified clinical psychologists, in particular, ① their roles, ② their ethical and legal obligations, ③ maintaining the safety of clients in their care, ④ appropriate handling of information, ⑤ specific duties in healthcare, welfare, education, and other fields, and ⑥ cooperation among multiple professions and within communities.
Students will complete the following at the on-campus training facility: 10 hours of practical training in telephone reception; 6 hours observing client interviews and attending briefings and debriefings; 9 hours participating in case studies.

授業計画 / Course Schedule

【1】:臨床心理士の歴史と役割
【2】:臨床心理士の法的義務および倫理
【3】:心理に関する支援を要する者等の安全の確保・情報の適切な取り扱い
【4】:保険医療、福祉、教育その他の分野における臨床心理士の具体的な業務
【5】:多職種連携および地域連携についての基礎的な学習
【6】:学内実習施設における電話受付実習
【7】:学内実習施設における電話受付実習
【8】:学内実習施設における電話受付実習
【9】:学内実習施設における面接陪席実習
【10】:学内実習施設における面接陪席実習

【11】:学内実習施設における事例検討会への参加
【12】:学内実習施設における事例検討会への参加
【13】:学内実習施設における事例検討会への参加
【14】:振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

臨床心理士の職責、すなわち① 臨床心理士の役割 ② 臨床心理士の法的義務及び倫理 ③ 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 ④ 情報の適切な取扱い ⑤ 保健医療、福祉、教育その他の分野における臨床心理士の具体的な業務 ⑥多職種連携及び地域連携 についての基礎的な学習を予習として行う。面接の陪席をするケースについての予備学習を行う。陪席の事後学習として振り返りと自己評価を行う。事例検討会の後に、振り返る。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 講義への積極的な参加:20% 電話受付実習:20% 事例検討会の振り返り小レポート(毎回):40% 最終レポート割合::20%
講義、実習、面接陪席、事例検討会の全体を通じて、欠席が 3 分の1以上の場合には評価は不合格とする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UN131

臨床心理査定演習1(心理的アセスメントに関する理論と実践)

Seminar in Personality Assessment 1 : Psychological Assessment

山田　哲子／石川　遥至(YAMADA TETSUKO/ ISHIKAWA HARUYUKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN131
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理士ないし公認心理師として必要とされる心理的アセスメントの目的や意義，方法，倫理，その観点・展開について十分に理解し，その適切かつ円滑な実施およびフィードバックができ，心理支援を要するクライエントの支援に結びつけることができる。

Students will gain sufficient understanding of the purpose, meaning, and methods of psychological assessments, the ethics surrounding them, and the further development of the above to function as a certified public psychologist or clinical psychologist. They will also learn to conduct assessments smoothly and provide appropriate feedback, and how to link them with the psychological support provided to clients.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理査定演習1は，臨床心理士資格関連科目かつ公認心理師資格関連科目である。臨床心理査定演習1・2とも，心理査定を心理面接につなぐことが重視される。加えて，臨床心理査定演習1では，保健医療，福祉(児童・障害児者・高齢者)，教育，司法・犯罪，産業・労働領域に必要とされる心理的アセスメントの意義および心理的アセスメントに関する理論と方法を理解し，これを心理に関する相談，助言，指導等の応用するための演習・実習を行う。心理的アセスメントとして観察，面接および心理検査を取り上げ，その実施，分析，解釈および記録と報告について検討する。

Seminar in Personality Assessment 1 contains material that is required for certification as a clinical psychologist or certified public psychologist. Seminar in Personality Assessment 1 and 2 both focus on the relationships between clinical psychological assessments and client interviews. Additionally, Seminar in Personality Assessment 1 will furnish an understanding of the meaning, theory, and methods of psychological assessments that are essential to healthcare, welfare (of children, the handicapped, and the elderly), education, crime and judicial affairs, and industry and labor-related issues. Lectures and practical training regarding the application of assessments to psychological counseling, advice, and guidance within the above areas will be provided. Students will observe psychological assessments and their application to interviews and psychological examinations, consider their implementation, analyze and interpret results, and examine records and reports.

授業計画 / Course Schedule

【1】:アセスメント(意義・理論・倫理。テストバッテリー・IC・ラポールなど)
【2】:ジェノグラム(家族歴・事例・生活史など)
【3】:アナムネシス(予診，現病歴，病態水準など)
【4】:アナムネシス(記入表をもちいた事例整理，ケースフォーミュレーション)
【5】:症状理解と状態査定(CES-D，BDI-Ⅱ，MAS，STAI，GHQ など)
【6】:発達理論と発達検査(デンバー，遠城寺，津守，新版K式，KIDS)
【7】:知能定義と知能検査(ビネー，ITPA，K-ABC-Ⅱ，DAP，WAIS，WISC)
【8】:知能検査の実際(WISC の実施法 1)

【9】:知能検査の実際(WISC の実施法 2)
【10】:知能検査の実際(WISC のスコアリング)
【11】:知能検査の実際(WISC の結果分析)
【12】:知能検査の実際(ビネーVの実施法・スコアリング)
【13】:知能検査の実際(ビネーVの結果分析)
【14】:まとめ(相談・助言・指導へのアセスメントの応用)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

パーソナリティや心理アセスメントの基礎知識について復習し，理解を深めておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席と積極的な取り組みの姿勢:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

講義内で適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

講義内で適宜紹介する。

その他 / Others

演習授業であるため，積極的な授業への参加態度および取り組みの姿勢が重要となる。また，授業スケジュールは演習の進捗状況によって変更する可能性がある。

作成:2024/10/02
科目コード:UN133

臨床心理面接特論1(心理支援に関する理論と実践)

Studies in Psychotherapy 1 : Theory & Practice of Psychological Support

松永　美希／田中　佑樹(MATSUNAGA MIKI/ TANAKA YUKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN133
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義では，さまざまな心理療法の理論と方法について学ぶ。おもに認知行動療法の理論モデルや介入技法の特徴について学ぶ。また同時に，公認心理師と臨床心理士に求められる「かかわり」の基本的態度や留意点についても理解することを目的とする。

This class will deal mainly with cognitive behavioral therapyーespecially the characteristics of intervention techniques that employ it as well as a theoretical model. Along with the above, students will also gain an understanding of the basic attitude, manner, and attentiveness expected of certified clinical psychologists as they relate to clients.

授業の内容 / Course Contents

前半は，ロールプレイを通じて，臨床心理士としての「かかわり」の基本的態度を身に着けていく。また力動論やその他の心理療法の理論と方法についても解説する。後半は，認知行動療法の理論や介入技法について， 具体的な方法を学んでいく。特に基本的な介入については，事例をもとに具体的な方略を検討し，話し合いを行う予定である。 さらに，心理に関する相談，助言，指導等に，力動論，認知行動療法，その他の心理療法をどのように応用していくか，心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整についても解説する。

During the first half, students will come to understand the basic attitude and manner expected of certified clinical psychologists as they relate to clients. During the latter half, students will learn about cognitive behavioral therapy, the theory behind it, and specific intervention techniques that employ it. For basic interventions especially, the strategies used in actual cases will be examined and discussed.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション，面接の基本的態度，心理療法概論
【2】:認知行動療法の基本①　学習理論(レスポンデント，オペラント)
【3】:認知行動療法の基本②　認知理論，情動処理理論
【4】:認知行動療法の基本③　アセスメント
【5】:認知行動療法の基本④　ケース・フォーミレーション
【6】:認知行動療法の技法①　エクスポージャー，暴露反応妨害法
【7】:認知行動療法の技法②　認知再構成法
【8】:認知行動療法の技法③　機能分析と分化強化
【9】:認知行動療法の実際①　学校不適応に対する機能分析に基づく支援
【10】:認知行動療法の技法④　行動活性化療法
【11】:認知行動療法の実際②　気分障害に対する行動活性化療法を用いた支援
【12】:認知行動療法の技法⑤　アクセプタンス＆コミットメント・セラピー(ACT)
【13】:認知行動療法の実際③　身体症状を伴う問題に対する ACT を用いた支援
【14】:エビデンス・ベースト・プラクティスの展開，まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として，学術雑誌や書籍をレジュメにまとめることもある。また，それらを講義内に発表し，ディスカッションを行う場合もある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席と課題への取り組み:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

山上敏子 方法としての行動療法 金剛出版
鈴木伸一、神村栄一 実践家のための認知行動療法テクニックガイド 北大路書房
ランメロ，J 他 臨床行動分析の ABC 日本評論社
下山晴彦・神村栄一 改訂版 認知行動療法 放送大学教育振興会 9784595321818
三田村仰 はじめてまなぶ行動療法 金剛出版 9784722415729
その他は講義内に指示する。

作成:2024/10/02
科目コード:UN211

修士論文指導演習1

Supervisory Seminar for Master's Thesis 1
臨床心理学研究

林　もも子(HAYASHI MOMOKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN211
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP6110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学的に意義のある研究を行う能力を身に着ける。自分の問題関心を深め、学界に貢献するような研究を行う研究者としての基礎的な力をつける。
Participants will gain competence in conducting research that has value in the field of clinical psychology. The aims of the class are to deepen participants' interest in unanswered questions and to foster the basic skills required to conduct research that makes contributions to the field.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理学の実践や応用に貢献するような問題関心を研究テーマとして深める。各自の研究テーマに基づき、先行研究を調べ、オリジナリティのある研究を行う。研究計画や資料の収集および論文執筆における倫理的配慮についてアドバイスをする。研究の実施についてアドバイスする。
This class will cultivate interest in research themes that contribute to the practice of, and practical applications in, the field of clinical psychology. Each participant, based on his/her own chosen research theme, will survey the existing literature and then conduct original research that builds on previous results. Advice regarding research planning, collecting source material, and ethical considerations encountered when preparing research articles will be provided. Guidance for conducting the research will be provided as well.

授業計画 / Course Schedule

【1】:修士論文研究指導 1
【2】:修士論文研究指導 2
【3】:修士論文研究指導 3
【4】:修士論文研究指導 4
【5】:修士論文研究指導 5
【6】:修士論文研究指導 6
【7】:修士論文研究指導 7
【8】:修士論文研究指導 8
【9】:修士論文研究指導 9
【10】:修士論文研究指導 10
【11】:修士論文研究指導 11
【12】:修士論文研究指導 12
【13】:修士論文研究指導 13
【14】:修士論文研究指導 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自分自身の問題関心を広げる。研究テーマに関する国内外の先行研究を読み、オリジナリティがあり、学界に貢献することができる研究となるようにする。実現可能性のある研究計画を練り、予備調査などを行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 先行研究のレビュー:30% 研究計画:50% 議論への積極的参加:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

修士論文指導演習1

Supervisory Seminar for Master's Thesis 1
臨床心理学研究

逸見　敏郎(HEMMI TOSHIRO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN212
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP6110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学的に意義のある研究を行う能力を身に着ける。自分の問題関心を深め、学界に貢献するような研究を行う研究者としての基礎的な力をつける。
Participants will gain competence in conducting research that has value in the field of clinical psychology. The aims of the class are to deepen participants' interest in unanswered questions and to foster the basic skills required to conduct research that makes contributions to the field.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理学の実践や応用に貢献するような問題関心を研究テーマとして深める。各自の研究テーマに基づき、先行研究を調べ、オリジナリティのある研究を行う。研究計画や資料の収集および論文執筆における倫理的配慮についてアドバイスをする。研究の実施についてアドバイスする。
This class will cultivate interest in research themes that contribute to the practice of, and practical applications in, the field of clinical psychology. Each participant, based on his/her own chosen research theme, will survey the existing literature and then conduct original research that builds on previous results. Advice regarding research planning, collecting source material, and ethical considerations encountered when preparing research articles will be provided. Guidance for conducting the research will be provided as well.

授業計画 / Course Schedule

【1】:修士論文研究指導 1
【2】:修士論文研究指導 2
【3】:修士論文研究指導 3
【4】:修士論文研究指導 4
【5】:修士論文研究指導 5
【6】:修士論文研究指導 6
【7】:修士論文研究指導 7
【8】:修士論文研究指導 8
【9】:修士論文研究指導 9
【10】:修士論文研究指導 10
【11】:修士論文研究指導 11
【12】:修士論文研究指導 12
【13】:修士論文研究指導 13
【14】:修士論文研究指導 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自分自身の問題関心を広げる。研究テーマに関する国内外の先行研究を読み、オリジナリティがあり、学界に貢献することができる研究となるようにする。実現可能性のある研究計画を練り、予備調査などを行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 先行研究のレビュー:30% 研究計画:50% 議論への積極的参加:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UN221

修士論文指導演習2

Supervisory Seminar for Master's Thesis 2
臨床心理学研究

林　もも子(HAYASHI MOMOKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN221
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP6110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学的に意義のある修士論文を執筆し、それを発表することにより、臨床心理学の研究者としての基礎的な力をつける。
Participants will master the basic skill set required of a clinical psychology researcher by writing and presenting a master's dissertation that makes a contributes to the field.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理学領域の研究を実施し、データを取る過程で、倫理的配慮についてアドバイスする。データの統計的または質的研究方法による分析についてアドバイスする。結果に基づき、臨床心理学的な考察を進めるにあたり、論文の客観性、論理性などについてアドバイスする。臨床心理学の実践現場や研究の協力者に対する研究成果のフィードバックについてアドバイスする。修士論文の結果の発表の資料や発表の仕方などについてアドバイスする。
As each student conducts research in the field of clinical psychology, advice regarding the following issues will be provided: ethical considerations encountered during the data collection process; statistical analysis of data as well as analysis methods employed in qualitative research; the objectivity and logic of the dissertation (incorporating the student's results) as a contribution to discourse in clinical psychology; feedback to participants and collaborators at the sites of clinical practice regarding research results;　how to prepare and present material based on one's master's dissertation research results.

授業計画 / Course Schedule

【1】:修士論文研究指導 1
【2】:修士論文研究指導 2
【3】:修士論文研究指導 3
【4】:修士論文研究指導 4
【5】:修士論文研究指導 5
【6】:修士論文研究指導 6
【7】:修士論文研究指導 7
【8】:修士論文研究指導 8
【9】:修士論文研究指導 9
【10】:修士論文研究指導 10
【11】:修士論文研究指導 11
【12】:修士論文研究指導 12
【13】:修士論文研究指導 13
【14】:修士論文研究指導 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

研究計画に沿って研究調査または実験を進める。データの分析をする。結果を考察して論文を執筆する。修士論文の発表の資料を作成し、プレゼンテーションの準備をする。論文執筆後、臨床現場や研究協力者に対してフィードバックをする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UN222

修士論文指導演習2

Supervisory Seminar for Master's Thesis 2
臨床心理学研究

逸見　敏郎(HEMMI TOSHIRO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN222
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP6110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学的に意義のある修士論文を執筆し、それを発表することにより、臨床心理学の研究者としての基礎的な力をつける。
Participants will master the basic skill set required of a clinical psychology researcher by writing and presenting a master's dissertation that makes a contributes to the field.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理学領域の研究を実施し、データを取る過程で、倫理的配慮についてアドバイスする。データの統計的または質的研究方法による分析についてアドバイスする。結果に基づき、臨床心理学的な考察を進めるにあたり、論文の客観性、論理性などについてアドバイスする。臨床心理学の実践現場や研究の協力者に対する研究成果のフィードバックについてアドバイスする。修士論文の結果の発表の資料や発表の仕方などについてアドバイスする。
As each student conducts research in the field of clinical psychology, advice regarding the following issues will be provided: ethical considerations encountered during the data collection process; statistical analysis of data as well as analysis methods employed in qualitative research; the objectivity and logic of the dissertation (incorporating the student's results) as a contribution to discourse in clinical psychology; feedback to participants and collaborators at the sites of clinical practice regarding research results;　how to prepare and present material based on one's master's dissertation research results.

授業計画 / Course Schedule

【1】:修士論文研究指導 1
【2】:修士論文研究指導 2
【3】:修士論文研究指導 3
【4】:修士論文研究指導 4
【5】:修士論文研究指導 5
【6】:修士論文研究指導 6
【7】:修士論文研究指導 7
【8】:修士論文研究指導 8
【9】:修士論文研究指導 9
【10】:修士論文研究指導 10
【11】:修士論文研究指導 11
【12】:修士論文研究指導 12
【13】:修士論文研究指導 13
【14】:修士論文研究指導 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

研究計画に沿って研究調査または実験を進める。データの分析をする。結果を考察して論文を執筆する。修士論文の発表の資料を作成し、プレゼンテーションの準備をする。論文執筆後、臨床現場や研究協力者に対してフィードバックをする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UN301

臨床心理学研究法特論

Advanced Studies in Clinical Research

金　智慧(KIM JIHYE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN301
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5120
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

①質的研究法の基本的な考え方、各手法に関する基礎的な知識を得る。
②質的データの収集および分析に取り組み、質的研究法について実践的に理解する。
①Students will obtain basic concepts of qualitative research methods and basic knowledge about each method.
②Students will engage in the collection and analysis of qualitative data and gain a practical understanding of qualitative research methods.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、近年注目を集めている質的研究法について学習し、自らの研究基盤をつくることを目的とする。授業では、講義だけでなく、研究例を読み進めることで理解を深めていく。また、インタビューを実践し、質的データ収集とその分析に取り組み、実践的に学んでいく。
この授業は研究法(つまり、方法)を学ぶ授業であり、方法を実践する自分自身のスタイルを自覚する授業でもある。授業で課される宿題や、研究法の実践、分析プロセスを体験することを通じて、技法の獲得のみならず、自己への覚知を促していきたい。
In this class, students will learn about qualitative research methods, which have been attracting much attention in recent years, with the aim of creating a foundation for their own research. In the class, students will deepen their understanding not only through lectures but also through reading research examples. In addition, students will learn practically by practicing interviews and working on qualitative data collection and its analysis.
This class is a class to learn research methods (i.e., methods) and to become aware of one's own style of practicing methods. Through homework assignments, practice of research methods, and experience in the analysis process, we hope to encourage students not only to acquire techniques but also to become more self-aware.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション:臨床心理学における研究の意味
【2】:質的研究とは何か
【3】:フィールドワーク、観察法の基礎
【4】:質的研究を読む①(議論)
【5】:インタビュー法の基礎、インタビューガイドの作成①問いを立てる
【6】:インタビューガイドの作成②インタビューガイドの精緻化
【7】:質的研究を読む②(議論)
【8】:インタビューの実施とトランスクリプトの作成
【9】:質的研究を読む③(議論)
【10】:質的研究の実習①データの読み
【11】:質的研究の実習②データを分析する

【12】:質的分析の実習③モデルをまとめあげる
【13】:成果発表・講評
【14】:まとめ:質的分析の様々な方法、質的研究の質

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、前授業の学習内容を振り返ってから授業に参加すること。また、研究法に関する資料および研究論文を読み、発表と議論の準備を行う。質的研究の演習はグループで実施するため、必要に応じて授業時間外に話し合いや授業の準備を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%
平常点割合 :40% 出席および授業参加度:10% 課題提出:20% 発表:10%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

能智正博 臨床心理学を学ぶ6 質的研究法 東京大学出版会 2011 9784130151368
スタイナー・クヴァール 質的研究のための「インター・ビュー」 新曜社 2016 9784788514751
川喜田二郎 発想法ー創造性開発のために 中央公論社 1967 9784121001368
無藤隆・南博文・麻生武・やまだようこ・サトウタツヤ(編) 質的心理学ー創造的に活用するコツ 新曜社 2004 9784788509139
岩壁茂・杉浦義典(編) 臨床心理学 75(13 巻 3 号)研究の方法を知る 金剛出版 2013
丹野義彦(編) 臨床心理学全書 5 臨床心理学研究法 誠信書房 2004 9784414413250

作成:2024/10/02
科目コード:UN302

心理統計法特論1

Advanced Studies in Statistical Methods for Psychology 1

川久保　惇(KAWAKUBO ATSUSHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN302
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5220
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

心理学研究において用いられる主要なデータ解析法について，理論的な枠組みを理解する。
自分の研究領域と関心に基づく研究課題(リサーチクエスチョン)に対応したデータ分析の方法を適切に選択できるようになる。
誤用を避け，結果を適切に解釈できるよう分析方法の理論的な理解を深めつつ，具体的な分析手続を習得する。
Students will come to understand the theoretical framework behind the major data analysis methods used in psychology research.
They will then be able to select the most suitable analysis method(s) for their own respective fields and for research questions that interest them.
As they deepen their theoretical understanding of the methods, students will also practice analysis procedures using computer software, both of which will equip them to interpret results properly and avoid misuse.

授業の内容 / Course Contents

代表的なデータ解析法を取り上げ，理論的な考え方，分析手順，ソフトウェアの使い方，分析における留意点について理解を深める。

The course will cover representative data analysis methods to deepen students' understanding of theoretical concepts, analysis procedures, software usage, and points to keep in mind when analyzing data.

授業計画 / Course Schedule

【1】:導入
【2】:統計法の基礎の確認
【3】:平均値の比較①
t 検定
【4】:平均値の比較②
分散分析
【5】:χ 二乗検定
【6】:回帰分析
【7】:階層的重回帰分析と調整分析
【8】:媒介効果の分析
【9】:探索的因子分析と尺度構成
【10】:確認的因子分析
【11】:共分散構造分析(構造方程式モデリング)の基礎
【12】:共分散構造分析の実践

【13】:共分散構造分析の応用
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は，必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業内の発表:50% 授業内での取り組み:50%

テキスト / Textbooks

授業時にそれぞれのデータ解析法に応じた文献を指示する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UN307

認知心理学特論

Advanced Studies in Cognitive Psychology

木原　健(KIHARA KEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN307
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

生理心理学および精神生理学的手法を用いた認知心理学の研究について、最近の研究内容を理解して検討を加える。
This class will examine recent cognitive-psychological studies with physiological measurements.

授業の内容 / Course Contents

脳波、脳血流、眼球運動などの生理計測を用いた認知心理学的研究に関する最近の専門書から、発表者は自らの興味に従って章を選択し、内容をまとめたスライドで発表する。発表された内容は受講者全員で検討する。
発表者は、当日までに発表用のスライドを準備する。発表者以外の受講生も、発表後に十分な討論ができるよう、事前に関連文献などを予習する。発表技法や研究技法に関しては、適宜指導する。
Based on their own interests, students choose a chapter in a recent book introducing cognitive-psychological studies with physiological measurements, such as electroencephalogram, brain blood flow, and eye movements, for presentation. Presented material then be discussed and debated by the whole class.
The presenter(s) prepare a slide for the presentation. Students who are not presenting are also expected to investigate relevant literature in advance and contribute to the discussion. Guidance regarding presentation and research techniques will be provided as necessary.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクションおよび発表内容の決定 / Introduction and determination of presentation contents
【2】:スライド発表と討論(1)/ Slide presentation and discussion (1)
【3】:スライド発表と討論(2)/ Slide presentation and discussion (2)
【4】:スライド発表と討論(3)/ Slide presentation and discussion (3)
【5】:スライド発表と討論(4)/ Slide presentation and discussion (4)
【6】:スライド発表と討論(5)/ Slide presentation and discussion (5)
【7】:スライド発表と討論(6)/ Slide presentation and discussion (6)
【8】:スライド発表と討論(7)/ Slide presentation and discussion (7)
【9】:スライド発表と討論(8)/ Slide presentation and discussion (8)
【10】:スライド発表と討論(9)/ Slide presentation and discussion (9)
【11】:スライド発表と討論(10)/ Slide presentation and discussion (10)
【12】:スライド発表と討論(11)/ Slide presentation and discussion (11)
【13】:スライド発表と討論(12)/ Slide presentation and discussion (12)
【14】:スライド発表と討論(13)/ Slide presentation and discussion (13)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習が必要な場合はその都度指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容と発表技量:50% 議論への参加と出席:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本生理心理学会(企画)堀忠雄・尾崎久記(監修)室橋春光・苧阪満里子(編集) 生理心理学と精神生理学 第Ⅲ巻 展開 北大路書房 2018 9784762830198

作成:2024/10/02
科目コード:UN308

社会心理学特論

Advanced Studies in Social Psychology

石黒　格(ISHIGURO ITARU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN308
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5420
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生の研究関心に合わせた英字文献を講読し、各自の研究の推進に貢献する。
In this course, students will read English articles following their research interests to make progress in their research.

授業の内容 / Course Contents

現代人の社会関係に関わる文献、特にソーシャル・メディアとの関係に関わる文献を提案しますが、履修者各自が、自らの研究関心に合わせて文献を持ち寄ることを推奨します。一人で読むのは難解だと感じる文献を、誰かと一緒に読むというかたちで利用してかまいません。
The instructor suggests articles and books regarding social relationships and the impacts of social media on the social relationships. However, students will be strongly recommended to suggest other articles that they consider important for their research.

授業計画 / Course Schedule

【1】:The bright and dark sides of social media use during COVID-19 lockdown
【2】:Quantifying gender preferences in human social interactions using a large cellphone dataset
【3】:“Defriending” in a polarized age: Political and racial homophily and tie dissolution
【4】:Facebook Social Use and Anxiety: A replication attempt
【5】:Activity in social media and intimacy in social relationships
【6】:The effect of social networking websites on positive self-views: An experimental investigation.
【7】:Social comparison on Facebook: Motivation, affective consequences, self-esteem, and Facebook fatigue
【8】:Longitudinal analyses of the effects of age, marriage, and parenthood on social contacts and support
【9】:Twitter versus Facebook: Exploring the role of narcissism in the motives and usage of different social media platforms
【10】:学生提案文献
【11】:学生提案文献
【12】:学生提案文献
【13】:学生提案文献
【14】:学生提案文献

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自で文献の探索と講読を行う。単に1つの文献を見つけて発表するのではなく、複数の文献を読んだ上で、特に面白い、あるいは重要なものを発表するのが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:60% 議論への貢献:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UN309

組織心理学特論

Advanced Studies in Organizational Psychology
PRE-SUASION

小口　孝司(OGUCHI TAKASHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN309
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5420
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

産業・組織心理学に密接に関わる下記のテキストを用いて、pre-suasion について考察を深め、以て各自の研究への応用を図る。さらに、研究に対する批判力と、研究を大局的な視点から評価する力を養う。また、研究についてのディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につける。
The concept of “pre-suasion” which is closely related to Industrial/Organizational psychology will be examined while referring to the below text. Students will seek applications to their research. They will improve their ability to evaluate research critically and take a global view of it. In addition, students will hone their discussion and presentation skills.

授業の内容 / Course Contents

Robert Cialdini 教授による古典的名著とされる“Influence”が上梓されてから、30 年以上が経ている。それは如何に人を動かすかの原理、原則を解説したものである。彼が他人を動かすための前準備のテクニックについて解説したものが、この“Pre-suasion”である。Pre-suasion とは、pre(前)と suasion(勧告・説得)を合わせた Cialdini 教授による造語である。本書を輪読する。その際、担当者は、各章(節)を担当して解説する。さらにその章で紹介されている研究の中で、担当者が最も興味深かったと思う研究論文についても調べ、併せてその概要を紹介する。その後受講生の間で議論をして理解を深めるとともに、各人の研究テーマとの関連性を考究していく。
More than 30 years have passed since Professor Robert Cialdini published his classic book Influence. In it, he explained the theory and principles at play when convincing or getting a person to do something. Then in his book Pre-suasion, he elucidated the technique involved in preparing a person in advance to persuade more easily. Professor Cialdini coined the term “pre-suasion” by combining “pre″ (i.e., in advance) with “-suasion” (from “persuasion”). The chapters of Professor Cialdini’s book will be divided among the registered students. Each student will be responsible for understanding and explaining his/her assigned section. Within that section, the student should select the research that interested him/her the most, find other related articles, and present a summary. Through discussion and debate, the class will further deepen their understanding of the material and examine its relevance to each student’s research.

授業計画 / Course Schedule

【1】:導入
【2】:担当章(節)の決定
【3】:Previleged moments
【4】:The importance of attention
【5】:What’s focal is causal
【6】:Commanders of attention
【7】:The primacy of associations
【8】:Persuasive geographies

【9】:The mechanics of pre-suasion
【10】:Six main roads to change
【11】:Being together
【12】:Acting together
【13】:Ethical use
【14】:Post-suasion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

下記のテキストを輪読する。その際、担当者を各章(あるいは各節)ごとに決める。担当者は、レジュメを作成して、受講者全員に配布する。レジュメには章の要約とそこに示されている1つの研究の要約も記載すること。レジュメに基づいて発表を行った後、全員で討論を行う。自分の担当章(節)以外の部分にも目を通しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 担当発表:50% 討論への参加:50%

テキスト / Textbooks

Cialdini, R. Pre-suasion Simons & Schuster 2016 978501109799

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

心理学科を卒業程度の心理学的基礎知識、ならびに統計学の知識を有し、活用していることが求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

作成:2024/10/02
科目コード:UN316

臨床心理学特殊研究2

Advanced Studies in Counseling 2
投影法心理検査の臨床的活用方法を学ぶ

糸井　岳史(ITOI TAKESHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN316
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

心理アセスメントにおける投影法検査の使い方を学ぶこと。
・Learn the usage methods of projective tests in psychological assessments

授業の内容 / Course Contents

本講義では，心理アセスメントにおいて，投影法検査(ロールシャッハ・テスト，描画検査，など)をどのように活用するのかについて学びます。
特に，投影法心理検査の，施行法，採点法，解釈法，について学びます。
・Class contents: In this course, students will learn how to use projective psychological tests (Rorschach test, drawing test, etc.) in psychological assessments. Especially this course will focus on how to implement, score, and interpret projective psychological tests.

授業計画 / Course Schedule

【1】:公認心理師，臨床心理士の実践における心理アセスメントの意義
【2】:心理的アセスメントに関する理論と方法
【3】:描画検査演習 1
【4】:描画検査演習 2
【5】:ロールシャッハ・テスト講義 1
【6】:ロールシャッハ・テスト講義 2
【7】:ロールシャッハ・テスト講義 3
【8】:ロールシャッハ・テスト講義 4
【9】:ロールシャッハ・テスト演習 1
【10】:ロールシャッハ・テスト演習 2
【11】:ロールシャッハ・テスト演習 3
【12】:ロールシャッハ・テスト演習 4
【13】:ロールシャッハ・テスト演習 5
【14】:心理に関する相談，助言，指導等への応用

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

・講義内で関心を抱いた内容について，講義で紹介した書籍や論文を読まれることをお勧めしたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UN317

臨床心理学特殊研究3

Advanced Studies in Counseling 3

西谷　晋二(NISHITANI SHINJI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN317
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	集中講義　授業実施日は以下の通り 8 月 5 日(月)・6 日(火)1-5 限、7 日(水)1-4 限		

授業の目標 / Course Objectives

心理支援場面において、子どもに出会うことは少なくないが、その際、セラピストに求められるのは、大人に比べて未成熟な彼らの言語を補うかのようなイメージ表現を読み取ることである。そのため、本授業ではプレイセラピーに必要な基礎知識を学ぶだけでなく、イメージ表現に対するアプローチ方法も習得することを目標とする。

For practitioners working in the field psychological support and therapy, dealing with children is not rare. For children, in comparison to adult clients, the therapist must interpret and employ more visually-oriented types of expression to compensate for the less mature language of children. Therefore, students will not only learn the basic knowledge required to conduct “play therapy,” but will also master approaches to visually-oriented types of communication.

授業の内容 / Course Contents

プレイセラピーの歴史や概論、セラピストとして必要な姿勢などの基礎的知識だけでなく、公認心理師、臨床心理士として日々成長する子どもの心の在りように対応すべく、力動的・認知発達的視点など応用的知識についても講義を行う。

In addition to basic knowledge of play therapy such as its history, an overview of the method, and the posture that the therapist must assume, lectures will also relate the know-how that a certified public psychologist or a clinical psychologist needs to care for children. Since children mature a bit each day, support must be provided from a dynamic, cognitive development perspective.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:プレイセラピー概論①
【3】:プレイセラピー概論②
【4】:プレイセラピーとユング心理学①
【5】:プレイセラピーとユング心理学②
【6】:プレイセラピーとユング心理学③
【7】:プレイセラピーとユング心理学④
【8】:プレイセラピーにおけるイメージ体験①
【9】:プレイセラピーにおけるイメージ体験②
【10】:プレイセラピーにおける描画
【11】:プレイセラピーと児童期
【12】:プレイセラピーと思春期
【13】:プレイセラピーと発達障害
【14】:まとめ・レポート提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講師が配布する資料に関して予習・復習を行うことはもちろんのこと、適宜挙げる参考文献についても目を通すこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への参加態度:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

講師が用意・配布する資料を用いる。

参考文献 / Readings

河合隼雄 ユング心理学入門 培風館 1967 4563055115
M. スタイン ユング 心の地図(新装版) 青土社 2019 4791771583
C.G. ユング 分析心理学セミナー1925:ユング心理学のはじまり 創元社 2019 4422117084
その他、授業内で適宜挙げる。

その他 / Others

主に講師による講義形式で授業を進めるが、適宜、検討やワークを行うため、学生には主体的態度で授業に臨むことを求める。

作成:2024/10/02
科目コード:UN321

精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)

Advanced Studies in Psychiatry : Medical & Health Area

松永　美希(MATSUNAGA MIKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN321
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5520
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

保健医療分野に関わる公認心理師に必要な精神医学・心身医学の基本的な知識を身につける。
Students will master the fundamentals of psychiatry and psychosomatic medicine to the extent required of licensed psychologists in health care services.

授業の内容 / Course Contents

主要な精神疾患の病態・症状・治療法等について、医師の視点から講義を行う。本年度は心身医学特論が開講されないため、この授業では心身医学で用いる理論と技法、心身症の評価・治療方法についても扱う。
Lectures will be given on pathophysiology, symptoms, and treatment of major psychiatric disorders from the clinicians' point of view. This class will cover theories and techniques in psychosomatic medicine and how to assess and treat psychosomatic disorders since the special lecture on psychosomatic medicine will not be offered this year.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション、精神医学総論
【2】:気分障害
【3】:統合失調症
【4】:強迫症、不安症
【5】:摂食障害
【6】:自閉スペクトラム症
【7】:注意欠陥・多動性障害
【8】:心的外傷後およびストレス因関連障害、パーソナリティ障害
【9】:中間まとめ
【10】:心身医学とは、心身医学で用いる理論と技法 1
【11】:心身医学で用いる理論と技法 2
【12】:心身医学で用いる理論と技法 3
【13】:心身医学で用いる理論と技法 4
【14】:最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献や初学者向けテキストに目を通して授業前に用語に馴染むこと、授業後に講義資料を復習し知識の整理を行うこと等を推奨する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 中間レポート:36% 授業・討論への参加態度:24% 期末レポート:40% 最終レポート割合::0%最終テスト割合::0%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

尾崎紀夫/三村將/水野 雅文/村井俊哉 標準精神医学(第7版) 医学書院 2018/2/26 9784260032469
American Psychiatric Association DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引 医学書院 2014/10/23 9784260019088
高橋茂樹 精神科(Simple Step SERIES) 海馬書房 2018/7/1 9784907921194
吉内一浩 医学のあゆみ BOOKS 今日から実践！日常診療に役立つ行動医学・心身医学アプローチ 医歯薬出版 2018/11/9 9784263206829
日本行動医学会 行動医学テキスト 中外医学社 2015/10/21 9784498048287
日本心療内科学会 心療内科学 朝倉書店 2022/6/29 9784254322651

作成:2024/10/02
科目コード:UN322

心身医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)

Advanced Studies in Psychosomatic Medicine : Medical & Health Area

山中　結加里／野原　伸展(YAMANAKA YUKARI/ NOHARA NOBUHIRO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN322
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5520
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

保健医療分野に関わる公認心理師に必要な心身医学・精神医学の基本的な知識を身につける。
Students will master the fundamentals of psychosomatic medicine and psychiatry to the extent required of licensed psychologists in health care service.

授業の内容 / Course Contents

各領域において心身医学がどのように実践されているのかについて、医師の視点を交え実臨床に関連づけながら講義を行う。本年度は精神医学特論が開講されないため、この授業では頻度の高い精神疾患の概要についても扱う。
Lectures will be given on how psychosomatic medicine is practiced in various fields from the viewpoints of clinicians. This class will also cover common mental disorders because the special seminar on psychiatry will not be offered this year.

授業計画 / Course Schedule

【1】:心身医学総論・オリエンテーション
【2】:心身医学・行動医学で用いる理論と技法 1
【3】:心身医学・行動医学で用いる理論と技法 2
【4】:心身医学・行動医学で用いる理論と技法 3
【5】:心身医学・行動医学で用いる理論と技法 4
【6】:中間テスト
【7】:うつ病
【8】:双極性障害
【9】:統合失調症
【10】:摂食障害
【11】:不安症、強迫症
【12】:自閉スペクトラム症
【13】:注意欠如・多動症
【14】:最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習は必須ではない。講義内で扱う疾患については適宜説明を加えながら講義を行うため、専門的な知識は必要としない。参考文献や初学者向けテキストに目を通し、授業前に用語に馴染むことや授業後に知識の整理を行うことを推奨する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト:30% 中間テスト:30% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

吉内一浩 医学のあゆみ BOOKS 今日から実践！日常診療に役立つ行動医学・心身医学アプローチ 医歯薬出版 2018 9784263206829

参考文献 / Readings

日本行動医学会 行動医学テキスト第 2 版 中外医学社 2023 9784498048294

リッカルド・ダッレ・グラーヴェ他(著)吉内一浩、山内敏正(監訳) CBT-OB 肥満に対する認知行動療法マニュアル:一人ひとりに合わせた治療のために 金子書房 2019 9784760832781

尾崎紀夫/三村將/水野 雅文/村井俊哉 標準精神医学(第 8 版) 医学書院 2021 9784260042918

American Psychiatric Association DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引 医学書院 2014 9784260019088

高橋茂樹 New Simple Step 精神科 総合医学社 2020 9784883787173

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義資料は事前にデータで配布し、紙での配布は行いません。資料をダウンロードした PC やタブレット端末等を持参するか、各自印刷した物を持参してください。

作成:2024/10/02
科目コード:UN323

障害児・者心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)

Studies in Psychology of Persons with Disabilities : Socal Wellfare Area
発達障害を手がかりとした障害, 人権理念および支援制度の理解と心理支援

山崎　晃史(YAMAZAKI KOUJI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN323
授業形態	オンデマンド(全回オンデマンド)	授業形態(補足事項)	9 月 20 日(金)に初回授業を配信し, 以降毎金曜日に学年歴に従い 14 回配信する。(休講日、休暇期間の配信はない)
校地	新座	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	CLP5520
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

福祉分野に関わる公認心理師の実践として障害(特に発達障害)をもつ児童や人の心理社会的課題を理解する。その支援と方法について保健, 医療, 福祉, 教育の諸制度をふまえながら実践できる力量を身につける。共生する社会の実現を念頭に, 多職種連携協働(IPW)による支援のあり方を具体的に理解する。
As practicing of Certified Public Psychologists involved in the field of social welfare, students will gain an understanding of the psychosocial issues surrounding children and adults with disabilities (especially those with developmental disorders).While acquiring a full understanding of the healthcare, medical, welfare, and educational institutions involved, they will gain competence in support procedures and in the actual support of such people. Always bearing in mind the end goal of coexistence within society, they will also come to understand in detail how support is provided through interprofessional working (IPW).

授業の内容 / Course Contents

リアクションや質問に応答しながら講義を進める。
まず, 1)障害を理解する諸視点を学び, 2)ノーマライゼーションやインクルージョンといった人権理念の展開と現状を取り上げる。そして, 3)ケアマネジメントや多職種連携協働(IPW)の手法を学び, 4)制度や社会資源の全容を把握しながら, 5)発達障害を手がかりにライフサイクルに沿った心理支援の実際に触れる。また, 6)発達障害領域の心理支援のトピックスを取り上げる。
なお本授業では, 福祉分野に関わる公認心理師のあり方を具体的に考察していく。
The lecture will proceed by responding to reactions and questions.
After first (1) considering a variety of perspectives on the understanding of disease, we will (2) examine “normalization” and “inclusion” as human rights, as well as their expansion and current status. We will then (3) cover techniques for care management and interprofessional working (IPW), (4) grasp the “big picture” of societal resources and institutions, and (5) touch upon the realities of providing psychological support at key points during the life cycles of the developmentally disabled. Finally, we will (6) deal with some topics in the area of psychological support to the developmentally disabled.
Moreover, this class will consider the actual duties of certified public psychologists who work in the field of welfare.

授業計画 / Course Schedule

【1】:【障害をもつ児者の支援の核にあるもの】
滝乃川学園創始者石井亮一の生涯を紹介し支援を支える価値観を考える。

授業期間中に課す調べ学習について説明する。
【2】:【障害観の変容】
ノーマライゼーションおよびインクルージョンが障害領域の中心理念となったこと，障害の捉え方が社会モデルを取り入れたもの（国際生活機能分類など）になったことを理解する。合理的配慮の考え方についても触れる。
【3】:【障害福祉における「生活のしづらさ」という視点】
障害福祉領域における心理支援を生活臨床の一環と捉え，「生活や学びのしづらさ」に応えていく実際を事例に基づき理解する。心理支援とソーシャルワークがそれぞれ独自性を保ちながらも融合する実態を確認する。
【4】:【連携とは何か】
障害福祉は連携と協働によって成り立つこと，それは役割分担をし，他機関にリファーすること以上の重要なテーマ（＝支援が行き届かない領域を無くすこと）を抱えていることを理解する。関連してケアマネジメントおよび専門職連携協働の考え方に触れる。
【5】:【障害福祉の制度】
幸せな生活を支えるしくみとしての障害福祉は，さまざまな場面を想定した多様なサービスから成り立っていることを理解する。
【6】:【障害の原因理解をめぐる議論】
発達障害や精神障害の多くが脳の機能障害とされているそのことをあらためて考える。人との関係性を含めた環境要因の重要性と障害理解におけるその位置づけを理解する。
【7】:【中間まとめ】
リアクションや質問に応じてここまでの授業を補足するとともに，必要に応じて障害福祉を巡る時事的な話題に触れる。
【8】:【初期支援における心理支援】
乳幼児期の支援の全体像と，公認心理師の役割について理解する。
【9】:【インクルーシブ保育】
インクルーシブな保育の実際を視聴覚教材で確認しながら，育ち合う保育の意義を理解する。
【10】:【障害児教育の歴史に学ぶ】
イタール，セガン，モンテッソーリなどの先人が切り開いた感覚教育，自発性の教育の姿から，児童期の支援に必要な視点を理解する。
【11】:【発達支援の諸方法の活用】
認知発達治療，応用行動分析，構造化，ペアレントトレーニングなどのいわゆる「療育」を公認心理師はどのように用いるべきなのか，臨床の場を想定しながら考える。
【12】:【インクルーシブ教育】
インクルーシブ教育の理念，実際，課題を理解する。インクルーシブ教育の実際を記録した番組動画を参照する。
【13】:【成人期の支援】
障害を持つ方々の生活とその支援の実際を取り上げる。就労支援の実際についても触れる。
【14】:【さまざまな課題と当事者からのメッセージ】
障害領域を巡るさまざまな課題を取り上げ，当事者からのメッセージを紹介する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ（ﾊﾟﾜﾎﾟ等）の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容に対応したテキスト箇所をよく読み込むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業各回リアクション:40% 調べ学習報告:30% レポート:30%

テキスト / Textbooks

大石幸二監修・山崎晃史編著 公認心理師・臨床心理士のための発達障害論 学苑社 2019 9784761408046

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

発達障害の診断と支援について基礎的なことがらを理解していること。

その他 / Others

公認心理師を目指している院生向けに内容を構成します。障害福祉領域での支援はどうあるべきかという倫理的な視点を提供すると共に，公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として医療，福祉のなかで業務を行ってきた経験からの

話をみなさんに語ります。

作成:2024/10/02
科目コード:UN324

発達心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)

Advanced Studies in Developmental Psychology : Socal Wellfare Area

ユ, リラ(YU LIRA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN324
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

発達心理学と関連する研究トピックスについて発表しながら学ぶことで、胎児期から老年期までのヒト特有の行動と心の発達に関する発展的知識を身につける。

By presenting research topics in Developmental Science, students will acquire advanced knowledge on the development of human-unique behavior and mind from fetal period to late adulthood.

授業の内容 / Course Contents

指定した参考文献の中からそれぞれ担当する「発達段階」を選択し、順番に発表を行う。参加者は、発表担当者が担当する発達段階の特徴について予習レポートを作成することで、能動的に学び、積極的に議論を行うことが求められる。

Each student will give a presentation in turn by choosing one of the "Developmental stages" from the designated references. All students are expected to prepare a preliminary report in advance and actively participate in the discussion.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス・発表担当者および順番の割り当て
【2】:胎児期
【3】:新生児期
【4】:乳児期Ⅰ
【5】:乳児期Ⅱ
【6】:幼児期Ⅰ
【7】:幼児期Ⅱ
【8】:児童期
【9】:思春期
【10】:成人初期・中期
【11】:成人後期・老年期
【12】:非定型発達Ⅰ
【13】:非定型発達Ⅱ
【14】:比較認知発達

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習レポートの作成、発表担当回の事前準備、授業後のレポート作成、授業最終回後の総括レポート作成を求める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表担当回の発表内容:30% 予習・事後レポート:30% 議論への参加:20% 最終レポート割合::20%

テキスト / Textbooks

特に無し。必要であれば授業内で適宜紹介する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜配布する。

作成:2024/10/02
科目コード:UN325

臨床心理学特殊研究5(教育分野に関する理論と支援の展開)

Advanced Studies in Counseling 5 in Educational Area

柳　百合子(YANAGI YURIKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN325
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学校心理学の観点から，知識や理論を理解し，現場で応用可能な技能を獲得する。学校・教育現場で有用な研究的姿勢を身に付ける。

To understand basic knowledge and theories from the perspective of school psychology, and to acquire skills that can be applied in the field. To acquire a research attitude that is useful in schools and educational settings.

授業の内容 / Course Contents

学校心理学に関する知識や理論を理解するために，事前に文献や書籍等を調べて発表する。現場で応用可能な技能を獲得するためにロールプレイを行い議論する。学校・教育現場で有用な研究的姿勢を身に付けるため論文を紹介し講義する。

To understand the basic knowledge and theories of school psychology, students will research literature and books in advance and present their findings. Role-plays will be conducted and discussed in order to acquire skills that can be applied in the field. There will be lectures and papers on how to develop research skills that will be useful in a school environment.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
イントロダクション　学校心理学とは
【2】:チーム学校
【3】:3 段階の心理教育的援助サービス
【4】:4 種類のヘルパー論，援助要請
【5】:学校現場に入るまで
【6】:初回面接
【7】:アセスメント
【8】:本人面接
【9】:保護者面接
【10】:コンサルテーション・外部連携
【11】:不登校
【12】:特別支援・発達障害・精神疾患
【13】:ストレス/アンガーマネジメント・SST・アサーショントレーニング
【14】:危機対応

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として，事前に内容に関する資料を読んできて，意見や疑問を持つこと。復習として，再度講義で学んだ理論に関する文献や資料を読むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 平常点(リアクションペーパー，授業態度，出席):40% 授業内の小テスト1回:20% 最終レポート:20% 授業内に出した課題の提出:20%

テキスト / Textbooks

水野治久・石隈利紀 よくわかる学校心理学 ミネルヴァ書房 2013 9784623063963
山口豊一・ 松嵜 くみ 学校心理学にもどづく教育相談 金子書房 2021 9784760824229
内田 利広・内田 純子 スクールカウンセラーの第一歩:学校現場への入り方から面接実施までの手引き 創元社 2011 9784422115115
半田 一郎 スクールカウンセラーと教師のための「チーム学校」入門 日本評論社 2020 9784535563858

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

積極的な授業態度，論理的な思考力，ディスカッション力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC を持ってくること

その他 / Others

・PowerPoint を用いた講義を行う。
・授業内で課すワークでは事例検討やロールプレイ等を模して行う。

作成:2024/10/02
科目コード:UN326

社会病理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)

Advanced Studies in Social Pathology : Forensics & Criminology Area

相良　翔(SAGARA SHO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN326
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	各回の内容に合わせたグループディスカッションを行います。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5520
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

公認心理師および臨床心理士が司法・犯罪分野において必要な理論および支援方法について、専門的に学習していく。

Students will professionally learn the advanced theories and support methods in the field of criminal justice and criminology.

授業の内容 / Course Contents

犯罪・非行の発生要因や司法・犯罪分野における支援に関する基礎的および先端的文献を輪読し、その内容に対するディスカッションなどを通じて学ぶ。

After reading basic and advanced literature on the psychological and sociological study in the field of criminal justice and criminology, students will master the material through discussion and other methods.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
【3】:犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
【4】:犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
【5】:犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
【6】:犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
【7】:犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
【8】:犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
【9】:犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
【10】:犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
【11】:犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
【12】:犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
【13】:犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

※前半は教科書指定した文献の輪読を行います。
※後半は学会誌に掲載された論文の輪読を行います。
※司法・犯罪分野で実務経験実がある方をゲストスピーカーとして招聘することがあります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業参加に向けての準備状況・授業への参加態度・ディスカッションへの参加:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

岡本英生, 松原英世, 岡邊健編著『犯罪学リテラシー』法律文化社 2017 9784589038616
ティム・ニューバーン『犯罪の科学』ニュートンプレス 2022 9784315525366

参考文献 / Readings

藤岡順子『犯罪・非行の心理学』有斐閣 2007
その他、適宜指示をする。

作成:2024/10/02
科目コード:UN327

産業・労働分野に関する理論と支援の展開

Support Theory & Applications in Industry & Work Area
産業・労働分野で求められている心理職の基礎知識

緒方　一子(OGATA ICHIKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN327
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5520
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

産業・労働分野に関わる公認心理師の実践について理論と支援の展開を理解することを目標とする。
産業領域で活動する心の専門家としてメンタルヘルスの諸問題を始め、心理臨床に関する包括的な知識を習得し実践に活かせるようにする。また、キャリア発達の視点から働く人の心の問題を理解し、現実的な問題に対応できるような柔軟性も養いたい。
The purpose of this class is to understand the theories put into practice by certified public psychologists in the industry and work area and how to develop support.
This class will provide students with a comprehensive range of clinical psychology knowledge, beginning with the variety of mental health problems encountered by psychologists who specialize in helping people engaged in industry, and will enable them to put it into practice. Students will come to understand the problems that can occur in the minds of working people focused on career advancement, thereby nurturing their flexibility in handling real-life issues.

授業の内容 / Course Contents

産業・労働分野における公認心理師の心理支援の特徴は実践的内容の多様性にある。そのため授業内容は以下の通り多方面から学ぶことにする。
テキスト、参考資料を活用した授業を踏まえて、事前学習、グループ・ディスカッション、ロールプレイ、キャリア・インタビューなど演習を多く取り入れる。
学外での授業として企業を訪れて働く人に触れて、職種独特の問題やストレス、人間関係、キャリア問題などについて検討し、その対応や対策について討議を行う。
さらに、その企業に対して公認心理師として提案できるメンタルヘルスプログラムを作成しコンペを行う。
The characteristics of the psychological support provided by certified public psychologists in the industry and work areas entails diverse practices. Therefore, this class includes many learning methods, as follows.
・A text and reference materials will be studied in classes that will then provide a base from which students prepare for a variety of activities in seminars. These will include group discussion, role playing, career interviews, and more.
・Some class sessions will be spent making off-campus visits to corporations getting first hand contact with working people. Students will examine what kind of stress is inherent to that particular job, as well as human relations and problems with career advancement and will then discuss and debate about how to deal with these issues and implement countermeasures.
・Students will then make a mental health plan that a certified public psychologist could propose to the visited workplace which will be presented to the class in a competition.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

授業の進め方、産業・労働分野の全体像について希望や期待することについて共有する。
【2】:職場のメンタルヘルス
産業心理臨床実践において心の専門家が出会う法律や指針(ハラスメントによる精神障害の発症、それらに伴う労災申請と民事訴訟の事例)。
【3】:職場のメンタルヘルス
働く人と関係の深い精神疾患とメンタルヘルス不調のアセスメント(うつ病、アルコール依存症、適応障害、睡眠障害等)それに伴う対応。
【4】:心理職の活動の現状
職場の対人支援の諸業務(企業内相談室の実際)。
【5】:働くということ
労働の苦しみと喜び(課題の発表　PartⅠ)。
【6】:働くということ
労働の苦しみと喜び(課題の発表　PartⅡ)。
【7】:産業・労働分野における実践Ⅰ
体験を通して働く人の諸問題を理解する(学外授業)。
【8】:産業・労働分野の連携
心理支援の多様性と事業所内外からの支援、EAP、危機介入。
【9】:働く人のキャリア・デザイン
自分らしいキャリア・デザインについて(キャリア・コラージュを活用して)。
【10】:キャリア・カウンセリング(キャリア・インタビュー　PartⅠ)
事前に提示する課題を踏まえてキャリア・インタビューを実施し発表する。
【11】:キャリア・カウンセリング(キャリア・インタビュー　PartⅡ)
事前に提示する課題を踏まえてキャリア・インタビューを実施し発表する。
【12】:産業・労働分野における実践Ⅱ
外部講師による授業(社会は心理師に何を期待しているのか?＜仮称＞)。
【13】:メンタルヘルス・ケアプランの提案　(PartⅠ)
EAP 会社に勤務する公認心理師として、契約企業に対して効果・効率の良い心理支援プランを作成して提案する。
【14】:メンタルヘルス・ケアプランの提案　(PartⅡ)
EAP 会社に勤務する公認心理師として、契約企業に対して効果・効率の良い心理支援プランを作成して提案する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

①「仕事が人を作る」を購読(購入困難な場合には事前にコピーを配布)し担当パートについてレポートを作成する。
②キャリア・インタビューは協力してくれる身近な働く人(可能な限り家族)を確保し依頼する。
③事前課題を参考に1時間のキャリア・インタビューをしてレポートを作成する。
④メンタルヘルスプランの発表はパワーポイントを使用して行う。約 10 分の提案するプランを作成する。
⑤授業ではグループやメンバーからのソーシャルな学びを重視しているため積極的な参加を期待している。
⑥学外授業を 1 回実施する。詳細はオリエンテーションで示す。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合　:100%　「仕事が人をつくる」の事前学習と発表:20%　キャリア・インタビューの実施と発表:25%　メンタルヘルスプランの企画とプレゼンテーション:25%　授業への能動的行動とアクティブな学び及び検討などへの参加:30%

テキスト / Textbooks

小関智弘　仕事が人をつくる　岩波書店　2001

参考文献 / Readings

金井　篤子　産業心理臨床　ナカニシヤ書店　2016
野島　一彦、平木　典子、松本　圭樹　公認心理師テキスト　産業労働分野　理論と支援の展開　創元社　2019
木村　周、下村　英雄　キャリアコンサルティング　理論と実際　第 6 訂版　一般社団法人　雇用問題研究会　2022

作成:2024/10/02
科目コード:UN329

コミュニティ・アプローチ特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)

Studies in Community Psychology for Family, Group, & Community

上田　将史(UEDA MASAFUMI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN329
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

昨今、社会の複雑化を背景に、クライエントが抱える問題も多様化、複雑化している。また、国の施策も地域包括ケアシステムや多職種連携・協働の推進に向かう中で、人と環境との適合を図るためのアプローチについて理解を深めておくことは、支援にあたる者にとって必須と言えるだろう。これに加え、コミュニティのメンタルヘルスやウェルビーイングの増進に寄与することで、公認心理師や臨床心理士の社会的意義もより高まっていくと思われる。本講義では、コミュニティ心理学の理念や発想に基づくアプローチを学び、福祉・教育・産業・医療など様々な領域での運用方法について理解を深め、上記の力を身につけることを目的とする。

As society has become more complex in recent years, the problems faced by clients have diversified and become more complex as well. Also, as government policy seeks to promote comprehensive, regional care systems and inter-professional cooperation, a deep understanding of approaches to integrating people into their environments will be necessary for those undertaking the task of psychological support. Furthermore, as certified public psychologists and certified clinical psychologists contribute to the promotion of community mental health and wellbeing, their value to society is likely to increase. In this class, students will learn about approaches that are rooted in the philosophy and ideas of community psychology, and they will deepen their understanding of methods applicable in a variety of fields including welfare, education, industry, and medicine. The goal is for students to become competent in all of the above.

授業の内容 / Course Contents

①家族関係等集団の関係性に焦点をあてた心理支援の理論と方法及び②地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について取り上げる。さらに③心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用として、さまざまな介入や多職種協働について学ぶ。活動・実践についての発表・ディスカッション、演習を通してコミュニティ心理学的なアプローチについて理解を深める。

This class will examine ① the theory and methods of psychological support focused on human relationships within groups such as families, and ② the theory and methods of psychological support applicable to regional communities and groups/organizations. Moreover, students will learn about ③ the various interventions and inter-professional cooperation that employ psychological counseling, advice, guidance, etc. to ① and ② above. Students' understanding of Community Psychology-type approaches will be enriched through presentations, discussion, and seminars regarding practical know-how and activities.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:コミュニティ心理学の理念と発想
【3】:コミュニティ心理学的アプローチの特徴①

【4】:コミュニティ心理学的アプローチの特徴②
【5】:予防的介入・心理教育
【6】:危機理論と危機介入・心理教育
【7】:地域・福祉領域におけるコミュニティ・アプローチ:発表とディスカッション
【8】:学校・教育領域におけるコミュニティ・アプローチ:発表とディスカッション
【9】:産業領域におけるコミュニティ・アプローチ:発表とディスカッション
【10】:医療・保健領域におけるコミュニティ・アプローチ:発表とディスカッション
【11】:コンサルテーション①
【12】:コンサルテーション②
【13】:サポートネットワーキング
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義内で行うワークやディスカッションに主体的に取り組むとともに、コミュニティにおける様々な問題に関心を持ち、関連資源との接点を作り、講義で学んだ観点から考察を深めていくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への取り組みとディスカッションへの参加:35% 発表準備と内容:30% 最終レポート割合::35%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

植村勝彦・高畠克子・箕口雅博・原裕視・久田満編 よくわかるコミュニティ心理学[第3版] ミネルヴァ書房 2017 9784623080915
久田満・丹羽郁夫(編) コンサルテーションとコラボレーション (コミュニティ心理学シリーズ 2巻) 金子書房 2022 9784760892785
山本和郎 危機介入とコンサルテーション ミネルヴァ書房 2000 9784623032266
氏原寛・成田善弘編 コミュニティ心理学とコンサルテーション・リエゾン 培風館 2000 9784563056254
金沢吉展編 臨床心理的コミュニティ援助論 誠信書房 2004 9784414413311
山本和郎編 臨床心理学的地域援助の展開 培風館 2001 9784563056490
中島健一編 第17巻 福祉心理学 (公認心理師の基礎と実践) 遠見書房 2018 9784866160672
その他、授業の中で適宜紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UN330

心の健康教育に関する理論と実践

Theory & Practice for Mental Health Education

田中　佑樹(TANAKA YUKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN330
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本科目においては、心の健康教育に関する理論と実践について学び、心理職としてさまざまな場面や対象に対して心の健康教育を実施できるようになることを目指す。なお、公認心理師の受験資格に必要な科目である。

The aims of this class are that students learn about the theory and practice of mental health education and become competent in implementing it as a psychologist for a variety of purposes and situations. This class is a prerequisite for certification as a certified public psychologist.

授業の内容 / Course Contents

本科目においては、まず、ストレスマネジメントや心理教育、その他の健康教育を実践するにあたって必要となる基礎理論を解説する。また、理論だけではなく、ストレスマネジメントや心理教育、その他の健康教育の実践例を紹介し、実践上のポイントなどを解説する。最後に、小グループに分かれて、実際に、いくつかの対象を想定した健康教育プログラムを策定し、それを実施する。

This class will, first of all, explain the fundamental theories that are required to implement stress management programs, psychology education, and other health education. In addition, actual examples of stress management, psychology education, and other health education will be introduced, and vital points of their implementation will be explained. Finally, the class will be divided into small groups, and each group will be given a set of assumptions from which to design and implement a health education program.

授業計画 / Course Schedule

【1】:公認心理師による心の健康教育とは(オリエンテーション)
【2】:心の健康教育に関する理論①　ストレス理論、認知行動療法型ストレスマネジメントの基礎
【3】:心の健康教育の実践例①　職場におけるストレスマネジメント
【4】:心の健康教育の実践例②　学校におけるストレスマネジメント
【5】:心の健康教育に関する理論②　グループプロセス(集団認知行動療法)の活用
【6】:心の健康教育の実践例③　アディクションに対する支援
【7】:心の健康教育に関する理論③　プログラム評価の方法
【8】:心の健康教育の実践例④　自殺予防教育
【9】:小グループによる健康教育プログラムの作成
【10】:小グループによる健康教育プログラムの実施①
【11】:小グループによる健康教育プログラムの実施②
【12】:小グループによる健康教育プログラムの実施③
【13】:小グループによる健康教育プログラムの実施④
【14】:まとめとフィードバック

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に配布する授業資料についての予習を求める。また、文献や論文をまとめて、レジュメ作成をおこなってもらうことがある。後半の小グループでの健康教育プログラムの作成と実施にあたっては、授業時間外に、グループで検討・準備をしてもらうことがある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業参加と課題への取り組み:40% 課題の発表:30% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

嶋田洋徳・鈴木伸一 学校, 職場, 地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル 北大路書房 2004 9784762824081
嶋田洋徳ほか 中学・高校で使える人間関係スキルアップ・ワークシート:ストレスマネジメント教育で不登校生徒も変わった! 学事出版 2010 9784761917326
ピーター・J・ビーリングほか 集団認知行動療法の理論と実践 金子書房 2018 9784760826674
川野健治・勝又陽太郎 学校における自殺予防教育プログラム GRIP:5 時間の授業で支えあえるクラスをめざす 新曜社 2018 9784788515963
久田満・飯田敏晴 コミュニティ心理学シリーズ 第 1 巻 心の健康教育 金子書房 2021 9784760892778
その他は授業内で指示する。

作成:2024/10/02
科目コード:UN331

心理実践実習1(基礎)

Practicum in Psychology 1
公認心理師受験資格の必要科目である心理実践実習の一部

松永　美希／田中　志帆／大橋　智(MATSUNAGA MIKI/ TANAKA SHIHO/ OHASHI TOMO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN331
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

公認心理師としての心理実践の実習の基礎を身につける。公認心理師の支援の現場の見学を通じて、(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識の修得 (1)コミュニケーション (2)心理検査 (3)心理面接 (4)地域支援 等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を知的および体験的に習得する。また、学内実習におけるケース担当を通じて、心理検査、心理面接の知識および技能を習得する。

Students will master the fundamental, practical know-how required of certified public psychologists. Through visits to the actual workplace of a certified public psychologist, students will come to understand the following both intellectually and experientially: (A) knowledge and know-how regarding clients, etc., in particular (1) communication, (2) psychological examinations, (3) psychological interviews, (4) support for communities, etc.; (B) how to understand clients, grasp their needs, and create support plans; (C) team approaches to client support; (D) cooperation among multiple professions and within communities; and (E) the professional ethics and legal obligations of certified public psychologists. By taking charge of cases during on-campus practical training, students will acquire the knowledge and skills required to conduct psychological examinations and interviews.

授業の内容 / Course Contents

公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識の修得 (1)コミュニケーション (2)心理検査 (3)心理面接 (4)地域支援等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について、現場を見学し、実習指導者 又は実習担当教員による指導を受ける。実習施設の分野は、主要5分野のうち、福祉分野、教育分野、産業分野、司法分野に関する学外施設(「公認心理師法施行 規則第三条第三項の規定に基づき文部科学大臣及び厚生労働大臣が別に定める施設」(平成 29 年文部科学省・厚生労働省告示第5号))のうち、1分野以上。1分野につき、事前学習1時間、見学実習 3 時間、事後学習 1 時間、全体報告会 1 時間。
また、学内実習施設である立教大学心理教育相談所での電話受付実習、心理検査、心理面接などの実習の時間数も実習時間としてカウントする。担当ケース1ケースにつき、実践の実施、記録、振り返り、スーパービジョン(個人またはグループ)を含み、1セッションにつき4時間、10 セッション以上を行う。

After understanding the fundamental knowledge and skills that are essential for certified public psychologists, students will visit the actual workplace of a therapist and will receive guidance from the responsible instructor or faculty member in the following areas:
(A) knowledge and know-how regarding clients, etc., in particular (1) communication, (2) psychological examinations,

(3) psychological interviews, (4) support for communities, etc.; (B) understanding clients, grasping their needs, and creating support plans; (C) team approaches to client support; (D) cooperation among multiple professions and within communities; and (E) the professional ethics and legal obligations of certified public psychologists. Among the five major fields of practical training, students must complete off-campus training in one or more of the following fields at an eligible institution or institutions: welfare, education, industry, justice.
Note: Eligible institutions are determined separately by the Minister of Education, Culture, Sports, Science & Technology and the Minister of Health, Labour & Welfare based on the Enforcement Regulations Article 3 (paragraph 3) of the Certified Psychological Therapist Act (2017, Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology / Ministry of Health, Labour & Welfare Notice No. 5) For one field, 1 hour of pre-training, 3 hours of workplace practical training, and 1 hour of follow-up training are required.
Practical training in psychological examinations and interviews is conducted on-campus at Rikkyo University, at the Psychological Counseling Center, for the case(s) being managed by each student. For each case, ten sessions are required. Each session lasts for 4 hours and includes practice, record keeping, debriefing, and supervision (individual or group).

授業計画 / Course Schedule

【1】:公認心理師となるための実習の意義について
【2】:事前学習①、学内施設における担当ケース指導
【3】:事前学習②、学内施設における担当ケース指導
【4】:事前学習③、学内施設における担当ケース指導
【5】:見学実習①
【6】:見学実習②
【7】:見学実習③
【8】:事後学習①、学内施設における担当ケース指導
【9】:事後学習②、学内施設における担当ケース指導
【10】:事後学習③、学内施設における担当ケース指導
【11】:全体報告会①、学内施設における担当ケース指導
【12】:全体報告会②、学内施設における担当ケース指導
【13】:全体報告会③、学内施設における担当ケース指導
【14】:振り返りとまとめ、現場実習ガイダンス

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

公認心理師の職責、すなわち① 公認心理師の役割 ② 公認心理師の法的義務及び倫理 ③ 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 ④ 情報の適切な取扱い ⑤ 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務 ⑥多職種連携及び地域連携 についての基礎的な学習を予習として行う。見学実習に行く分野についての予備学習を行う。担当ケースについての予備学習を行う。見学実習の事後学習として振り返りと自己評価を行う。担当ケースについての振り返りを行い、指導を受けた上で改めて振り返りを行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 事前学習の課題と発表:20% 見学実習、実習日誌:30% 事後学習の課題と発表:20% 全体報告会の発表:20% 最終レポート割合::10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UN332

心理実践実習3

Practicum in Psychology 3
公認心理師となるために必要な科目である心理実践実習の一部である

松永　美希／大石　幸二／田中　志帆(MATSUNAGA MIKI/ OISHI KOUJI/ TANAKA SHIHO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN332
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

公認心理師となるために必要な心理実践の実習を行う。
This class provides the practical training that is required before one can become a certified public psychologist.

授業の内容 / Course Contents

大学段階での実習を通じて得た公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、次の(ア)から(オ)までに掲げる事項について、現場において心理に関する支援を要する者等に対して支援を実践しながら、実習指導者又は実習担当教員による指導を受ける。
①実習施設の分野については主要5分野に関する学外施設(具体的な施設については「公認心理師法施行規則第三条第三項の規定に基づき文部科学大臣及び厚生労働大臣が別に定める施設」(平成 29 年文部科学省・厚生労働省告示第5号)のとおり。) のうち、2分野の施設において現場実習を行う。ただし、医療機関は必須とする。
(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得
(1)コミュニケーション (2)心理検査 (3)心理面接 (4)地域支援等
(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
(エ) 多職種連携及び地域連携
(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。
学外機関における実習は、一分野につき、一回 8 時間、23 週、二分野で 368 時間とする。
②現場実習における担当ケースに関する実習の時間は一分野につき、85 時間、二分野で 190 時間とする。
③ 実習担当教員が、実習生の実習状況について把握し、①の(ア)から(オ)までに掲げる事項について基本的な水準の修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行う。
また、学内実習においてケースを担当し、心理検査、心理面接の知識と技能をする。担当時間は 80 時間とする。
This class will build upon the fundamental understanding, knowledge, and skills required of a certified public psychologist that were acquired at the university level. Students will receive feedback from an instructor or faculty member as they apply their skills to provide actual psychological support to clients as detailed in (A) through (E) below. Practical training at off-campus institutions must be completed in two of the five major fields. Note: Eligible institutions are determined separately by the Minister of Education, Culture, Sports, Science & Technology and the Minister of Health, Labour & Welfare based on the Enforcement Regulations Article 3 (paragraph 3) of the Certified Psychological Therapist Act (2017, Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology / Ministry of Health, Labour & Welfare Notice No. 5) Practical training must be carried out at a medical institution. (A) master the following knowledge and skills as they relate to providing psychological support to a client: (1) communication, (2) psychological examinations, (3) psychological interviews, and (4) community support; (B) understand clients, grasp their needs, and

produce psychological therapy plans for them; (C) practice a team approach to each client and his/her psychological therapy; (D) cooperate with people in a variety of occupations and communities; (E) understand the ethical and legal obligations of certified public psychologists.
Practical training at an external institution requires 23 weeks per specialty (8 hours per session), or a total of 368 hours for two specialties.
② Practical training in managing cases requires 85 hours per specialty, i.e., 190 hours for two specialties. ③ The faculty member in charge of practical training will monitor the training status of each trainee, and will maintain close contact with both the trainee and instructors to make certain that each trainee achieves the objectives listed in ① (A) through (E).
By taking charge of cases during on-campus practical training, students will acquire the knowledge and skills required to conduct psychological examinations and interviews. Each student must spend 80 hours in charge of a case or cases.

授業計画 / Course Schedule

【1】:公認心理師となるための実習の意義について
【2】:現場実習
【3】:現場実習
【4】:現場実習
【5】:現場実習
【6】:現場実習
【7】:現場実習
【8】:現場実習
【9】:現場実習
【10】:現場実習
【11】:現場実習
【12】:現場実習
【13】:現場実習
【14】:振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

公認心理師の職責、すなわち① 公認心理師の役割 ② 公認心理師の法的義務及び倫理 ③ 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 ④ 情報の適切な取扱い ⑤ 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務 ⑥多職種連携及び地域連携 についての基礎的な学習を予習として行う。現場実習に行く分野についての予備学習を行う。現場実習では、実習後に毎回実習日誌を下記、振り返りを行う(実習日誌を作成する時間や振り返りは、実習時間に含まれる)。一分野が終わった時には、実習報告会で振り返りをまとめて報告し、自己評価を行う。面接の陪席の際には、ケースについての予備学習を行う。陪席の事後学習として振り返りと自己評価を行う。事例検討会では、毎回の出席、および振り返りのレポートを書く。 ケースを担当する際は、予備学習を行う。担当ケースは毎回振り返りを行い、指導を受けた上で改めて振り返りを行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 現場実習:80% 実習日誌の提出、実習報告会:20%
(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 (1)コミュニケーション (2)心理検査 (3)心理面接 (4)地域支援等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。以上の(ア)から(オ)の基準を満たせないと判断された場合には、単位修得を不可とする。また全体を通じて欠席が 3 分の1以上の場合には単位修得を不可とする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UN333

心理実践実習4

Practicum in Psychology 4
公認心理師となるために必要な科目である心理実践実習の一部

林　もも子／田中　志帆／松永　美希(HAYASHI MOMOKO/ TANAKA SHIHO/ MATSUNAGA MIKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN333
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

公認心理師となるために必要な心理実践の実習を行う。主には学外の公認心理師の支援の現場での実習(以下、現場実習)を通じて、(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識の修得 (コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等)、(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 、(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(エ) 多職種連携及び地域連携 、(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を体験的に習得する。

This class provides the practical training that is required before one can become a certified public psychologist. Primarily through off-campus practical training in the actual workplace of a certified public psychologist (hereafter, “workplace practical training”), students will receive experience-based training in the following:
(A) knowledge and know-how regarding clients, etc. (communication, psychological examinations, psychological interviews, support for communities, etc.); (B) understanding clients, grasping their needs, and creating support plans; (C) team approaches to client support; (D) cooperation among multiple professions and within communities; and (E) the professional ethics and legal obligations of certified public psychologists.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、学外実習施設における現場実習から構成される。
現場実習では、公認心理師に必要な基礎的な知識・技能の理解の上に、主に次の 5 点について、実習指導者と実習担当教員から指導を受ける。
(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識の修得 (コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等)
(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
(エ)多職種連携及び地域連携
(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務
実習施設は、主要5分野のうち、保健医療分野もしくは福祉分野、教育分野に関する学外施設のうち、1分野以上とする。そのうち、保健医療分野(医療機関)については、本授業(心理実践実習 4)もしくは心理実践実習 3 において必ず実習することとする。1分野につき、事前学習1時間、現場での実習時間 184 時間以上、事後学習 1 時間とする。なお、現場実習時間のうち、ケースの担当を 95 時間以上とする。

事前授業では、これまでの講義での学習をもとに、当該分野における公認心理師の役割と業務内容、他職種との連携、関連法規や制度などについて概要を振り返る。また事後授業では、現場実習で学んだことをもとに、当該分野における公認心理師の心理的支援についてディスカッションをおこなう。

This class is composed of workplace practical training held at off-campus training institutions.

During workplace practical training, after understanding the fundamental knowledge and skills that are essential for certified public psychologists, students will receive practical guidance from the responsible instructor or faculty member primarily in the following five areas:
(A) knowledge and know-how regarding clients, etc. (communication, psychological examinations, psychological interviews, support for communities, etc.);
(B) understanding clients, grasping their needs, and creating support plans;
(C) team approaches to client support;
(D) cooperation among multiple professions and within communities;
(E) the professional ethics and legal obligations of certified public psychologists.
Among the five major fields of practical training, students must complete off-campus training in one or more of the following fields at an eligible institution or institutions: health & medicine, welfare, or education. Practical training in the health & medicine field (at a medical institution) must be included either in this class (Practicum in Psychology 4) or in Practicum in Psychology 3. For each field, 1 hour of pre-training, at least 184 hours of practical training in the workplace, and 1 hour of follow-up training are required. Moreover, at least 95 hours of the workplace practical training must be devoted to case-related duties.

The pre-training session will build upon material learned in previous classes by reiterating the following with regard to the selected field of practical training: the role and duties of certified public psychologists; cooperation with other professionals; and relevant laws, regulations, institutions, etc. The follow-up session will build upon expertise gained during the off-campus practical training. Trainees will discuss the psychological support provided by certified public psychologists in the selected field of practical training.

授業計画 / Course Schedule

【1】:現場事前授業
【2】:現場実習
【3】:現場実習
【4】:現場実習
【5】:現場実習
【6】:現場実習
【7】:現場実習
【8】:現場実習
【9】:現場実習
【10】:現場実習
【11】:現場実習
【12】:現場実習
【13】:現場実習
【14】:現場実習事後授業・振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

公認心理師の職責、すなわち①公認心理師の役割、②公認心理師の法的義務及び倫理、③心理に関する支援を要する者等の安全の確保、④ 情報の適切な取扱い、 ⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務、⑥多職種連携及び地域連携 についての基礎的な学習を予習として行う。現場実習に行く分野についての予備学習を行う。担当ケースについての予備学習を行う。現場実習後はその都度、実習日誌への記載を行い、振り返りと自己評価を行う。担当ケースについて、実習指導者および担当教員より指導を受けた上で改めて振り返りを行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 現場実習:50% 実習日誌を用いた実習記録と報告会:20% 実習振り返り:30%
全体を通じて欠席が 3 分の1以上の場合には単位修得を不可とする。

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

適宜指示する。

作成:2024/10/02
科目コード:UN334

臨床心理実習1(心理実践実習2)

Clinical Training 1 : Practicum in Psychology 2
公認心理師となるために必要な科目である心理実践実習の一部であり、臨床心理士となるために必要な科目である臨床心理実習

林 もも子／大石 幸二／田中 志帆(HAYASHI MOMOKO/ OISHI KOUJI/ TANAKA SHIHO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN334
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	CLP5120
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理士、公認心理師となるために必要な心理実践の実習を行う。また、学内実習におけるケース担当を通じて、心理検査、心理面接の知識および技能を習得する。
This class provides the practical training that is required before one can become a certified public psychologist. By taking charge of cases during on-campus practical training, students will acquire the knowledge and skills required to conduct psychological examinations and interviews.

授業の内容 / Course Contents

大学段階で学習した臨床心理士、公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上 に、次の(ア)から(オ)までに掲げる事項について、現場において心理に関する支援を要する者等に対して支援を実践しながら、実習指導者又は実習担当教員による指導を受ける。
① 実習施設の分野については主要5分野に関する学外施設(具体的な施設については「公認心理師法施行規則第三条第三項の規定に基づき文部科学大臣及び厚生労働大臣が別に定める施設」(平成 29 年文部科学省・厚生労働省告示第5号)のとおり。) のうち、2分野の施設において現場実習を行う。ただし、医療機関は必須とする。
(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得
(1)コミュニケーション (2)心理検査 (3)心理面接 (4)地域支援等
(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
(エ) 多職種連携及び地域連携
(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。
学外機関における実習は、一分野につき、一回 8 時間、23 週、二分野で 368 時間とする。
②現場実習における担当ケースに関する実習の時間は一分野につき、85 時間、二分野で 190 時間とする。③ 実習担当教員が、実習生の実習状況について把握し、①の(ア)から(オ)までに掲げる事項について基本的な水準の修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行う。
学内実習施設における電話受付実習を 10 時間行う。学内実習施設における面接の陪席を、事前学習、事後の振り返りを含め、3 時間行う。学内実習施設における事例検討会に 9 時間参加する。
また、学内実習においてケースを担当し、心理検査、心理面接の知識と技能をする。担当時間は 80 時間とする。
This class will build upon the fundamental understanding, knowledge, and skills required of a certified public psychologist that were acquired at the university level. Students will receive feedback from an instructor or faculty member as they apply their skills to provide actual psychological support to clients as detailed in (A) through (E) below. Practical training at off-campus institutions must be completed in two of the five major fields. Note: Eligible institutions

are determined separately by the Minister of Education, Culture, Sports, Science & Technology and the Minister of Health, Labour & Welfare based on the Enforcement Regulations Article 3 (paragraph 3) of the certified public psychologist Act (2017, Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology / Ministry of Health, Labour & Welfare Notice No. 5) Practical training must be carried out at a medical institution. (A) master the following knowledge and skills as they relate to providing psychological support to a client: (1) communication, (2) psychological examinations, (3) psychological interviews, and (4) community support; (B) understand clients, grasp their needs, and produce psychological therapy plans for them; (C) practice a team approach to each client and his/her psychological therapy; (D) cooperate with people in a variety of occupations and communities; (E) understand the ethical and legal obligations of certified public psychologists.
Practical training at an external institution requires 23 weeks per specialty (8 hours per session), or a total of 368 hours for two specialties.
② Practical training in managing cases requires 85 hours per specialty, i.e., 190 hours for two specialties. ③ The faculty member in charge of practical training will monitor the training status of each trainee, and will maintain close contact with both the trainee and instructors to make certain that each trainee achieves the objectives listed in ① (A) through (E).
Students will complete the following at the on-campus training facility: 10 hours of practical training in telephone reception; 3 hours observing client interviews and attending briefings and debriefings; 9 hours participating in case studies.
By taking charge of cases during on-campus practical training, students will acquire the knowledge and skills required to conduct psychological examinations and interviews. Each student must spend 80 hours in charge of a case or cases.

授業計画 / Course Schedule

【1】:公認心理師となるための実習の意義について
【2】:学内実習施設における電話受付実習
【3】:学内実習施設における面接陪席実習
【4】:現場実習
【5】:現場実習
【6】:現場実習
【7】:現場実習
【8】:現場実習
【9】:現場実習
【10】:学内施設における担当ケース指導
【11】:学内施設における担当ケース指導
【12】:学内施設における担当ケース指導
【13】:学内施設における担当ケース指導
【14】:振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

公認心理師の職責、すなわち① 公認心理師の役割 ② 公認心理師の法的義務及び倫理 ③ 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 ④ 情報の適切な取扱い ⑤ 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務 ⑥多職種連携及び地域連携についての基礎的な学習を予習として行う。現場実習に行く分野についての予備学習を行う。現場実習では毎回振り返りを行う。一分野が終わった時には、実習報告会で振り返りをまとめて報告し、自己評価を行う。面接の陪席をするケースについての予備学習を行う。陪席の事後学習として振り返りと自己評価を行う。事例検討会の後に、毎回、発表事例について振り返り、レポートにまとめる。担当ケースについての予備学習を行う。担当ケースについての振り返りを行い、指導を受けた上で改めて振り返りを行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 電話受付実習:10% 現場実習:50% 事例検討会の振り返り(毎回):40%
(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 (1)コミュニケーション (2)心理検査 (3)心理面接 (4)地域支援等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 公認心理師としての職業倫理及

び法的義務への理解。以上の(ア)から(オ)の基準を満たせないと判断された場合には、単位修得を不可とする。また全体を通じて欠席が 3 分の1以上の場合には単位修得を不可とする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UN335

臨床心理実習2

Clinical Training 2
臨床心理士養成のための学内実習

林　もも子／山田　哲子(HAYASHI MOMOKO/ YAMADA TETSUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN335
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	CLP5120
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理士としての技能を体験学習により身につける。学内実習におけるケース担当を通じて、心理検査、心理面接の知識および技能を習得する。
Through experience-based learning, students will master the skills employed by certified clinical psychologists. By taking charge of cases during on-campus practical training, students will acquire the knowledge and skills required to conduct psychological examinations and interviews.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理士として面接の技能を体験的に身につけるため、春学期に引き続き、学内実習施設における電話受付実習や面接の陪席や事例検討会への参加により、支援者としての基本的な知識と技能を身につける。学内実習施設においてケース担当を通じて、心理検査、心理面接の知識および技能を習得する。　ケース担当においては個人スーパービジョン、グループスーパービジョン、事例検討会などの場において、面接者としての特徴を理解し、臨床心理士としての技能を向上させる。
Continuing from the spring semester, the interviewing skills required of a certified clinical psychologist will be honed through experience-based training in telephone reception, observation of client interviews, and participation in case studies, all of which will be held at the on-campus training facility. By taking charge of cases during on-campus practical training, a student will acquire the knowledge and skills required to conduct psychological examinations and interviews.　Through individual supervision, group supervision, case study sessions, etc., the case manager will come to understand the traits required of an interviewer as well as improve his/her skills as a clinical psychologist.

授業計画 / Course Schedule

【1】:自己課題の確認
【2】:学内実習施設における電話受付実習
【3】:学内実習施設における電話受付実習
【4】:学内実習施設における電話受付実習
【5】:学内施設における担当ケース指導
【6】:学内施設における担当ケース指導
【7】:学内施設における担当ケース指導
【8】:学内施設における担当ケース指導
【9】:学内施設における担当ケース指導
【10】:学内施設における担当ケース指導
【11】:学内実習施設における事例検討会への参加
【12】:学内実習施設における事例検討会への参加

【13】:学内実習施設における事例検討会への参加
【14】:振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

面接の陪席をするケースについての予備学習を行う。陪席の事後学習として振り返りと自己評価を行う。
担当ケースについての予備学習を行う。担当ケースについての振り返りを行い、指導を受けた上で改めて振り返りを行う。
事例検討会の後に、毎回、発表事例について振り返り、レポートにまとめる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 事例検討会の振り返りレポート(毎回):40% 学内実習:60%
実習、ケース担当、事例検討会の全体を通じて、欠席が 3 分の1以上の場合には評価は不合格とする

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UN336

臨床心理基礎実習2

Basic Clinical Training 2
臨床心理士養成のための学内実習

松永　美希／山中　淑江(MATSUNAGA MIKI/ YAMANAKA YOSHIE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UN336
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	CLP5120
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理士としての技能を体験学習により身につける。
Through experience-based learning, students will master the skills employed by certified clinical psychologists.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理士として面接の技能を体験的に身につけるため、演習によりロールプレイを行い、面接者としての特徴を理解し、面接の基礎的な訓練を行う。実際の臨床心理面接の試行的な体験を回数を限定して行い、逐語録を毎回グループスーパービジョンにより検討して指導を受け、面接の流れや見立てなどの基本的な臨床心理面接の技能を身につける。春学期に引き続き、学内実習施設における電話受付実習や面接の陪席や事例検討会への参加により、支援者としての基本的な知識と技能を身につける。
The interviewing skills required of a certified clinical psychologist will be mastered through experience-based training. Seminars will include role-playing that enables students to practice the fundamentals of conducting interviews as well as understand the traits required of an interviewer. Each student will have a limited number of opportunities to conduct realistic clinical psychology interviews on a trial-and-error basis. Through a group supervision system, each transcript/recording will be analyzed, and feedback will be provided, enabling students to master the basic skills required to perform clinical psychology interviews such as interview flow and diagnosis. Continuing from the spring semester, students will further master the basic knowledge and skills required of a therapist through practical training in telephone reception, observation of client interviews, and participation in case studies, all of which will be held at the on-campus training facility.

授業計画 / Course Schedule

【1】:自己課題の確認
【2】:ロールプレイ演習
【3】:ロールプレイ演習
【4】:ロールプレイ演習
【5】:学内実習施設における電話受付実習
【6】:学内実習施設における電話受付実習
【7】:学内実習施設における電話受付実習
【8】:学内実習施設における面接陪席実習
【9】:学内実習施設における面接陪席実習
【10】:学内実習施設における面接陪席実習
【11】:学内実習施設における事例検討会への参加
【12】:学内実習施設における事例検討会への参加

【13】:学内実習施設における事例検討会への参加
【14】:振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ロールプレイの振り返りを行う。ロールプレイ実施後に逐語録をおこすと同時に振り返りを行い、スーパービジョン後に再度振り返る。
面接の陪席をするケースについての予備学習を行う。陪席の事後学習として振り返りと自己評価を行う。
事例検討会の後にも、発表事例を振り返り、レポートにまとめる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 体験学習:20% 電話受付実習:20% 事例検討会の振り返りレポート(毎回):40% 最終レポート割合::20%
講義、実習、事例検討会の全体を通じて、欠席が 3 分の1以上の場合には評価は不合格とする

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

適宜講義内で指示する。

その他 / Others

臨床心理実習1・2(通常 M2で履修する、臨床心理士の受験資格に必要な科目。)を履修するにあたっては、本科目を事前に履修することを強く勧める。

作成:2024/10/02
科目コード:UP151

映像身体学原論

Principles of Body Expression and Cinematic Arts

黒木　秀房(KUROKI HIDEFUSA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP151
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、イメージと身体に関する基本的な概念や理論を習得し、自身の研究や制作に応用できるよう準備する。
In this class, students will learn basic concepts and theories about the image and the body, and prepare to apply them to their own research and production.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、(1)イメージ論と身体論の系譜を追いつつ、(2)21 世紀の新たな人文学を通時的・共時的に位置づけ、(3)その基礎概念について解説する。現代人文諸科学の知見を援用しつつ、哲学的理論と芸術的実践の往還の中で、人間と世界を動的に捉え直すため、(4)学生の関心に応じて、哲学と芸術の関係についても、ともに考察していく。
In this class, we will (1) follow the genealogy of image theory and body theory, (2) position the new humanities of the 21st century in a diachronic and synchronic manner, and (3) explain its basic concepts. (4) The relationship between philosophy and art will also be discussed in accordance with students' interests, in order to dynamically reconsider human beings and the universe in the context of philosophical theory and artistic practice, while drawing on the findings of contemporary humanities sciences.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:イメージとは何か？(1)
【3】:イメージとは何か？(2)
【4】:身体とは何か？(1)
【5】:身体とは何か？(2)
【6】:映像身体学の位置づけ(1)
【7】:映像身体学の位置づけ(2)
【8】:映像身体学の基礎概念(1)
【9】:映像身体学の基礎概念(2)
【10】:映像身体学の基礎概念(3)
【11】:哲学と芸術(1)
【12】:哲学と芸術(2)
【13】:哲学と芸術(3)
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げた作品を中心にできるだけ多く触れること。予習・復習ができているかどうか、毎回書いてもらう予定のリアクション・ペーパーで確認する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% リアクションペーパー（毎回）:60% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

授業内で扱うテクストについては、必要に応じてコピーを配布する。また、参考文献については適宜、授業内で紹介する。

その他 / Others

上記の授業計画は予定であり変更の可能性がある。

作成:2024/10/02
科目コード:UP152

映像身体学研究法

Methodology of Body Expression and Cinematic Arts
映像身体学の哲学

江川　隆男(EGAWA TAKAO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP152
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、それぞれの院生が自らの研究領域のもとで、映像身体学についての基本概念の形成を目指し、またそこからこの学の原理を見出すことを目標とする。
This course aims to enable students, based on their individual research domain, to seek the form of its basic concepts and thereby discover its principles.

授業の内容 / Course Contents

ここでは、映像身体学の基本概念――表現、解釈、感覚、構成、対象性、批判、創造、分析、総合、等々――についていくつかのテクストや資料を用いて、授業を進めていきたい。受講者は、授業内でのテーマについての自分の考えや意見、問題や質問を提起できるようつねに意識して積極的に参加してもらいたい。また論文の書き方についての指導も含めて授業を展開する予定である。
This course uses a number of texts or other materials associated with the basic concepts of Body Expression and Cinematic Arts (e.g., expression, interpretation, sensation, construction, objectivity, criticism, creation, analysis, synthesis). Students are expected to participate actively while consciously generating their own ideas, opinions, problems, and questions regarding course themes. Moreover, the course offers guidance on writing papers.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:映像身体学の基本概念についての考察(1)
【3】:基本概念についての考察(2)
【4】:基本概念についての考察(3)
【5】:基本概念の批判的考察(1)
【6】:基本概念の批判的考察(2)
【7】:基本概念の批判的考察(3)
【8】:分析と総合について(1)
【9】:分析と総合について(2)
【10】:批判と創造について(1)
【11】:批判と創造について(2)
【12】:表現と表象について(1)
【13】:表現と表象について(2)
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

つねにノートを作成すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席、発表:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

適宜、コピーを配布する。

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UP201

修士論文指導演習1

Supervisory Seminar for Master's Thesis1

宮本　裕子(MIYAMOTO YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP201
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC6310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習2」(秋学期)と併せて、修士論文執筆の指導を行う。
Combined with "Supervisory Seminar on Master's Thesis 2" (fall semester), this class will provide guidance to students as they write their master's theses.

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、それぞれの指導教員が、研究計画の設定、研究の遂行、資料の収集や分析、論文の執筆を指導する。論文に代えて修了制作を選択した学生には、制作計画の設定、制作、および副論文執筆の指導を行う。
A faculty member appropriate for each student's research theme will provide guidance with regard to establishing a research plan, executing it, gathering and analyzing material, and writing the thesis. For students who have chosen to complete a production instead of writing a thesis, guidance will be provided with regard to establishing a production plan, completing the production, and writing a supplementary thesis.

授業計画 / Course Schedule

【1】:修士論文の指導
【2】:修士論文の指導
【3】:修士論文の指導
【4】:修士論文の指導
【5】:修士論文の指導
【6】:修士論文の指導
【7】:修士論文の指導
【8】:修士論文の指導
【9】:修士論文の指導
【10】:修士論文の指導
【11】:修士論文の指導
【12】:修士論文の指導
【13】:修士論文の指導
【14】:修士論文の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に、履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究への取り組み:100%
修士論文自体の評価とは独立に評価する。

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UP204

修士論文指導演習1

Supervisory Seminar for Master's Thesis1

加藤　千恵(KATO CHIE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP204
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC6310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習2」(秋学期)と併せて、修士論文執筆の指導を行う。
Combined with "Supervisory Seminar on Master's Thesis 2" (fall semester), this class will provide guidance to students as they write their master's theses.

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、それぞれの指導教員が、研究計画の設定、研究の遂行、資料の収集や分析、論文の執筆を指導する。論文に代えて修了制作を選択した学生には、制作計画の設定、制作、および副論文執筆の指導を行う。
A faculty member appropriate for each student's research theme will provide guidance with regard to establishing a research plan, executing it, gathering and analyzing material, and writing the thesis. For students who have chosen to complete a production instead of writing a thesis, guidance will be provided with regard to establishing a production plan, completing the production, and writing a supplementary thesis.

授業計画 / Course Schedule

【1】:修士論文の指導
【2】:修士論文の指導
【3】:修士論文の指導
【4】:修士論文の指導
【5】:修士論文の指導
【6】:修士論文の指導
【7】:修士論文の指導
【8】:修士論文の指導
【9】:修士論文の指導
【10】:修士論文の指導
【11】:修士論文の指導
【12】:修士論文の指導
【13】:修士論文の指導
【14】:修士論文の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に、履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究への取り組み:100%
修士論文自体の評価とは独立に評価する。

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UP211

修士論文指導演習2

Supervisory Seminar for Master's Thesis2

宮本　裕子(MIYAMOTO YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP211
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC6310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習 1」(春学期)と併せて、修士論文執筆の指導を行う。
Combined with "Supervisory Seminar on Master's Thesis 1" (spring semester), this class will provide guidance to students as they write their master's theses.

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、それぞれの指導教員が、研究計画の設定、研究の遂行、資料の収集や分析、論文の執筆を指導する。論文に代えて修了制作を選択した学生には、制作計画の設定、制作、および副論文執筆の指導を行う。
A faculty member appropriate for each student's research theme will provide guidance with regard to establishing a research plan, executing it, gathering and analyzing material, and writing the thesis. For students who have chosen to complete a production instead of writing a thesis, guidance will be provided with regard to establishing a production plan, completing the production, and writing a supplementary thesis.

授業計画 / Course Schedule

【1】:修士論文の指導
【2】:修士論文の指導
【3】:修士論文の指導
【4】:修士論文の指導
【5】:修士論文の指導
【6】:修士論文の指導
【7】:修士論文の指導
【8】:修士論文の指導
【9】:修士論文の指導
【10】:修士論文の指導
【11】:修士論文の指導
【12】:修士論文の指導
【13】:修士論文の指導
【14】:修士論文の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に、履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究への取り組み:100%
修士論文自体の評価とは独立に評価する。

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UP214

修士論文指導演習2

Supervisory Seminar for Master's Thesis2

加藤　千恵(KATO CHIE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP214
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC6310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習 1」(春学期)と併せて、修士論文執筆の指導を行う。
Combined with "Supervisory Seminar on Master's Thesis 1" (spring semester), this class will provide guidance to students as they write their master's theses.

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、それぞれの指導教員が、研究計画の設定、研究の遂行、資料の収集や分析、論文の執筆を指導する。論文に代えて修了制作を選択した学生には、制作計画の設定、制作、および副論文執筆の指導を行う。
A faculty member appropriate for each student's research theme will provide guidance with regard to establishing a research plan, executing it, gathering and analyzing material, and writing the thesis. For students who have chosen to complete a production instead of writing a thesis, guidance will be provided with regard to establishing a production plan, completing the production, and writing a supplementary thesis.

授業計画 / Course Schedule

【1】:修士論文の指導
【2】:修士論文の指導
【3】:修士論文の指導
【4】:修士論文の指導
【5】:修士論文の指導
【6】:修士論文の指導
【7】:修士論文の指導
【8】:修士論文の指導
【9】:修士論文の指導
【10】:修士論文の指導
【11】:修士論文の指導
【12】:修士論文の指導
【13】:修士論文の指導
【14】:修士論文の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に、履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究への取り組み:100%
修士論文自体の評価とは独立に評価する。

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UP351

映像身体学特殊研究1

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 1
哲学と映像身体学

江川　隆男(EGAWA TAKAO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP351
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、映像身体論にとってもっとも重要な思考を展開したジル・ドゥルーズの哲学について、その基本的な理解が得られることを目標とする。
The purpose of this course is to provide students with basic understanding of the philosophy of Gilles Deleuze, who developed the most important ideas in the fields of Body Expression and Cinematic Arts.

授業の内容 / Course Contents

ここでは、ジル・ドゥルーズの哲学の本質を形成しているいくつかの概念についての本格的な理解をも目指したいと思っています。この哲学は、まさに新たな概念(別の考え方)の形成にあり、それだけでなく新たな情動(別の感じ方)と知覚(別の見方)にまで届くようなものです。基本的にはテクストや資料を用いた講義形式で授業を進めていきます。受講者は、こうした事柄についての内容と表現とを、つねに各自のテーマや課題に即して意識できるよう心掛けてください。
This course aims to help students achieve full understanding of concepts that comprise the essence of Gilles Deleuze's philosophy, which concerns the very formation of new ideas (other ways of thinking) as well as novel affects (other ways of feeling) and novel sensations (other ways of seeing). The course is conducted primarily in a lecture format based on a text and other materials. Students should be ever conscious of how the presented material and expressions fit into their individual themes and open questions.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:芸術と哲学の諸問題
【3】:経験とは何か(1)
【4】:経験とは何か(2)
【5】:共通感覚について(1)
【6】:共通感覚について(2)
【7】:自由意志から自由活動へ(1)
【8】:自由意志から自由活動へ(2)
【9】:まとめ
【10】:哲学、芸術、科学について(1)
【11】:哲学、芸術、科学について(2)
【12】:超越論的経験論について(1)
【13】:超越論的経験論について(2)
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義内容についてノートをしっかりと取り、各テーマについての自分の考えや自分の課題との関係性などについてつねにまとめる努力が重要となります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

適宜、資料を配布する。

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UP352

映像身体学特殊研究2

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 2
21 世紀のメディア論

滝浪　佑紀(TAKINAMI YUKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP352
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

とりわけ視覚メディアを中心として、近年のメディア論からいくつかの重要なテクストを読む。こうした最新のメディア論の研究を深く理解し、映画やテレビ、インターネットなどのメディアの分析をおこなうための方法論を獲得することを目指す。
The course will consider some important texts in the field of media theory, particularly focusing on visual media. Through deeply understanding these recent media theory, we try to acquire the methods to analyze media, including cinema, television, and internet.

授業の内容 / Course Contents

Steven Shaviro, Thomas Lamarre, Alexander Galloway などのメディア論を精読する。またこうしたメディア論で論じられている作品や現象についても考察する。授業内でのディスカッションも重視し、最新の研究成果について理解を深める。
The course will consider books and articles dealing with media written by critics, including Steven Shaviro, Thomas Lamarre, and Alexander Galloway. We will also examine the works and phenomena discussed in these books and articles. In this course, the discussion is important, through which the students will deepen the understanding on recent media theory.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:文献講読 1
【3】:文献講読 2
【4】:文献講読 3
【5】:文献講読 4
【6】:文献講読 5
【7】:文献講読 6
【8】:文献講読 7
【9】:文献講読 8
【10】:文献講読 9
【11】:文献講読 10
【12】:文献講読 11
【13】:文献講読 12
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習。関連事項の調査。発表の準備。授業内容の整理。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:40% 授業への取り組み:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に指示する。

作成:2024/10/02
科目コード:UP353

映像身体学特殊研究3

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 3
政治哲学
ランシエールの文学論から

田崎　英明(TAZAKI HIDEAKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP353
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. 自分が普段読み慣れている言語以外の言語で哲学や美学の文献を読みこなせるようになる。
2. 現代の批評理論の概要を理解し、自分自身でも具体的に作品を理論的に批評できるようになる。
3. 現代の政治運動/政治思想/政治哲学において問われていたことが何であるのかを理解し、その現代的な意義を論じることができるようになる。

The purposes of this course are for students to: (1) become accustomed to reading philosophy and aesthetics literature in a language other than that they typically use;
(2) after understanding the gist of modern critical theory, learn how to write concrete, theory-based critiques of art works; and
(3) understand why certain concerns and themes arose within modern political movements, political thought, and political philosophies, thereby gaining the ability to debate their contemporary meaning.

授業の内容 / Course Contents

ジャック・ランシエールの文学に関する著作を複数の言語で読み、議論していく。
The purpose of this course is to read the papers byJacques Ranciere on the politics of literature in multiple languages and then discuss and debate them.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:ランシエールについて
【3】:文学と政治について 1
【4】:文学と政治について 2
【5】:文学と政治について 3
【6】:文学と政治について 4
【7】:文学と政治について 5
【8】:小説と近代 1
【9】:小説と近代 2
【10】:小説と近代 3
【11】:小説と近代 4
【12】:小説と近代 5
【13】:小説と近代 6
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Google Classroom にアップした教材に事前に目を通しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

Canvas LMS にアップする。

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UP354

映像身体学特殊研究4

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 4

宮本　裕子(MIYAMOTO YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP354
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

映像に関する理論的な文章を自身で読み解けるようになる。映像に関する理論的な理解、とりわけアニメーションという視覚-文化的な形態への理論的な理解を深める。

In this course, students will learn to independently analyze theoretical texts on moving images. Students will also deepen their theoretical understanding of moving images, particularly in animation as a form of visual-culture.

授業の内容 / Course Contents

Stevie Suan の著作を中心に講読を行うことで、「アニメ」と呼ばれる日本の商業用アニメーションについて検討する。日本の商業用アニメーションとしての「アニメ」は、そのスタイルと内容的な形式において自明のものではなく、新自由主義経済とそれに伴う社会、文化、産業的な条件の中で構築されたものだと考えられる。この授業はしたがって、ある映像的な特徴やそれについての認識が構築される例を検討するものである。

The aim of this course is to examine "anime" as Japanese commercial animation through the reading of Stevie Suan's book. The "anime" as Japanese commercial animation is not given in its style and narrative form, but is constructed in the condition of neoliberal economy that leads to a particular social, cultural, and industrial situation. The course examines a case study of how a visual characteristic is industrially and culturally constructed and recognized.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:文献講読
【3】:文献講読
【4】:文献講読
【5】:文献講読
【6】:文献講読
【7】:文献講読
【8】:文献講読
【9】:文献講読
【10】:文献講読
【11】:文献講読
【12】:文献講読
【13】:学生発表
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習、授業の復習、発表準備、課題映像の視聴など。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:40% 発表:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UP355

映像身体学特殊研究5

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 5
『老子』を読む

加藤　千恵(KATO CHIE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP355
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

『老子』の代表的な章を講読し、理解を深める。
Students read and promote their understanding of the representative chapters from Tao Te Ching.

授業の内容 / Course Contents

『老子』は、著者も成立年代もはっきりしない、たった五千字という短い文章なのに、中国古典のなかで最も多くの注釈書が作られてきた名著であり、戦術家、為政者、庶民、不死を目指す者、だれが覗いても、その人に応じて進むべき道を映し出してくれる鏡のようなところのある、じつに不思議な書である。この『老子』のなかから代表的な章を選んで講読し、「水」のごとく、「雌」のごとく、「嬰児」のごとくあれ、というその内容から、中国人がいかに世界や歴史、そして身体をとらえようとしていたのかを、他の思想と比較しながら考察する。

授業は担当者の報告と全員の意見交換によって進めてゆく。担当者は担当箇所を精読して、必要に応じて調べ、授業時に口頭で解説する。

Tao Te Ching is a text of only 5,000 characters, with its authorship and date of composition debated, but it is the most commented masterpiece of Chinese literature, a mysterious work that reflects, like a mirror, a path which any person, be it a warrior, a politician, a commoner, anyone aiming to achieve immortality, should follow. Students read the representative chapters from Tao Te Ching, and learn how Chinese people perceived the world, history and body through the contents of "like water, like females, like babies", while also comparing it to other ideas.

The class consists of the report from the person in charge of the day and whole class exchange opinions. The person in charge carefully reads their part, does research if needed, and gives an oral explanation in class.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:『老子』講読　道とは
【3】:『老子』講読　最高の善は水のよう
【4】:『老子』講読　玄牝―根源のメス
【5】:『老子』講読　無用の用
【6】:『老子』講読　嬰児への復帰
【7】:『老子』講読　美や善は絶対か
【8】:『老子』講読　学を絶てば憂い無し
【9】:『老子』講読　無為の政治
【10】:『老子』講読　大器晩成
【11】:『老子』講読　理想郷とは
【12】:『老子』講読　足るを知る

【13】:『老子』講読　柔弱は剛強に勝つ
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回指定した章を精読してくる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合　:100%　報告内容および授業参加への積極的な態度:70%　授業最終日に提出する小レポート:30%

テキスト / Textbooks

金谷治『老子』講談社　1997　4061592785

参考文献 / Readings

初回に紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UP356

映像身体学特殊研究6

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 6
写真の本質を紐解く

日高　優(HIDAKA YU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP356
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、機械の知覚としての写真の原理を映像身体学の観点から理解すること、並びに、現代において写真をみることの意義を再認することを目標とする。
The aim of this course is to enable students to develop an understanding of the principles of photography as a form of mechanical perception from the perspective of body expression and cinematic arts and reengage with the meaning behind viewing photographs in the contemporary world.

授業の内容 / Course Contents

機械映像についての学びは、映像身体学科の学びの核のひとつを成す。まずは、映像身体学の基礎をおさえたうえで、機械映像として人類史上、初めて出現した写真の原理を確認する。さらに写真術登場初期のインパクトを確認しつつ、写真の本質について明らかにしていく。その後は、「演習」ということで、文献講読と自由発表とで授業展開をする。本授業では、写真の本質について的確な知識をもって考察を深めていけるよう、適宜おこなうディスカッションに加えて、各自が撮影した写真の講評をおこなう機会を設ける。文献は、写真の本質を新たな視点から考察した写真史家ジェフリー・バッチェンの研究論文やニューヨーク近代美術館の写真ディレクターを長らく務めたジョン・シャーカフスキーが企画した写真展「Photographers' Eye」(1966)のテクスト等を読む予定。
The study of mechanical images forms one of the core elements of learning in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. First, the course will cover the fundamentals of body expression and cinematic arts and subsequently examine the principles of photography, the first form of mechanical image that humanity developed. We will also study the impact of photographic techniques in the early stages of photography's development and clarify its essence. Students will subsequently read texts and give in-class presentations in a seminar format. In order for students to deepen their understanding of the essence of photography through the attainment of accurate knowledge, they will not only have opportunities to carry out discussions as necessary but also critique the photographs taken by their classmates. The literature for this course will include research papers by photography historian Geoffrey Batchen, who analyzed the essence of photography from a new perspective, as well as the text for The Photographer's Eye (1966), an exhibition organized by photography historian John Szarkowski, who was the director of photography at the Museum of Modern Art, New York for many years.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション――映像身体学における写真
【2】:映像身体学の基礎と写真の原理
【3】:映像身体学の基礎と写真の原理
【4】:映像身体学の基礎と写真出現のインパクト
【5】:文献講読

【6】:文献講読
【7】:文献講読
【8】:文献講読
【9】:文献講読
【10】:写真作品講評会
【11】:自由発表
【12】:自由発表
【13】:自由発表
【14】:まとめ――写真を通して考える映像身体学の意義

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予めの知識は不要。文献講読時は予習して、不明点を明らかにしてのぞむこと。自由発表に備え、授業時にも写真等の作品は適宜紹介するが、各自でも写真集などで作例に当たることがのぞましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への取り組み:30% 口頭発表:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UP357

映像身体学特殊研究7

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 7

江口　正登(EGUCHI MASATO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP357
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

上演芸術の記録と保存という問題について考察する。
The course examines various issues related to performance documentation and preservation.

授業の内容 / Course Contents

上演芸術は、非物質性や束の間性という性質を本性とするものであり、文章や写真、映像による記録はすべて部分的なものでしかなく、本質的なものにはなりえないとしばしば言われる。しかし、上演芸術を記録し保存しようとする試みは様々になされており、それらを十把一絡げに不完全なものとして切り捨てることはできない。また、仮に、上演芸術が究極的には記録・保存が不可能であるということを認めるにしても、その不可能さの仔細を検討することが必要である。
この授業では、関連する文献の読解や、受講者それぞれの関心に基づいての自由発表などを取り混ぜて、上述の問題を広く検討していく。講読文献は主に英語のものを扱う。
It is often said that performance (referring to both the performing arts and performance art) is inherently immaterial and ephemeral, and that written, photographic, or video documentation can only be partial and incomplete. However, there have been various attempts to record and preserve performance, and they cannot all be dismissed as incomplete. Even if we were to concede that recording and preserving performance is ultimately impossible, it is still necessary to examine this impossibility more closely.
In this course, we will explore the above issues in depth through readings from related literature and presentations based on each student's research interests. Readings will be primarily in English.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:文献講読
【3】:文献講読
【4】:文献講読
【5】:文献講読
【6】:文献講読
【7】:文献講読
【8】:文献講読
【9】:文献講読
【10】:自由発表
【11】:自由発表
【12】:自由発表
【13】:自由発表
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献を読んでくる(映像などを見てくる)こと、発表の準備、関連事項の調査。また上演や展示の観覧を課すこともあります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表:30% 授業への取り組み:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

Matthew Reason Documentation, Disappearance and the Representation of Live Performance Palgrave Macmillan 2014 9781349546039
Gabriella Giannachi and Jonah Westerman (eds.) Histories of Performance Documentation: Museum, Artistic, and Scholarly Practices Routledge 2018 9781138184145
Philip Auslander Reactivations: Essays on Performance and Its Documentation University of Michigan Press 2018 9780472053858
Rebecca Schneider Performing Remains: Art and War in Times of Theatrical Reenactment Routledge 2011 9780415404426
Amelia Jones and Adrian Heathfield (eds.) Perform, Repeat, Record: Live Art in History Intellect 2012 9781841504896
Gundhild Borggreen and Rune Gade (eds.) Performing Archives/Archives of Performance Museum Tusculanum Press 2013 9788763537506
Toni Sant (ed.) Documenting Performance: The Context and Processes of Digital Curation and Archiving Bloomsbury Methuen Drama 2017 9781472588180

その他 / Others

授業計画は大まかな予定。受講者の人数や関心も考慮して調整する可能性があります。
制作志望の学生の参加も大いに歓迎します。

作成:2024/10/02
科目コード:UP362

映像身体学特殊演習2

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 2
スタンリー・カヴェルのメディア論

滝浪　佑紀(TAKINAMI YUKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP362
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

2023 年度秋学期は映画の本質について十分に論じた哲学者スタンリー・カヴェルの著作を映画やメディアという論点に注目して論じたが、この授業では引き続き、カヴェルの哲学をメディアという観点から考える。ただし今回は美学的側面に焦点をあてる。映画やメディアにかんして重要な思索をおこなったカヴェルの著作をつうじて、メディアの経験について考えることがこの授業の目的である。
Continuing to the seminar in 2023 Autumn on philosopher Stanley Cavell on cinema and media, this course will examine Cavell's works with respect to media. At this time, the course will focus more closely on the aesthetic aspects. Through the works by Cavell, the important thought on cinema and media, this course will try to consider the experience of media.

授業の内容 / Course Contents

イントロダクションののち、Must We Mean What We Say?のいくつかの章を読み、Pursuits of Happiness を中心とした映画作品論を読解する。さらに Cavell について他の研究者が書いた論文も読む。
After an introduction to the works of Cavell, we will consider some chapters from Must We Mean What We Say? as well as some writings treating specific films, including Pursuits of Happiness. The course will also consider some articles on Cavell by other scholars.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:文献講読 1
【3】:文献講読 2
【4】:文献講読 3
【5】:文献講読 4
【6】:文献講読 5
【7】:文献講読 6
【8】:文献講読 7
【9】:文献講読 8
【10】:文献講読 9
【11】:文献講読 10
【12】:文献講読 11
【13】:文献講読 12
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習。関連事項の調査。発表の準備。授業内容の整理。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:40% 授業への取り組み:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UP363

映像身体学特殊演習3

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 3
精神分析と美学
リビドー・エコノミー

田崎　英明(TAZAKI HIDEAKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP363
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. 自分が普段読み慣れている言語以外の言語で哲学や美学の文献を読みこなせるようになる。
2. 現代の批評理論の概要を理解し、自分自身でも具体的に作品を理論的に批評できるようになる。
3. 現代の政治運動/政治思想/政治哲学において問われていたことが何であるのかを理解し、その現代的な意義を論じることができるようになる。

The purposes of this course are for students to: 1. become accustomed to reading philosophy and aesthetics literature in a language other than that they typically use;
2. learn how to write concrete, theory-based critiques of art works after understanding the gist of modern critical theory; and
3. understand why certain concerns and themes arose within modern political movements, political thought, and political philosophies, thereby gaining the ability to debate their contemporary meaning.

授業の内容 / Course Contents

精神分析と美学に関わる著作を複数の言語で読み、議論していく。
The purpose of this course is for students to read works concerning the relationship between psychoanalysis and aesthetics in multiple languages and then discuss and debate them.

授業計画 / Course Schedule

【1】:はじめに
【2】:ベルナール・スティグレールを読む 1
【3】:ベルナール・スティグレールを読む 2
【4】:ベルナール・スティグレールを読む 3
【5】:ベルナール・スティグレールを読む 4
【6】:ベルナール・スティグレールを読む 5
【7】:ベルナール・スティグレールを読む 6
【8】:中間のまとめ
【9】:リオタールを読む 1
【10】:リオタールを読む 2
【11】:リオタールを読む 3
【12】:リオタールを読む 4
【13】:リオタールを読む 5
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自分がいつも読み慣れている外国語以外の言語にも積極的に取り組むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

Canvas LMS にアップする。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

作成:2024/10/02
科目コード:UP364

映像身体学特殊演習4

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 4

宮本　裕子(MIYAMOTO YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP364
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

映像に関する理論的な文章を自身で読み解けるようになる。映像に関する理論的な理解、とりわけアニメーションという視覚-文化的な形態への理論的な理解を深める。

In this course, students will learn to independently analyze theoretical texts on moving images. Students will also deepen their theoretical understanding of moving images, particularly in animation as a form of visual-culture.

授業の内容 / Course Contents

Hannah Frank の著書を講読し、アニメーションの物質性について考える。Frank は、主に商業用アニメーションにおける伝統的な手法であるセル・アニメーションに焦点化し、セルロイドシートや彩色、撮影といった物質と労働について検討することで、アニメーションの物質性についての再考を促している。同書の講読を通じて、映像と物質の関係に関する視点と理解を深める。

The aim of this course is to investigate the materiality of animation through the reading of Hannah Frank's book. Focusing on cel animation as one of the traditional commercial animation production processes, Frank examines celluloid sheets as material, compositing, photographing, and painting as labor, stimulating a rethinking of the materiality of animation. By reading the book, students will deepen their perspective and understanding of the relationship between moving images and materiality.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:文献講読
【3】:文献講読
【4】:文献講読
【5】:文献講読
【6】:文献講読
【7】:文献講読
【8】:文献講読
【9】:文献講読
【10】:文献講読
【11】:文献講読
【12】:文献講読
【13】:学生発表
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習、授業の復習、発表準備、課題映像の視聴など。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:40% 発表:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UP365

映像身体学特殊演習5

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 5
『荘子』郭象注を読む

加藤　千恵(KATO CHIE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP365
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

『荘子』郭象注を講読し、理解を深める。
Students read and promote their understanding of the representative chapters from Zhuangzi.

授業の内容 / Course Contents

『荘子』郭象注を精読し、中国人がいかに世界や身体をとらえようとしていたのかを考察する。
授業は担当者の報告と全員の意見交換によって進めてゆく。担当者は担当箇所を調べて準備し、授業時に解説する。
Students read the representative chapters from Zhuangzi, and learn how Chinese people perceived the world and body through the contents of "yangsheng".
The class consists of the report from the person in charge of the day and whole class exchange opinions. The person in charge carefully reads their part, does research, and gives an oral explanation in class.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:『荘子』講読
【3】:『荘子』講読
【4】:『荘子』講読
【5】:『荘子』講読
【6】:『荘子』講読
【7】:『荘子』講読
【8】:『荘子』講読
【9】:『荘子』講読
【10】:『荘子』講読
【11】:『荘子』講読
【12】:『荘子』講読
【13】:『荘子』講読
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回指定した部分を精読してくる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容および授業参加への積極的な態度:70% 授業最終日に提出する小レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

初回に紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UP366

映像身体学特殊演習6

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 6
写真の本質への理解を深める

調　文明(SHIRABE BUNMEI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP366
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、写真分野におけるいくつかの必読文献を読み、学生が写真映像への理解を深めるのを促す。この授業では、とりわけ機械の知覚としての写真の多彩な表現を映像身体学の観点から理解すること、並びに、現代において写真をみることの意義を再認することを目標とする。
In this course, students will read several essential texts on photography to deepen the understanding of photographic images. The primary focus is on understanding the myriad forms of expression in photography as a means of mechanical perception from the standpoint of body expression and cinematic arts and reengaging with the meaning of viewing photographs in the contemporary world.

授業の内容 / Course Contents

機械映像についての学びは、映像身体学専攻の学びの核のひとつを成す。まずは、映像身体学の基礎をおさえたうえで関連文献を読み、さらに写真映像を分析することによって写真の本質への理解を深める。関連文献では、写真の本質を探究した写真のパイオニアたちや新鋭たち、フランツ・ローやジェフ・ウォールをはじめとする写真家や現代アーティストが書いたものをとりあげる予定。言葉により写真へアプローチすることを学ぶ方法を獲得するのに資するために、本授業の後半では、学生各人が写真集及び作品を選んで批評し、プレゼンテーションする実践的訓練をおこなう。
The study of mechanical images forms one of the core elements in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. After first studying the foundation of body expression and cinematic arts and reading related texts, students will deepen their understanding of the essence of photography through an analysis of photographic images. The course will focus on texts by photography pioneers who explored the essence of photography as well as young and talented photographers, including works by Franz Roh, Jeff Wall, and contemporary artists. Furthermore, to ensure that students hone methods of learning approaches to photography through words, the course will have the students select and critique a collection of photographs or a photographic work and present their assessments in the second half of the class.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション――映像身体学と写真
【2】:文献講読
【3】:文献講読
【4】:文献講読
【5】:文献講読
【6】:文献講読
【7】:文献講読
【8】:写真作品批評の方法を学ぶ1

【9】:写真作品批評の方法を学ぶ2
【10】:学生によるプレゼンテーション
【11】:学生によるプレゼンテーション
【12】:学生によるプレゼンテーション
【13】:学生によるプレゼンテーション
【14】:まとめ――写真という対象に向かって書くということ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への取り組み:30% 口頭発表:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:UP367

映像身体学特殊演習7

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 7
伝統芸能の言葉と身体

横山　太郎(YOKOYAMA TARO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP367
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業60単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

日本の伝統芸能における言語表現と身体表現の仕組みを理解する。
The goal of this course is to understand the mechanism of linguistic expression and body expression in Japanese traditional performing arts.

授業の内容 / Course Contents

能と文楽の作品を一つずつ取り上げる。それぞれにつき、次のような順番で授業を進める。(1)台本の言語表現の分析、(2)ビデオ映像を通じた身体表現の分析、(3)可能な場合は劇場で作品を鑑賞。授業で扱う作品は、参加者と相談しつつ、この時期の上演作品や映像の入手可能性を考慮して決める。
Noh and Bunraku's works are focused one by one. For each topic, this course proceeds in the following order. (1) analysis of the linguistic expression of the script, (2) analysis of the body expression through video images, and (3) if possible, actually watching the work in the theater. The work to be dealt with in class is decided in consultation with the participants as we take into account the availability of videos and the performance schedule at this time.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:能楽概説及び作品の背景
【3】:能楽作品の言語表現(1)
【4】:能楽作品の言語表現(2)
【5】:能楽作品の身体表現(1)
【6】:能楽作品の身体表現(2)
【7】:学生による読解の発表
【8】:文楽概説及び作品の背景
【9】:文楽作品の言語表現(1)
【10】:文楽作品の言語表現(2)
【11】:文楽作品の身体表現(1)
【12】:文楽作品の身体表現(2)
【13】:学生による読解の発表
【14】:授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○

個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストを読んでくること。作品を鑑賞すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表課題:100%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

郡司正勝 かぶきの美学 演劇出版社 1998 9784900256477

作成:2024/10/02
科目コード:UP401

身体論ワークショップ1

Workshop on Embodied Art 1

砂連尾　理(JAREO OSAMU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP401
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ダンスを含む様々なジャンルのアート表現だけでなく政治・文化など、社会全般の流れを意識しながら、今日の舞台に於ける表現及びダンスの可能性について考察する。また特別な訓練を経た特権的な身体の表現としてだけでなく、ヒエラルキーを排した身体によって開かれていくダンスや表現の可能性を模索しながら、いわゆるデモクラシーの身体によっても再現可能なシステム、コレオグラフについて研究する。

We will think not only about the various genres of artistic expression such as dance, but will also be conscious of politics, culture, and the entire current of society as we consider possibilities for contemporary theatrical expression and dance. We will not limit ourselves to expression that is possible only through exceptionally trained “privileged” bodies. Rather, we will seek possibilities for dance and other types of expression that become possible when the body is freed from hierarchical limitations, and as we do so, we will research reproducible systems and choreographs that are possible as a result of what is called democracy.

授業の内容 / Course Contents

授業の前半は西洋のダンスコンテキスト、主にポストモダンダンス以降の研究と身体訓練を往復しながら身体表現を探る。毎回テーマに沿ったクリエーションをグループワーク中心に行い、そこで生まれた表現についてディスカッションとリクリエーションを重ね、ダンスとは何か、そしてダンスはいつ生まれるのかについて考察を深める。後半は前半の授業から見えてきたテーマ、コンセプトをもとに作品制作を進める。尚、授業計画は授業を進めていく中で授業内容や発表形態が変更されることがある。

We will investigate physical expression both through dance exercises as well as through research into the Western dance context, especially that of post-modern dance. During each class, students will work mainly in groups on a creation with an assigned theme. They will then discuss the resulting expressions, recreate them repeatedly, and consider deeply what dance is and when it comes into existence. During the second half of the class, students will work on an actual production based on the theme and concepts fleshed out during the first half. Moreover, as the class progresses, changes may be made to the class contents and presentation format.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ポストモダンダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
【2】:ポストモダンダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
【3】:コンテンポラリーダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
【4】:コンテンポラリーダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
【5】:ノンダンス、コンセプチュアルなダンスを研究、コミュニティーダンス、武道、民俗芸能、老いの身体について考察する。
【6】:発表に向けたテーマ設定、コンセプトをディスカッションする。
【7】:発表に向けたテーマ設定、コンセプトをディスカッション及びリサーチ。

【8】:発表に向けた制作。
【9】:発表に向けた制作。
【10】:発表に向けた制作。
【11】:発表に向けたワーク・イン・プログレス。
【12】:発表に向けた制作。
【13】:発表に向けた制作。
【14】:上演及び合評。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自主的に身体トレーニングに取り組んでもらいたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業参加:70% 成果発表:30%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

その他 / Others

HP: https://www.jareo-osamu.com/

作成:2024/10/02
科目コード:UP402

身体論ワークショップ2

Workshop on Embodied Art 2

砂連尾　理(JAREO OSAMU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP402
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

政治、文化など、社会全般の出来事と身体がどのように関わっているのかをダンス・身体表現、映像表現から考察していく。それと並行して、様々な身体技法、また作品制作を通して身体で思考するとはどういうことなのかを身体を動かしながら考え、その可能性について研究する。

This course will examine how the body relates to events taking place in society, including politics and culture, from the standpoint of dance, body expression, and cinematic expression. As they engage with these inquiries, students will carry out research by creating a work that involves moving their bodies to understand what thinking through the body signifies and the possibilities that it entails.

授業の内容 / Course Contents

モダンダンス、ヨガ、気功、合気道など東西の様々な身体技法から簡単に行えるトレーニングを毎回行い、身体への眼差し、その感性を高める。主にポストモダンダンス以降の作品を映像などで研究しながら、コレオグラフの多様さについて学ぶ。最終的にはそれぞれの研究テーマを身体表現、或いはワークショップという形態で発表。
尚、授業計画は授業を進めていく中で変更されることがある。

Students will heighten their sensitivity and awareness of their bodies in each class through simple exercises that involve a variety of body movements from both the East and West, including modern dance, yoga, chi kung, and aikido.
Students will conduct research by engaging with videos and other works, mainly from the period since the emergence of post-modern dance, and study the diversity of choreography. At the end of the course, each student will present their research theme through the form of body expression or a workshop.
Please note that class plans are subject to change during the course.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ポストモダンダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
【2】:ポストモダンダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
【3】:コンテンポラリーダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
【4】:コンテンポラリーダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
【5】:ノンダンス、コンセプチュアルなダンスを研究、コミュニティーダンス、武道、民俗芸能、老いの身体について考察する。
【6】:発表に向けたテーマ設定、コンセプトをディスカッションする。
【7】:発表に向けたテーマ設定、コンセプトをディスカッション及びリサーチ。
【8】:発表に向けた制作。
【9】:発表に向けた制作。
【10】:発表に向けた制作。
【11】:発表に向けたワーク・イン・プログレス。

【12】:発表に向けた制作。
【13】:発表に向けた制作。
【14】:上演及び合評。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

舞台、展覧会、映画には可能な限り足を運び、様々なアート作品に触れ、表現研究をしてもらいたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席及び授業時の積極性:50% 発表に至る取り組み及び内容:50%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

その他 / Others

HP: https://www.jareo-osamu.com/

作成:2024/10/02
科目コード:UP403

身体論ワークショップ3

Workshop on Embodied Art 3

羽鳥　嘉郎(HATORI YOSHIRO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP403
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

発話や身体のバリエーションを生み出すインストラクションを制作する。
We will create instructions that bring about variations in vocal and physical expression.

授業の内容 / Course Contents

演技メソッドや戯曲のト書き、または習慣に従った振る舞いにとどまらない、特定の質をもった言動を生成するためのインストラクション(指示)を制作する。インストラクションに従う者・それを鑑賞する者に、認知の変容あるいは更新をうながすことを旨とし、芸術表現としてのジャンル(パフォーマンス/演劇/ダンス)に限定されないアプローチを学ぶ。サウンドスケープの課題集や舞踏譜も適宜参照する。2023 年度は黒沢清「CURE」シナリオを上記の観点から検討した。
We will produce instructions (directions) that lead to the creation of sounds and behavior with specific qualities that are not limited to customary behavior, a performance method, or theatrical direction. Students will learn an approach that is not limited to genres of artistic expression (performance / drama / dance) by creating instructions that stimulate transformation or renewal of awareness in those who follow them as well as in observers. Students may freely refer to soundscape collections and existing choreography.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:ワークショップ 1
【3】:ワークショップ 2
【4】:ワークショップ 3
【5】:ワークショップ 4
【6】:リハーサル 1
【7】:リハーサル 2
【8】:リハーサル 3
【9】:リハーサル 4
【10】:リハーサル 5
【11】:リハーサル 6
【12】:リハーサル 7
【13】:発表
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○

個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業時の取り組み:50% 課題発表:50%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

Hans Ulrich Obrist Do It: The Compendium Independent Curators 2013
R.マリー・シェーファー サウンド・エデュケーション 春秋社 1998
大野一雄 大野一雄舞踏譜―御殿、空を飛ぶ。 思潮社 1998

作成:2024/10/02
科目コード:UP404

身体論ワークショップ4

Workshop on Embodied Art 4

羽鳥　嘉郎(HATORI YOSHIRO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP404
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

発話や身体のバリエーションを生み出すインストラクションを制作する。
We will create instructions that bring about variations in vocal and physical expression.

授業の内容 / Course Contents

演技メソッドや戯曲のト書き、または習慣に従った振る舞いにとどまらない、特定の質をもった言動を生成するためのインストラクション(指示)を制作する。インストラクションに従う者・それを鑑賞する者に、認知の変容あるいは更新をうながすことを旨とするが、特定の芸術ジャンルに落とし込む方法(そしてその際に伴うべき批評性)についても議論し実践する。サウンドスケープの課題集や舞踏譜も適宜参照する。2023 年度は黒沢清「CURE」シナリオを上記の観点から検討した。
We will produce instructions (directions) that lead to the creation of sounds and behavior with specific qualities that are not limited to customary behavior, a performance method, or theatrical direction. While still aiming to stimulate transformation or renewal of awareness in the those who follow the instructions or observe, students will discuss how to translate the instructions into a particular artistic genre (and how to critique it) and then practice doing so. Students may freely refer to soundscape collections and existing choreography.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:ワークショップ 1
【3】:ワークショップ 2
【4】:ワークショップ 3
【5】:ワークショップ 4
【6】:リハーサル 1
【7】:リハーサル 2
【8】:リハーサル 3
【9】:リハーサル 4
【10】:リハーサル 5
【11】:リハーサル 6
【12】:リハーサル 7
【13】:発表
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○

個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業時の取り組み:50% 課題発表:50%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

Hans Ulrich Obrist Do It: The Compendium Independent Curators 2013
R.マリー・シェーファー サウンド・エデュケーション 春秋社 1998
大野一雄 大野一雄舞踏譜―御殿、空を飛ぶ。 思潮社 1998

作成:2024/10/02
科目コード:UP405

身体論ワークショップ5

Workshop on Embodied Art 5

松田　正隆(MATSUDA MASATAKA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP405
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

空間と時間の観点から演劇の身体のことを考える。
The purpose of this course is to think about theater according to the theme of space and time.

授業の内容 / Course Contents

場所と時間をテーマに、演劇の上演作品を作ること。
The purpose of this course is for students to create theater performances with the themes of place and time.

授業計画 / Course Schedule

【1】:戯曲の選定。
【2】:戯曲を読む。
【3】:リハーサル。
【4】:リハーサル。
【5】:リハーサル。
【6】:リハーサル。
【7】:リハーサル。
【8】:リハーサル。
【9】:リハーサル。
【10】:リハーサル。
【11】:リハーサル。
【12】:リハーサル。
【13】:上演。
【14】:合評。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

別途、授業時に提示するが、授業時以外にもリハーサルが必要となる場合がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業時の取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UP406

身体論ワークショップ6

Workshop on Embodied Art 6

松田　正隆(MATSUDA MASATAKA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP406
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

空間と時間の観点から演劇の身体のことを考える。
The purpose of this course is to think about theater according to the theme of space and time.

授業の内容 / Course Contents

受講者が演出をして、場所と時間をテーマにして演劇の作品を創作すること。
The purpose of this course is for students to create and direct theatrical works on the themes of place and time.

授業計画 / Course Schedule

【1】:話し合い。上演作品の主題の検討。
【2】:リハーサル。
【3】:リハーサル。
【4】:リハーサル。
【5】:リハーサル。
【6】:リハーサル。
【7】:リハーサル。
【8】:リハーサル。
【9】:リハーサル。
【10】:リハーサル。
【11】:リハーサル。
【12】:リハーサル。
【13】:上演。
【14】:合評。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業時に指示する。上演に際しては授業時以外にもリハーサルが必要となる場合がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業時の取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UP421

映像論ワークショップ1

Workshop on Video and Cinema 1
映像制作研究

樋本　淳(HIMOTO JUN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP421
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5120
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

完成・上映を目的とした映像作品を制作しながら、その制作過程を理解することを目的とします。
「映像論ワークショップ1」では、特にプリプロダクションの方法論を研究します。
The aim of this workshop is to have each student create, complete, and screen a moving-image work for the understanding of its production process. Workshop Video and Cinema 1 will focus on some pre-production methodologies.

授業の内容 / Course Contents

劇映画、ドキュメンタリー、アートや音楽とのコラボレーション等、個々の学生が制作したい映像作品に合わせて、参考となる文献・映像作品等を提示しながら研究。
不特定多数への公開を前提として、特にプリプロダクション(企画・構想・シナリオ・ロケハン等)に重点を置いて、映像作品の制作を行います。
Each student will receive relevant reference materials on literature and moving-image works to carry out their research in accordance with the moving-image works they wish to create, be it a fictional film, documentary, or collaboration with art and music.
Particularly focusing on the pre-production processes (such as planning, making a scheme, screenwriting, and location scouting), students will create a moving-image work under the premise that it will be shown to the general public.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:企画・構成案
【3】:企画・構成案
【4】:企画・構成案
【5】:プリプロダクション
【6】:プリプロダクション
【7】:プリプロダクション
【8】:プリプロダクション
【9】:プリプロダクション
【10】:プリプロダクション
【11】:プリプロダクション
【12】:プリプロダクション
【13】:プリプロダクション
【14】:プリプロダクション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業に臨む姿勢:100%

テキスト / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考文献 / Readings

映像作品も含め、適宜、紹介します。

作成:2024/10/02
科目コード:UP422

映像論ワークショップ2

Workshop on Video and Cinema 2
映像制作研究

樋本　淳(HIMOTO JUN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP422
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5120
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

完成・上映を目的とした映像作品を制作しながら、その制作過程を理解することを目的とします。
「映像論ワークショップ2」では、特に撮影とポストプロダクションの方法論を研究します。
The aim of this workshop is to have each student create, complete, and screen a moving-image work for the understanding of its production process. Workshop Video and Cinema 2 will focus on some filming and post-production methodologies.

授業の内容 / Course Contents

劇映画、ドキュメンタリー、アートや音楽とのコラボレーション等、個々の学生が制作したい映像作品に合わせて、参考となる文献・映像作品等を提示しながら研究。
不特定多数への公開を前提として、特に撮影とポストプロダクション(編集・音響・ミックスダウン等)に重点を置いて、映像作品の制作を行います。
Each student will receive relevant reference materials on literature and moving-image works to carry out their research in accordance with the moving-image works they wish to create, be it a fictional film, documentary, or collaboration with art and music.
Particularly focusing on the filming and post-production processes (such as editing, adding a soundtrack, and mixing down), students will create a moving-image work under the premise that it will be shown to the general public.

授業計画 / Course Schedule

【1】:撮影
【2】:撮影
【3】:撮影
【4】:撮影
【5】:撮影
【6】:撮影／ポストプロダクション
【7】:撮影／ポストプロダクション
【8】:ポストプロダクション
【9】:ポストプロダクション
【10】:ポストプロダクション
【11】:ポストプロダクション
【12】:ポストプロダクション
【13】:試写／講評
【14】:上映

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業に臨む姿勢:100%

テキスト / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考文献 / Readings

映像作品も含め、適宜、紹介します。

作成:2024/10/02
科目コード:UP423

映像論ワークショップ3

Workshop on Video and Cinema 3

篠崎　誠(SHINOZAKI MAKOTO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP423
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5120
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修了制作(長編映画)に向けてのシナリオ執筆
Students will write scenarios in preparation for completing a production (full-length film).

授業の内容 / Course Contents

長編映画の企画開発、プロット化からシナリオ執筆までを指導する。応募資格は少なくともこれまで 2 本以上の映画を監督したか、またはメインスタッフとして経験したものに限る。未経験者は不可(例外は認めない)。
This class will provide guidance for planning a full-length film, from plan development and turning the plan into a plot, to scenario writing. The class is open to students who have directed at least 2 films or who have experience as a main staff member in the production of a film. The class is closed to students without such experience (no exceptions will be made).

授業計画 / Course Schedule

【1】:企画立案に向けての話し合い①
【2】:企画立案に向けての話し合い②
【3】:企画立案に向けての話し合い③
【4】:企画立案に向けての話し合い④
【5】:企画立案に向けての話し合い⑤
【6】:企画立案に向けての話し合い⑥
【7】:企画立案に向けての話し合い⑦
【8】:プロット、シナリオ講評①
【9】:プロット、シナリオ講評②
【10】:プロット、シナリオ講評③
【11】:プロット、シナリオ講評④
【12】:プロット、シナリオ講評⑤
【13】:プロット、シナリオ講評⑥
【14】:プロット、シナリオ講評⑦

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自分が撮りたい企画について、漠然としたものではなく、具合的なアイデア、設定を考えておくことが最低限必要。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及び授業への取り組み:50% 企画(プロット・シナリオ)の進行具合で評価:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UP424

映像論ワークショップ4

Workshop on Video and Cinema 4

篠崎　誠(SHINOZAKI MAKOTO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP424
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5120
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

長編映画のシナリオを書き上げる。
The purpose of this course is to write script of feature film.

授業の内容 / Course Contents

長編映画のシナリオを書きあげる。春学期の映像論 WS3 の受講生のみを対象とする。参加条件は春学期同様，撮影・編集などが一通りできて，映像作品 2 本以上を作ったことのある者に限る。例外は認めない。
Students are required to complete screenplay.
The conditions for participation are: only the students who have already got the grade in the workshop on Video and Cinema 3 and have skills to use camera and editing and have made two or more movies.
Please note that no exceptions are allowed.

授業計画 / Course Schedule

【1】:脚本指導①
【2】:脚本指導②
【3】:脚本指導③
【4】:脚本指導④
【5】:脚本指導⑤
【6】:脚本指導⑥
【7】:脚本指導⑦
【8】:脚本指導⑧
【9】:脚本指導⑨
【10】:脚本指導⑩
【11】:脚本指導⑪
【12】:脚本指導⑫
【13】:脚本指導⑬
【14】:脚本指導⑭

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

夏期休業明けの最初の授業までに，プロット(A4 の紙 10～20 枚)を提出すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席率を含む脚本執筆に向けての積極性:30% 完成したシナリオに対する評価:70%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:UP425

映像論ワークショップ5

Workshop on Video and Cinema 5
作品制作のための撮影照明技術

山田　達也(YAMADA TATSUYA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP425
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5120
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

自らの作品制作のため実践的に撮影照明技術を習得する。
Learn practical photography and lighting techniques to create your own works.

授業の内容 / Course Contents

学科機材を使い更なる撮影技術、照明技術を習得し作品制作へつなげる。
その一環として過去の映画作品を題材に演出、撮影方法を分析し再現撮影などを行う。
また履修生との話し合いにより目標を設定し、それに見合う実技内容を展開する。

Students will learn further photographic and lighting techniques using the equipment provided by the school, which will lead to the creation of works of art.
As part of this effort, we will analyze the direction and filming methods of past movies and recreate them.
In addition, we set goals through discussion with students and develop practical skills that match those goals.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス、イントロダクション
【2】:企画
【3】:企画
【4】:撮影照明技術①/企画
【5】:撮影照明技術②/企画
【6】:撮影照明技術③/企画
【7】:撮影照明技術④/企画
【8】:撮影照明技術⑤/企画
【9】:課題撮影①
【10】:課題撮影②
【11】:課題撮影③
【12】:課題撮影④
【13】:編集
【14】:試写講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて適宜授業時に指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 課題制作への取り組み:50% 課題制作:50%

テキスト / Textbooks

授業時に必要に応じて配布します。

参考文献 / Readings

授業時に必要に応じて指示します。

作成:2024/10/02
科目コード:UP501

舞台制作プロデュース論演習

Advanced Seminar on Theatre Production

中村　佑子(NAKAMURA YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP501
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

舞台というものを現実世界を異化する装置として捉え、オープンダイアローグなど他分野の「演劇的手法」を実践することで、作品制作における射程を広げ、テーマを設定する力を鍛えます。

By treating the stage as a device that alienates the real world and practicing theatrical techniques such as Open Dialogue, this course will broaden the scope of production of theatrical works and hone the ability to set themes.

授業の内容 / Course Contents

現実を異化するものとしての舞台は、現実世界では聞こえてこない声を響かせる場として機能してきました。社会の周縁におかれる者、この世界には現れ出ない存在、個人の無意識や記憶が「舞台」に立ち上がったとき、それは人々の認識を揺さぶってきました。この授業では「舞台」を、いわゆる壇上ではなく私たちの現実世界と捉えます。授業前期では実作品の鑑賞やリサーチ＆レクチャーを通したディスカッションを、後期では精神疾患の治療技法「オープンダイアローグ」などを演劇的技法と捉え、対話を通じて、各々の底に眠る内的な動機を見つめ、企画を立ち上げる訓練を行います。

The stage as an alienation of reality has functioned as a place for resonation of voices that cannot be heard in the real world. It has shaken people's perceptions when the unconsciousness and memory of individuals at the edges of society, who do not appear in this world, stand on the "stage." In this class, we see the "stage" as our real world, not a so-called platform for performance. In the first half of the semester, students will engage in group discussion informed by research, lectures, and viewing actual works. In the second half, they will regard the mental illness treatment technique "Open Dialogue" etc as a theatrical technique and, through dialogue, look at the inner motives slumbering deep within each of us. Training will be conducted to launch each project.

授業計画 / Course Schedule

【1】:はじめに
【2】:レクチャーとグループディスカッションおよび参考作品の鑑賞と批評
【3】:レクチャーとグループディスカッションおよび参考作品の鑑賞と批評
【4】:レクチャーとグループディスカッションおよび参考作品の鑑賞と批評
【5】:レクチャーとグループディスカッションおよび参考作品の鑑賞と批評
【6】:レクチャーとグループディスカッションおよび参考作品の鑑賞と批評
【7】:レクチャーとグループディスカッションおよび参考作品の鑑賞と批評
【8】:レクチャーとグループディスカッションおよび参考作品の鑑賞と批評
【9】:レクチャーとグループディスカッションおよび参考作品の鑑賞と批評
【10】:レクチャーとグループディスカッションおよび参考作品の鑑賞と批評
【11】:レクチャーとグループディスカッションおよび参考作品の鑑賞と批評
【12】:レクチャーとグループディスカッションおよび参考作品の鑑賞と批評

【13】:レクチャーとグループディスカッションおよび参考作品の鑑賞と批評
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示する参考文献の読解、リサーチなど毎回事前課題に取り組んでもらいます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% リアクションペーパー:20% 授業への出席と積極度:80%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

中村佑子 マザリング 現代の母なる場所 集英社 2019
中村佑子 わたしが誰かわからない ヤングケアラーを探す旅 医学書院 2023
高山明 テアトロン 社会と演劇をつなぐもの 河出書房新社 2021
適宜指示します。

作成:2024/10/02
科目コード:UP505

映像機器・施設ワークショップ

Workshop for Operating Advanced Video Equipment
映画音響実践　AVID ProTools 基礎

川口　陽一(KAWAGUCHI YOICHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	UP505
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業は映像作品における音響に関する技術と知識、とりわけポスト・プロダクション(仕上げ)工程の技術と知識を習得することを目標とする。それに伴い、映像における音響について考えを深める。
In this class, students will acquire skills and knowledge related to sound in visual productions, especially those used in the post-production stage. With these, they will be able to enrich their ideas regarding sound in such productions.

授業の内容 / Course Contents

映像業界で最も使用されている音響システム AVID ProTools の使用を学ぶことが主たる内容である。
その前提となる適切な録音についても指導する。
受講生が制作している作品がある場合、その音響を実践的に仕上げていくことが望ましい。
適宜相談して授業内容を変更していく。
Most of the class will be devoted to learning about the most widely used sound system in the motion picture industry, AVID ProTools.
Guidance for obtaining adequate recordings will be provided as well, since this is a prerequisite for the above.
If a student is currently working on a production, it is advisable to work on and finish the sound for that production.
Guidance counseling will be provided freely, and class contents will be modified as necessary.

授業計画 / Course Schedule

【1】:座学　イントロダクション　映画における音の「演出」について、映画の音を仕上げることについて
【2】:座学　ProTools の紹介
【3】:個人面談　1
【4】:個人面談　2
【5】:個別指導・ディスカッション
【6】:個別指導・ディスカッション
【7】:個別指導・ディスカッション
【8】:個別指導・ディスカッション
【9】:個別指導・ディスカッション
【10】:個別指導・ディスカッション
【11】:個別指導・ディスカッション
【12】:個別指導・ディスカッション
【13】:個別指導・ディスカッション
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間内で学べることは極めて少ない。ほぼ毎回課題を出すことになる。
授業は、やって来た課題を指導することが前提となる。課題をやらない場合授業が成立しないので必ずやってくること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への出席及び及び授業への取り組み、課題・レポート:100%

テキスト / Textbooks

必要に応じて、適宜配布、または指示する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

基本的な Mac の操作ができることが望ましい。
具体的に取り組んでいる作品があることが望ましい。

作成:2024/10/02
科目コード:WW111

研究指導

Tutorial Session

温　文(WEN WEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WW111
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	PSY7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

院生各自が自身の興味、関心に基づき、研究テーマを設定する。教員の指導の下、そのテーマについて十二分なレビューをした上で、研究を実施して、国内外の学術誌に公刊していき、最終的に博士学位論文として研究成果をまとめられるようにする。

授業の内容 / Course Contents

研究テーマの探索、研究テーマの検討・絞り込み、先行研究に関する検討、研究計画の立案、研究方法・分析方法についての検討などを、指導教員および副指導教員による個別指導で行う。学生は、研究成果を博士課程前期課程の正課である「現代心理学特殊研究」および、毎年 2 月に行われる年次報告会で研究の進捗について報告し、専攻教員全員が指導する。

授業計画 / Course Schedule

【1】:導入授業
【2】:研究テーマの検討1
【3】:研究テーマの検討2
【4】:研究テーマの検討3
【5】:研究計画の立案1
【6】:研究計画の立案2
【7】:研究計画の立案3
【8】:分析についての検討1
【9】:分析についての検討2
【10】:分析についての検討3
【11】:考察の検討1
【12】:考察の検討2
【13】:考察の検討3
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集、研究の実施、論文の執筆

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100％ 発表:60％ 議論への参加:40％
年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」と，学期ごとに提出される「研究成果報告書」をもとに総合的な評価を行うものとする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

石黒　格(ISHIGURO ITARU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WW112
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	PSY7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

院生各自が自身の興味、関心に基づき、研究テーマを設定する。教員の指導の下、そのテーマについて十二分なレビューをした上で、研究を実施して、国内外の学術誌に公刊していき、最終的に博士学位論文として研究成果をまとめられるようにする。

授業の内容 / Course Contents

研究テーマの探索、研究テーマの検討・絞り込み、先行研究に関する検討、研究計画の立案、研究方法・分析方法についての検討などを、指導教員および副指導教員による個別指導で行う。学生は、研究成果を博士課程前期課程の正課である「現代心理学特殊研究」および、毎年 2 月に行われる年次報告会で研究の進捗について報告し、専攻教員全員が指導する。

授業計画 / Course Schedule

【1】:導入授業
【2】:研究テーマの検討1
【3】:研究テーマの検討2
【4】:研究テーマの検討3
【5】:研究計画の立案1
【6】:研究計画の立案2
【7】:研究計画の立案3
【8】:分析についての検討1
【9】:分析についての検討2
【10】:分析についての検討3
【11】:考察の検討1
【12】:考察の検討2
【13】:考察の検討3
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集、研究の実施、論文の執筆

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100％ 発表:60％ 議論への参加:40％
年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」と，学期ごとに提出される「研究成果報告書」をもとに総合的な評価を行うものとする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:WW201

知覚心理学特殊研究

Advanced Studies in Perceptual Psychology

氏家　悠太(UJIIE YUTA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WW201
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY7220
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

知覚心理学およびその関連領域(認知心理学, 実験心理学, 認知科学, 発達科学等)の最新の研究知見に触れ, 批判的にデータを検証する視点やプレゼンテーション・ディスカッション能力などのスキルを獲得することを目指す。さらに, ディスカッションのファシリテーターとしての役割を担い, 議論を深めることを学ぶ。

Through learning recent research in perceptual psychology and related fields (cognitive psychology, experimental psychology, cognitive science, developmental science, etc.), students develop their academic skills such as critical inspection of data, giving presentations, and persuasive discussion. Furthermore, students will acquire the ability to serve as discussion facilitators, contributing to the deepening of discussions within the class.

授業の内容 / Course Contents

知覚心理学およびその関連領域(認知心理学, 実験心理学, 認知科学, 発達科学等)に関する自身の研究内容について, 最新の知見と絡めてプレゼンテーション形式で発表を行う。そして, 履修者全員で研究内容の改善点や発展案について議論・討論を行う。これらを通じて, 研究成果が国内外の学会だけではなく国際査読誌で公表されるよう, 研究内容の深化を行う。

Each student will present their research and engage in discussions related to the latest findings in perceptual psychology and associated fields, such as cognitive psychology, experimental psychology, cognitive science, and developmental science. Following each presentation, all students will collectively discuss and debate the content, offering suggestions for improvements. Through these activities, students deepen their research and prepare for publishing their research findings at domestic and international conferences and in refereed international journals.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:研究発表・討論(1)
【3】:研究発表・討論(2)
【4】:研究発表・討論(3)
【5】:研究発表・討論(4)
【6】:研究発表・討論(5)
【7】:研究発表・討論(6)
【8】:研究発表・討論(7)
【9】:研究発表・討論(8)
【10】:研究発表・討論(9)
【11】:研究発表・討論(10)
【12】:研究発表・討論(11)
【13】:研究発表・討論(12)

【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ガイダンス時に準備学習の内容について教示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:40% 出席と討論:30% ファシリテーターとしての役割:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

認知心理学特殊研究

Advanced Studies in Cognitive Psychology

木原　健(KIHARA KEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WW203
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY7220
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

生理心理学および精神生理学的手法を用いた認知心理学の研究について、最近の研究内容を理解して検討を加える。さらに、プレゼンテーションやディスカッションを通して、研究者にとって不可欠な科学的表現力や批判的思考力を身につける。

This class will examine recent cognitive-psychological studies with physiological measurements. Furthermore, through presentations and discussions, participants will acquire scientific expression and critical thinking skills essential for researchers.

授業の内容 / Course Contents

脳波、脳血流、眼球運動などの生理計測を用いた認知心理学的研究に関する最近の専門書から、発表者は自らの興味に従って章を選択し、内容をまとめたスライドで発表する。発表された内容は受講者全員で検討する。

発表者は、当日までに発表用のスライドを準備する。発表者以外の受講生も、発表後に十分な討論ができるよう、事前に関連文献などを予習する。発表技法や研究技法に関しては、適宜指導する。

Based on their own interests, students choose a chapter in a recent book introducing cognitive-psychological studies with physiological measurements, such as electroencephalogram, brain blood flow, and eye movements, for presentation. Presented material then be discussed and debated by the whole class.

The presenter(s) prepare a slide for the presentation. Students who are not presenting are also expected to investigate relevant literature in advance and contribute to the discussion. Guidance regarding presentation and research techniques will be provided as necessary.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクションおよび発表内容の決定 / Introduction and determination of presentation contents
【2】:スライド発表と討論(1)/ Slide presentation and discussion (1)
【3】:スライド発表と討論(2)/ Slide presentation and discussion (2)
【4】:スライド発表と討論(3)/ Slide presentation and discussion (3)
【5】:スライド発表と討論(4)/ Slide presentation and discussion (4)
【6】:スライド発表と討論(5)/ Slide presentation and discussion (5)
【7】:スライド発表と討論(6)/ Slide presentation and discussion (6)
【8】:スライド発表と討論(7)/ Slide presentation and discussion (7)
【9】:スライド発表と討論(8)/ Slide presentation and discussion (8)
【10】:スライド発表と討論(9)/ Slide presentation and discussion (9)
【11】:スライド発表と討論(10)/ Slide presentation and discussion (10)
【12】:スライド発表と討論(11)/ Slide presentation and discussion (11)
【13】:スライド発表と討論(12)/ Slide presentation and discussion (12)

【14】:スライド発表と討論(13)/ Slide presentation and discussion (13)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習が必要な場合はその都度指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表内容と発表技量:50% 議論への参加と出席:50%
全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

日本生理心理学会(企画)堀忠雄・尾崎久記(監修)室橋春光・苧阪満里子(編集) 生理心理学と精神生理学 第Ⅲ巻 展開 北大路書房 2018 9784762830198
その都度紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:WW205

社会心理学特殊研究

Advanced Studies in Social Psychology

石黒　格(ISHIGURO ITARU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WW205
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生の研究関心に合わせた英字文献を講読し、各自の研究の推進に貢献する。同時に、他の参加者の研究計画に有用な情報とアイディアを提供することを通して、後進との指導的な関わりを身につける。

授業の内容 / Course Contents

学生が各自に自らの研究関心に沿った文献を提案し、講読する。一名が発表し、残りの学生は論文を事前に精読した上で、そこからどのような研究の発展がありうるかを議論する。

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:発表と議論
【3】:発表と議論
【4】:発表と議論
【5】:発表と議論
【6】:発表と議論
【7】:発表と議論
【8】:発表と議論
【9】:発表と議論
【10】:発表と議論
【11】:発表と議論
【12】:発表と議論
【13】:発表と議論
【14】:発表と議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

次回対象論文の精読と論点の整理を事前に行う。授業内容は、学生各自の研究に関わるものであるので、有益な情報があるのであれば、授業後にも個人的に伝達することが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:60% 議論への貢献:20% 他の参加者への援助的関わり:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:WW206

産業・組織心理学特殊研究

Advanced Studies in Industrial/ Organizational Psychology
PRE-SUASION

小口　孝司(OGUCHI TAKASHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WW206
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

産業・組織心理学に密接に関わる下記のテキストを用いて、pre-suasion について考察を深め、以て各自の研究への応用を図る。さらに、研究に対する批判力と、研究を大局的な視点から評価する力を養う。また、研究についてのディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につける。同時に、研究に対する批判力と、研究を大局的な視点から評価する力を養う。加えて、他の履修者や教員とのディスカッションの中で論点の整理を行う、議論を掘り下げるなど、議論を充実させる役割を担えるようにする。これらによって、研究者および将来の教育者として必要な能力を身につけることも目標とする。

Using the following text closely related to industrial/organizational psychology, students will deepen their discussion of pre-suasion and apply it to their research. In addition, students will develop critical thinking skills and the ability to evaluate research from a broad perspective. Students will also learn how to discuss and present their research. At the same time, students will develop the ability to be critical of research and to evaluate research from a broad perspective. In addition, students can play a role in discussions with other students and the professor to enrich the discussion by organizing issues and delving deeper into discussions. Students will acquire the skills necessary to become researchers and future educators through these activities.

授業の内容 / Course Contents

Robert Cialdini 教授による古典的名著とされる“Influence”が上梓されてから、30 年以上が経ている。それは如何に人を動かすかの原理、原則を解説したものである。彼が他人を動かすための前準備のテクニックについて解説したものが、この“Pre-suasion”である。Pre-suasion とは、pre(前)と suasion(勧告・説得)を合わせた Cialdini 教授による造語である。本書を輪読する。その際、担当者は、各章(節)を担当して解説する。さらにその章で紹介されている研究の中で、担当者が最も興味深かったと思う研究論文についても調べ、併せてその概要を紹介する。その後受講生の間で議論をして理解を深めるとともに、各人の研究テーマとの関連性を考究していく。

It has been over 30 years since Professor Robert Cialdini's classic book "Influence" was published. It explains the principles of how to influence people. Pre-suasion" is a term coined by Professor Cialdini, combining the words "pre" and "suasion. Pre-suasion" is a term coined by Professor Cialdini, combining "pre" and "suasion. This book will be read in rotation. Each person in charge will be in charge of a chapter (section) and will explain it. In addition, the instructor will also review the most interesting research papers in the chapters and introduce the outline of the research papers. The students will then discuss and deepen their understanding of the research and consider its relevance to their research themes.

授業計画 / Course Schedule

【1】:導入
【2】:担当章(節)の決定

【3】:Previleged moments
【4】:The importance of attention
【5】:What's focal is causal
【6】:Commanders of attention
【7】:The primacy of associations
【8】:Persuasive geographies
【9】:The mechanics of pre-suasion
【10】:Six main roads to change
【11】:Being together
【12】:Acting together
【13】:Ethical use
【14】:Post-suasion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

下記のテキストを輪読する。その際、担当者を各章(あるいは各節)ごとに決める。担当者は、レジュメを作成して、受講者全員に配布する。レジュメには章の要約とそこに示されている1つの研究の要約も記載すること。レジュメに基づいて発表を行った後、全員で討論を行う。自分の担当章(節)以外の部分にも目を通しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 担当発表:40% 討論への参加:30% 授業での議論における主導的な役割:30%

テキスト / Textbooks

Cialdini, R. Pre-suasion Simons & Schuster 2016 978501109799

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:WW209

発達心理学特殊研究

Advanced Studies in Developmental Psychology

ユ, リラ(YU LIRA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WW209
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

発達心理学と関連する研究トピックスについて発表しながら学ぶことで、胎児期から老年期までのヒト特有の行動と心の発達に関する発展的知識を身につける。また、それらの知識をベースに、発達心理学で用いられる研究手法を学ぶ。
By presenting research topics in Developmental Science, students will acquire advanced knowledge on the development of human-unique behavior and mind from fetal period to late adulthood. Also, students will learn various research methods introduced in Developmental Science.

授業の内容 / Course Contents

指定した参考文献の中からそれぞれ担当する「発達段階」を選択し、順番に発表を行う。参加者は、発表担当者が担当する発達段階の特徴について予習レポートを作成することで、能動的に学び、積極的に議論を行うことが求められる。
Each student will give a presentation in turn by choosing one of the "Developmental stages" from the designated references. All students are expected to prepare a preliminary report in advance and actively participate in the discussion.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス・発表担当者および順番の割り当て
【2】:胎児期
【3】:新生児期
【4】:乳児期Ⅰ
【5】:乳児期Ⅱ
【6】:幼児期Ⅰ
【7】:幼児期Ⅱ
【8】:児童期
【9】:思春期
【10】:成人初期・中期
【11】:成人後期・老年期
【12】:非定型発達Ⅰ
【13】:非定型発達Ⅱ
【14】:比較認知発達

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習レポートの作成、発表担当回の事前準備、授業後のレポート作成、授業最終回後の総括レポート作成を求める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表担当回の発表内容(自身の研究活動についての進捗報告及び総括を含む):30% 予習・事後レポート:30% 議論への参加:20% 最終レポート割合：:20%

テキスト / Textbooks

特に無し。必要であれば授業内で適宜紹介する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜配布する。

作成:2024/10/02
科目コード:WW216

認知・身体心理学特殊研究

Advanced Studies in Cognitive and Embodied Psychology

温　文(WEN WEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WW216
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY7220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

・認知・身体心理学の関連領域の最先端の研究について調査し、新規性の高いリサーチクエスチョンに焦点を当てる能力を身につける。
・新規性・インパクトの高い研究を独立に遂行する能力を身につける。
Students will learn the frontier of the field and will acquire the ability to focus on highly novel research question.
Students will also learn how to conduct novel and significant research independently.

授業の内容 / Course Contents

・履修生と個別に定期的に研究についてディスカッションし、研究計画を立て、遂行する。
・必要に応じて、文献レビューや発表練習を行う。

Students will have regular meeting with the supervisor about the research plan and research progress. Students will also need to conduct literature review and presentation practice when necessary.

授業計画 / Course Schedule

【1】:研究指導
【2】:研究指導
【3】:研究指導
【4】:研究指導
【5】:研究指導
【6】:研究指導
【7】:研究指導
【8】:研究指導
【9】:研究指導
【10】:研究指導
【11】:研究指導
【12】:研究指導
【13】:研究指導
【14】:研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連分野の文献を調査し、研究計画を立て、実験を行うことを授業時間外に行う必要がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 討論による評価:50% 研究進捗による評価:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:WW311

現代心理学特殊演習

Advanced Seminar on Contemporary Psychology
心理学専攻(後期課程)における総合演習

石黒 格／温 文／白井 述／小口 孝司／氏家 悠太／都築 誉史(ISHIGURO ITARU/ WEN WEN/ SHIRAI NOBU/ OGUCHI TAKASHI/ UJIIE YUTA/ TSUZUKI TAKASHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WW311
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY7920
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生が自身の研究について発表を行い、他の大学院生や専攻教員からの質問やアドバイスを受けることによって、自身の研究テーマ、方法、分析などの向上を図る。さらに他の大学院生の研究報告を聞き、討論を行うことを通して、心理学研究への多面的な理解を深め、研究能力を伸長させる。同時に、研究に対する批判力と、研究を大局的な視点から評価する力を養う。加えて、他の履修者や教員とのディスカッションの中で論点の整理を行う、議論を掘り下げるなど、議論を充実させる役割を担えるようにする。これらによって、研究者および将来の教育者として必要な能力を身につけることを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

この授業は心理学専攻所属教員全員による研究指導の場である。基本的には、研究指導教員全員と、大学院博士課程前期課程・後期課程の大学院生全員が、毎回授業に出席する。司会進行や運営は大学院生が行う。大学院生による研究発表に対し、全員で積極的に討論を行い、指導教員・副指導教員以外の研究指導教員からもアドバイス等をもらう。

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:研究発表と討論(1)
【3】:研究発表と討論(2)
【4】:研究発表と討論(3)
【5】:研究発表と討論(4)
【6】:研究発表と討論(5)
【7】:研究発表と討論(6)
【8】:研究発表と討論(7)
【9】:研究発表と討論(8)
【10】:研究発表と討論(9)
【11】:研究発表と討論(10)
【12】:研究発表と討論(11)
【13】:研究発表と討論(12)
【14】:演習全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究発表:40% 討論参加:30% 毎回の授業での議論における主導的な役割の担当:30%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

研究指導

Tutorial Session
臨床心理学研究
(Research of clinical psychology)

林　もも子(HAYASHI MOMOKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WX111
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	CLP7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学的に意義のある研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにすること。
臨床心理学の研究者として自立して研究を企画、実施し、論文としてまとめる能力を獲得すること。
臨床心理学の実践と理論の間の関係を熟知した上で、現場に還元できる研究を行なう能力を獲得すること。
臨床心理学における倫理性を踏まえ、支援を必要とする人と支援をする人の双方にとって意義ある研究を行なう能力を獲得すること。
臨床心理学の研究の発展に寄与する研究を行なう能力を獲得すること。
To be able to set a research theme of clinical psychological significance, conduct individual research under the guidance of a faculty member, and compile research results leading to a doctoral dissertation.
To acquire the ability to independently plan and conduct research as a researcher in clinical psychology and summarize it in a dissertation.
To acquire the ability to conduct research that can be applied back to the field, based on a thorough understanding of the relationship between practice and theory in clinical psychology.
To acquire the ability to conduct research that is meaningful to both those who need support and those who provide it, based on ethics in clinical psychology.
To acquire the ability to conduct research that contributes to the development of clinical psychology research.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、臨床心理学の理論と実践に研究が還元できることは何かを熟考する。研究テーマの検討、先行研究の検討、研究方法の倫理性の検討、博士論文の構成等の検討及び研究に関する指導・助言を行う。
To consider what a doctoral dissertation is and to ponder what research can return to the theory and practice of clinical psychology. The program will examine the research theme, review previous research, consider the ethicality of research methods, and structure the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on the research.

授業計画 / Course Schedule

【1】:博士論文研究指導1　研究倫理についての指導
【2】:博士論文研究指導 2
【3】:博士論文研究指導 3
【4】:博士論文研究指導 4
【5】:博士論文研究指導 5
【6】:博士論文研究指導 6

【7】:博士論文研究指導 7
【8】:博士論文研究指導 8
【9】:博士論文研究指導 9
【10】:博士論文研究指導10
【11】:博士論文研究指導11
【12】:博士論文研究指導12
【13】:博士論文研究指導13
【14】:博士論文研究指導14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集、臨床心理学的な実験、観察、調査などによる研究の実施、論文の執筆。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究論文執筆:100%
年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」と，学期ごとに提出される「研究成果報告書」をもとに総合的な評価を行うものとする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session
臨床心理学研究
(Research of clinical psychology)

逸見　敏郎(HEMMI TOSHIRO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WX112
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	CLP7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学的に意義のある研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにすること。
臨床心理学の研究者として自立して研究を企画、実施し、論文としてまとめる能力を獲得すること。
臨床心理学の実践と理論の間の関係を熟知した上で、現場に還元できる研究を行なう能力を獲得すること。
臨床心理学における倫理性を踏まえ、支援を必要とする人と支援をする人の双方にとって意義ある研究を行なう能力を獲得すること。
臨床心理学の研究の発展に寄与する研究を行なう能力を獲得すること。
To be able to set a research theme of clinical psychological significance, conduct individual research under the guidance of a faculty member, and compile research results leading to a doctoral dissertation.
To acquire the ability to independently plan and conduct research as a researcher in clinical psychology and summarize it in a dissertation.
To acquire the ability to conduct research that can be applied back to the field, based on a thorough understanding of the relationship between practice and theory in clinical psychology.
To acquire the ability to conduct research that is meaningful to both those who need support and those who provide it, based on ethics in clinical psychology.
To acquire the ability to conduct research that contributes to the development of clinical psychology research.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、臨床心理学の理論と実践に研究が還元できることは何かを熟考する。研究テーマの検討、先行研究の検討、研究方法の倫理性の検討、博士論文の構成等の検討及び研究に関する指導・助言を行う。
To consider what a doctoral dissertation is and to ponder what research can return to the theory and practice of clinical psychology. The program will examine the research theme, review previous research, consider the ethicality of research methods, and structure the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on the research.

授業計画 / Course Schedule

【1】:博士論文研究指導1　研究倫理についての指導
【2】:博士論文研究指導 2
【3】:博士論文研究指導 3
【4】:博士論文研究指導 4
【5】:博士論文研究指導 5
【6】:博士論文研究指導 6

【7】:博士論文研究指導 7
【8】:博士論文研究指導 8
【9】:博士論文研究指導 9
【10】:博士論文研究指導10
【11】:博士論文研究指導11
【12】:博士論文研究指導12
【13】:博士論文研究指導13
【14】:博士論文研究指導14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集、臨床心理学的な実験、観察、調査などによる研究の実施、論文の執筆。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究論文執筆:100%
年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」と，学期ごとに提出される「研究成果報告書」をもとに総合的な評価を行うものとする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:WX201

臨床心理学研究法

Research Methods in clinical Psychology

林　もも子／大石　幸二／松永　美希／山田　哲子(HAYASHI MOMOKO/ OISHI KOUJI/ MATSUNAGA MIKI/ YAMADA TETSUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WX201
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP7110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学研究法の教育・指導に必要な能力を形成する。臨床心理学研究の倫理について学ぶ。
Form the competencies necessary to teach and supervise clinical psychology research methods. Learn about the ethics of clinical psychology research.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理学の研究者および教育者として自立して研究を企画，実施し，論文をまとめられるように，指導教員および副指導教員のもと，実践と理論をつなぐ高度な研究法について学ぶ。また支援を必要とする人と支援をする人の双方にとって意義ある研究を行なえるように，臨床心理学における研究倫理について熟知し，それらを教育する方法について学ぶ。また実際に，各指導教員が担当する学部生および前期課程学生に対して，指導教員のもと，助言や指導を行うことを通して臨床心理学研究の教授法を実践する。また心理教育相談所などにおける担当ケースへのスーパーヴィジョンを通して，臨床指導の教授法についても指導を行うことがある。
Under the supervision of a supervisor and a sub-supervisor, students learn advanced research methods that link practice and theory so that they can independently plan and conduct research and compile papers as researchers and educators in clinical psychology. In addition, students will learn about research ethics in clinical psychology and how to educate students about them so that they can conduct meaningful research for both those who need support and those who provide support. In addition, students practice teaching methods of clinical psychology research by providing advice and guidance to undergraduate students and first semester course students under the supervision of their respective supervisors. In addition, through supervision of cases at psycho-educational consultation offices, etc., students may also receive guidance on teaching methods for clinical instruction.

授業計画 / Course Schedule

【1】:臨床心理学的研究法とその教育方法①　臨床心理学研究の倫理
【2】:臨床心理学的研究法とその教育方法②
【3】:臨床心理学的研究法とその教育方法③
【4】:臨床心理学的研究法とその教育方法④
【5】:臨床心理学的研究法とその教育方法⑤
【6】:研究倫理とその教育方法①
【7】:研究倫理とその教育方法②
【8】:研究倫理とその教育方法③
【9】:研究倫理とその教育方法④
【10】:研究倫理とその教育方法⑤
【11】:教授法の実践①

【12】:教授法の実践②
【13】:教授法の実践③
【14】:教授法の実践④

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義内容の理解を深めるために，自分の研究テーマにおいて臨床心理学的な実験，観察，調査などによる研究の実施，論文の執筆をおこなう。また各指導教員の運営するゼミに参加し，学部生や前期課程学生の研究遂行に対して助言を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 指導教員，副指導教員との議論・報告:50% 専攻における研究発表:50%
指導教員および副指導教員との報告や議論，専攻における研究発表を総合して評価する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:WX202

臨床心理学研究法

Research Methods in clinical Psychology

林　もも子／大石　幸二／松永　美希／山田　哲子(HAYASHI MOMOKO/ OISHI KOUJI/ MATSUNAGA MIKI/ YAMADA TETSUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WX202
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP7110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学研究法の教育・指導に必要な能力を形成する。臨床心理学研究の倫理について学ぶ。
Form the competencies necessary to teach and supervise clinical psychology research methods. Learn about the ethics of clinical psychology research.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理学の研究者および教育者として自立して研究を企画，実施し，論文をまとめられるように，指導教員および副指導教員のもと，実践と理論をつなぐ高度な研究法について学ぶ。また支援を必要とする人と支援をする人の双方にとって意義ある研究を行なえるように，臨床心理学における研究倫理について熟知し，それらを教育する方法について学ぶ。また実際に，各指導教員が担当する学部生および前期課程学生に対して，指導教員のもと，助言や指導を行うことを通して臨床心理学研究の教授法を実践する。また心理教育相談所などにおける担当ケースへのスーパーヴィジョンを通して，臨床指導の教授法についても指導を行うことがある。
Under the supervision of a supervisor and a sub-supervisor, students learn advanced research methods that link practice and theory so that they can independently plan and conduct research and compile papers as researchers and educators in clinical psychology. In addition, students will learn about research ethics in clinical psychology and how to educate students about them so that they can conduct meaningful research for both those who need support and those who provide support. In addition, students practice teaching methods of clinical psychology research by providing advice and guidance to undergraduate students and first semester course students under the supervision of their respective supervisors. In addition, through supervision of cases at psycho-educational consultation offices, etc., students may also receive guidance on teaching methods for clinical instruction.

授業計画 / Course Schedule

【1】:臨床心理学的研究法とその教育方法①　臨床心理学研究の倫理
【2】:臨床心理学的研究法とその教育方法②
【3】:臨床心理学的研究法とその教育方法③
【4】:臨床心理学的研究法とその教育方法④
【5】:臨床心理学的研究法とその教育方法⑤
【6】:研究倫理とその教育方法①
【7】:研究倫理とその教育方法②
【8】:研究倫理とその教育方法③
【9】:研究倫理とその教育方法④
【10】:研究倫理とその教育方法⑤
【11】:教授法の実践①

【12】:教授法の実践②
【13】:教授法の実践③
【14】:教授法の実践④

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義内容の理解を深めるために，自分の研究テーマにおいて臨床心理学的な実験，観察，調査などによる研究の実施，論文の執筆をおこなう。また各指導教員の運営するゼミに参加し，学部生や前期課程学生の研究遂行に対して助言を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 指導教員，副指導教員との議論・報告:50% 専攻における研究発表:50%
指導教員および副指導教員との報告や議論，専攻における研究発表を総合して評価する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:WY111

研究指導

Tutorial Session

宮本　裕子(MIYAMOTO YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY111
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	BEC7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにすること。

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

授業計画 / Course Schedule

【1】:全体計画の策定、研究テーマの検討・絞り込み、先行研究に関する検討、研究方法についての検討などを行う。
【2】:個別指導
【3】:個別指導
【4】:個別指導
【5】:個別指導
【6】:個別指導
【7】:個別指導
【8】:個別指導
【9】:個別指導
【10】:個別指導
【11】:個別指導
【12】:個別指導
【13】:個別指導
【14】:個別指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する調査、研究。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合　:100%　研究への取り組み:100%
年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」と、学期ごとに提出される「研究成果報告書」をもとに、総合的な評価を行うものとする。

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:WY114

研究指導

Tutorial Session

加藤　千恵(KATO CHIE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY114
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	BEC7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにすること。

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

授業計画 / Course Schedule

【1】:全体計画の策定、研究テーマの検討・絞り込み、先行研究に関する検討、研究方法についての検討などを行う。
【2】:個別指導
【3】:個別指導
【4】:個別指導
【5】:個別指導
【6】:個別指導
【7】:個別指導
【8】:個別指導
【9】:個別指導
【10】:個別指導
【11】:個別指導
【12】:個別指導
【13】:個別指導
【14】:個別指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する調査、研究。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合　:100%　研究への取り組み:100%
年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」と、学期ごとに提出される「研究成果報告書」をもとに、総合的な評価を行うものとする。

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:WY151

映像身体学原論

Principles of Body Expression and Cinematic Arts

黒木　秀房(KUROKI HIDEFUSA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY151
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、イメージと身体に関する基本的な概念や理論を習得し、博士課程での各自の研究や制作に応用できるようにする。

In this class, students will learn basic concepts and theories about the image and the body, and prepare to apply them to their own research and production.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、(1)イメージ論と身体論の系譜を追いつつ、(2)21 世紀の新たな人文学を通時的・共時的に位置づけ、(3)その基礎概念について解説する。現代人文諸科学の知見を援用しつつ、哲学的理論と芸術的実践の往還の中で、人間と世界を動的に捉え直すため、(4)学生の関心に応じて、哲学と芸術の関係についても、ともに考察していく。

In this class, we will (1) follow the genealogy of image theory and body theory, (2) position the new humanities of the 21st century in a diachronic and synchronic manner, and (3) explain its basic concepts. (4) The relationship between philosophy and art will also be discussed in accordance with students' interests, in order to dynamically reconsider human beings and the universe in the context of philosophical theory and artistic practice, while drawing on the findings of contemporary humanities sciences.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:イメージとは何か？(1)
【3】:イメージとは何か？(2)
【4】:身体とは何か？(1)
【5】:身体とは何か？(2)
【6】:映像身体学の位置づけ(1)
【7】:映像身体学の位置づけ(2)
【8】:映像身体学の基礎概念(1)
【9】:映像身体学の基礎概念(2)
【10】:映像身体学の基礎概念(3)
【11】:哲学と芸術(1)
【12】:哲学と芸術(2)
【13】:哲学と芸術(3)
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げた作品を中心にできるだけ多く触れること。予習・復習ができているかどうか、毎回書いてもらう予定のリアクション・ペーパーで確認する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% リアクションペーパー(毎回):60% 最終レポート割合::40%
すべての項目において、後期課程に相応しい高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

授業内で扱うテクストについては、必要に応じてコピーを配布する。また、参考文献については適宜、授業内で紹介する。

その他 / Others

上記の授業計画は予定であり変更の可能性がある。

作成:2024/10/02
科目コード:WY152

映像身体学研究法

Methodology of Body Expression and Cinematic Arts
映像身体学の哲学

江川　隆男(EGAWA TAKAO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY152
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、博士論文の作成を目指す院生が、それぞれの研究領域において映像身体学についての基本概念の再形成を、あるいはこの映像身体学の諸原理の再構成を目標とする。そのための研究発表を必ず授業でおこなってもらう。

授業の内容 / Course Contents

ここでは、映像身体学の基本概念――表現、解釈、感覚、構成、対象性、批判、創造、分析、総合、等々――についていくつかのテクストや資料を用いて、授業を進めていきたい。受講者は、授業内でのテーマについての自分の考えや意見、問題や質問を提起できるようつねに意識して積極的に参加してもらいたい。また論文の書き方についての指導も含めて授業を展開する予定である。

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:映像身体学の基本概念についての考察(1)
【3】:基本概念についての考察(2)
【4】:基本概念についての考察(3)
【5】:基本概念の批判的考察(1)
【6】:基本概念の批判的考察(2)
【7】:基本概念の批判的考察(3)
【8】:言語と身体について
【9】:精神と感情について
【10】:哲学と芸術について
【11】:思考と感覚について
【12】:人間と自然について
【13】:意味と無意味について
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

つねにノートを作成すること

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100％ 出席、研究発表:60％ 最終レポート割合::40％

後期課程に相応しい高度な発表を要求する。

テキスト / Textbooks

適宜、コピーを配布する。

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:WY351

映像身体学特殊研究1

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 1
哲学と映像身体学

江川　隆男(EGAWA TAKAO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY351
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、映像身体学の基本概念のさらなる展開を意識して、多様な思考の仕方と同時に、それらを総合する力を身につけてもらうことにある。それは、博士論文を作成するために必要な、論述の仕方、問題提起の仕方、分析と総合の仕方、等々についての思考力を獲得することである。

授業の内容 / Course Contents

ここでは、ジル・ドゥルーズの哲学の本質を形成しているいくつかの概念についての本格的な理解をも目指したいと思っています。この哲学は、まさに新たな概念(別の考え方)の形成にあり、それだけでなく新たな情動(別の感じ方)と知覚(別の見方)にまで届くようなものです。基本的にはテクストや資料を用いた講義形式で授業を進めていきます。受講者は、こうした事柄についての内容と表現とを、つねに各自のテーマや課題に即して意識できるよう心掛けてください。

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:芸術と哲学の諸問題
【3】:経験とは何か(1)
【4】:経験とは何か(2)
【5】:共通感覚について(1)
【6】:共通感覚について(2)
【7】:自由意志から自由活動へ(1)
【8】:自由意志から自由活動へ(2)
【9】:まとめ
【10】:哲学、芸術、科学について(1)
【11】:哲学、芸術、科学について(2)
【12】:超越論的経験論について(1)
【13】:超越論的経験論について(2)
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義内容についてノートをしっかりと取り、各テーマについての自分の考えや自分の課題との関係性などについてつねにまとめる努力が重要となります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への取り組み、発表:60% 最終レポート割合::40%
後期課程に相応しい高度な発表を要求する。

テキスト / Textbooks

適宜、資料を配布する。

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:WY352

映像身体学特殊研究2

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 2
21 世紀のメディア論

滝浪　佑紀(TAKINAMI YUKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY352
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

とりわけ視覚メディアを中心として、近年のメディア論からいくつかの重要なテクストを読む。こうした最新のメディア論の研究を深く理解し、映画やテレビ、インターネットなどのメディアの分析をおこなうための方法論を獲得することを目指す。こうした読解を通じ、研究者として論文を書くさいの基礎を獲得する。

授業の内容 / Course Contents

Steven Shaviro, Thomas Lamarre, Alexander Galloway などのメディア論を精読する。またこうしたメディア論で論じられている作品や現象についても考察する。授業内でのディスカッションも重視し、最新の研究成果について理解を深める。

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:文献講読 1
【3】:文献講読 2
【4】:文献講読 3
【5】:文献講読 4
【6】:文献講読 5
【7】:文献講読 6
【8】:文献講読 7
【9】:文献講読 8
【10】:文献講読 9
【11】:文献講読 10
【12】:文献講読 11
【13】:文献講読 12
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習。関連事項の調査。発表の準備。授業内容の整理。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表:40% 授業への取り組み:20% 最終レポート割合::40%
後期課程にふさわしい高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に指示する。

作成:2024/10/02
科目コード:WY353

映像身体学特殊研究3

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 3
政治哲学
ランシエールの文学論から

田崎　英明(TAZAKI HIDEAKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY353
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. 自分が普段読み慣れている言語以外の言語で哲学や美学の文献を読みこなせるようになる。
2. 現代の批評理論の概要を理解し、自分自身でも具体的に作品を理論的に批評できるようになる。
3. 現代の政治運動/政治思想/政治哲学において問われていたことが何であるのかを理解し、その現代的な意義を論じることができるようになる。
4. 自分の研究を現代の批評理論のパースペクティブの内に位置づけられるようになる。

授業の内容 / Course Contents

ジャック・ランシエールの文学に関する著作を複数の言語で読み、議論していく。

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:ランシエールについて
【3】:文学と政治について 1
【4】:文学と政治について 2
【5】:文学と政治について 3
【6】:文学と政治について 4
【7】:文学と政治について 5
【8】:小説と近代 1
【9】:小説と近代 2
【10】:小説と近代 3
【11】:小説と近代 4
【12】:小説と近代 5
【13】:小説と近代 6
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Google Classroom にアップした教材に事前に目を通しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:70% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

Canvas LMS にアップする。

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:WY354

映像身体学特殊研究4

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 4

宮本　裕子(MIYAMOTO YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY354
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

映像に関する理論的な文章を自身で読み解けるようになる。映像に関する理論的な理解、とりわけアニメーションという視覚- 文化的な形態への理論的な理解を深める。研究者にふさわしい論文読解能力と学術論文を執筆する能力を獲得する。

In this course, students will learn to independently analyze theoretical texts on moving images. Students will also deepen their theoretical understanding of moving images, particularly in animation as a form of visual-culture. Students will also be expected to acquire the academic reading and writing skills that are necessary for researchers.

授業の内容 / Course Contents

Stevie Suan の著作を中心に講読を行うことで、「アニメ」と呼ばれる日本の商業用アニメーションについて検討する。日本の商業用アニメーションとしての「アニメ」は、そのスタイルと内容的な形式において自明のものではなく、新自由主義経済とそれに伴う社会、文化、産業的な条件の中で構築されたものだと考えられる。この授業はしたがって、ある映像的な特徴やそれについての認識が構築される例を検討するものである。これを通じて、研究者にふさわしい論文読解能力と優れた学術論文を執筆する能力の獲得を目指す。

The aim of this course is to examine ″anime″ as Japanese commercial animation through the reading of Stevie Suan's book. The ″anime″ as Japanese commercial animation is not given in its style and narrative form, but is constructed in the condition of neoliberal economy that leads to a particular social, cultural, and industrial situation. The course examines a case study of how a visual characteristic is industrially and culturally constructed and recognized. Through this examination, students will acquire the academic reading and writing skills at an appropriate level for researchers.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:文献講読
【3】:文献講読
【4】:文献講読
【5】:文献講読
【6】:文献講読
【7】:文献講読
【8】:文献講読
【9】:文献講読
【10】:文献講読
【11】:文献講読
【12】:文献講読
【13】:学生発表

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習、授業の復習、発表準備、課題映像の視聴など。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への取り組み:40% 発表:20% 最終レポート割合::40%
全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:WY355

映像身体学特殊研究5

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 5
『老子』を読む

加藤　千恵(KATO CHIE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY355
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

『老子』の代表的な章を講読し、理解を深める。
研究者として論文を批評する力を身につける。

授業の内容 / Course Contents

『老子』は、著者も成立年代もはっきりしない、たった五千字という短い文章なのに、中国古典のなかで最も多くの注釈書が作られてきた名著であり、戦術家、為政者、庶民、不死を目指す者、だれが覗いても、その人に応じて進むべき道を映し出してくれる鏡のようなところのある、じつに不思議な書である。この『老子』のなかから代表的な章を選んで講読し、「水」のごとく、「雌」のごとく、「嬰児」のごとくあれ、というその内容から、中国人がいかに世界や歴史、そして身体をとらえようとしていたのかを、他の思想と比較しながら考察する。

授業は担当者の報告と全員の意見交換によって進めてゆく。担当者は担当箇所を精読して、必要に応じて調べ、授業時に口頭で解説する。

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:『老子』講読　道とは
【3】:『老子』講読　最高の善は水のよう
【4】:『老子』講読　玄牝―根源のメス
【5】:『老子』講読　無用の用
【6】:『老子』講読　嬰児への復帰
【7】:『老子』講読　美や善は絶対か
【8】:『老子』講読　学を絶てば憂い無し
【9】:『老子』講読　無為の政治
【10】:『老子』講読　大器晩成
【11】:『老子』講読　理想郷とは
【12】:『老子』講読　足るを知る
【13】:『老子』講読　柔弱は剛強に勝つ
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回指定した章を精読してくる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告内容および授業参加への積極的な態度:70% 授業最終日に提出する小レポート:30%
後期課程にふさわしい高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

金谷治『老子』講談社 1997 4061592785

参考文献 / Readings

初回に紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:WY356

映像身体学特殊研究6

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 6
写真の本質を紐解く

日高　優(HIDAKA YU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY356
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、機械の知覚としての写真の原理を映像身体学の観点から理解し、現代において写真をみることの意義を再認したうえで、その学びを自分の博士論文に活かすことができるようにすることを目標とする。
The aim of this course is to enable students to develop an understanding of the principles of photography as a form of mechanical perception from the perspective of body expression and cinematic arts and reengage with the meaning behind viewing photographs in the contemporary world. The aim is then to enable students to apply these learnings to their own doctoral dissertations.

授業の内容 / Course Contents

機械映像についての学びは、映像身体学科の学びの核のひとつを成す。まずは、映像身体学の基礎をおさえたうえで、機械映像として人類史上、初めて出現した写真の原理を確認する。さらに写真術登場初期のインパクトを確認しつつ、写真の本質について明らかにしていく。その後は、「演習」ということで、文献講読と自由発表とで授業展開をする。本授業では、写真の本質について的確な知識をもって考察を深めていけるよう、適宜おこなうディスカッションに加えて、各自が撮影した写真の講評をおこなう機会を設ける。文献は、写真の本質を新たな視点から考察した写真史家ジェフリー・バッチェンの研究論文やニューヨーク近代美術館の写真ディレクターを長らく務めたジョン・シャーカフスキーが企画した写真展「Photographers' Eye」(1966)のテクスト等を読む予定。
The study of mechanical images forms one of the core elements of learning in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. First, the course will cover the fundamentals of body expression and cinematic arts and subsequently examine the principles of photography, the first form of mechanical image that humanity developed. We will also study the impact of photographic techniques in the early stages of photography's development and clarify its essence. Students will subsequently read texts and give in-class presentations in a seminar format. In order for students to deepen their understanding of the essence of photography through the attainment of accurate knowledge, they will not only have opportunities to carry out discussions as necessary but also critique the photographs taken by their classmates. The literature for this course will include research papers by photography historian Geoffrey Batchen, who analyzed the essence of photography from a new perspective, as well as the text for The Photographer's Eye (1966), an exhibition organized by photography historian John Szarkowski, who was the director of photography at the Museum of Modern Art, New York for many years.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション――映像身体学における写真
【2】:映像身体学の基礎と写真の原理
【3】:映像身体学の基礎と写真の原理
【4】:映像身体学の基礎と写真出現のインパクト

【5】:文献講読
【6】:文献講読
【7】:文献講読
【8】:文献講読
【9】:文献講読
【10】:写真作品講評会
【11】:自由発表
【12】:自由発表
【13】:自由発表
【14】:まとめ――写真を通して考える映像身体学の意義

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予めの知識は不要。文献講読時は予習して、不明点を明らかにしてのぞむこと。自由発表に備え、授業時にも写真等の作品は適宜紹介するが、各自でも写真集などで作例に当たることがのぞましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への取り組み:30% 口頭発表:40% 最終レポート割合::30%
全ての評価内訳において、前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:WY357

映像身体学特殊研究7

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 7

江口　正登(EGUCHI MASATO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY357
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

上演芸術の記録と保存という問題について考察する。これを通じ、上演芸術の本性やそのジャンル的条件に関し、今後の研究の深化につながるような省察を行う。

授業の内容 / Course Contents

上演芸術は、非物質性や束の間性という性質を本性とするものであり、文章や写真、映像による記録はすべて部分的なものでしかなく、本質的なものにはなりえないとしばしば言われる。しかし、上演芸術を記録し保存しようとする試みは様々になされており、それらを十把一絡げに不完全なものとして切り捨てることはできない。また、仮に、上演芸術が究極的には記録・保存が不可能であるということを認めるにしても、その不可能さの仔細を検討することが必要である。
この授業では、関連する文献の読解や、受講者それぞれの関心に基づいての自由発表などを取り混ぜて、上述の問題を広く検討していく。講読文献は主に英語のものを扱う。

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:文献講読
【3】:文献講読
【4】:文献講読
【5】:文献講読
【6】:文献講読
【7】:文献講読
【8】:文献講読
【9】:文献講読
【10】:自由発表
【11】:自由発表
【12】:自由発表
【13】:自由発表
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献を読んでくる(映像などを見てくる)こと、発表の準備、関連事項の調査。また上演や展示の観覧を課すこともあります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表:30% 授業への取り組み:30% 最終レポート割合::40%
後期課程にふさわしい高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

Matthew Reason Documentation, Disappearance and the Representation of Live Performance Palgrave Macmillan 2014 9781349546039
Gabriella Giannachi and Jonah Westerman (eds.) Histories of Performance Documentation: Museum, Artistic, and Scholarly Practices Routledge 2018 9781138184145
Philip Auslander Reactivations: Essays on Performance and Its Documentation University of Michigan Press 2018 9780472053858
Rebecca Schneider Performing Remains: Art and War in Times of Theatrical Reenactment Routledge 2011 9780415404426
Amelia Jones and Adrian Heathfield (eds.) Perform, Repeat, Record: Live Art in History Intellect 2012 9781841504896
Gundhild Borggreen and Rune Gade (eds.) Performing Archives/Archives of Performance Museum Tusculanum Press 2013 9788763537506
Toni Sant (ed.) Documenting Performance: The Context and Processes of Digital Curation and Archiving Bloomsbury Methuen Drama 2017 9781472588180

その他 / Others

授業計画は大まかな予定。受講者の人数や関心も考慮して調整する可能性があります。

作成:2024/10/02
科目コード:WY362

映像身体学特殊演習2

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 2
スタンリー・カヴェルのメディア論

滝浪　佑紀(TAKINAMI YUKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY362
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

2023 年度秋学期は映画の本質について十分に論じた哲学者スタンリー・カヴェルの著作を映画やメディアという論点に注目して論じたが、この授業では引き続き、カヴェルの哲学をメディアという観点から考える。ただし今回は美学的側面に焦点をあてる。映画やメディアにかんして重要な思索をおこなったカヴェルの著作をつうじて、メディアの経験について考えることがこの授業の目的である。こうした読解を通じ、研究者として論文を書くさいの基礎を獲得する。

授業の内容 / Course Contents

イントロダクションののち、Must We Mean What We Say?のいくつかの章を読み、Pursuits of Happiness を中心とした映画作品論を読解する。さらに Cavell について他の研究者が書いた論文も読む。

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:文献講読 1
【3】:文献講読 2
【4】:文献講読 3
【5】:文献講読 4
【6】:文献講読 5
【7】:文献講読 6
【8】:文献講読 7
【9】:文献講読 8
【10】:文献講読 9
【11】:文献講読 10
【12】:文献講読 11
【13】:文献講読 12
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習。関連事項の調査。発表の準備。授業内容の整理。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表:40% 授業への取り組み:20% 最終レポート割合：:40%
後期課程にふさわしい高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:WY363

映像身体学特殊演習3

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 3
精神分析と美学
リビドー・エコノミー

田崎　英明(TAZAKI HIDEAKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY363
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. 自分が普段読み慣れている言語以外の言語で哲学や美学の文献を読みこなせるようになる。
2. 現代の批評理論の概要を理解し、自分自身でも具体的に作品を理論的に批評できるようになる。
3. 現代の政治運動/政治思想/政治哲学において問われていたことが何であるのかを理解し、その現代的な意義を論じることができるようになる。
4. 自分の研究を現代の批評理論のパースペクティブの内に位置づけられるようになる。

授業の内容 / Course Contents

精神分析と美学に関わる著作を複数の言語で読み、議論していく。

授業計画 / Course Schedule

【1】:はじめに
【2】:ベルナール・スティグレールを読む 1
【3】:ベルナール・スティグレールを読む 2
【4】:ベルナール・スティグレールを読む 3
【5】:ベルナール・スティグレールを読む 4
【6】:ベルナール・スティグレールを読む 5
【7】:ベルナール・スティグレールを読む 6
【8】:中間のまとめ
【9】:リオタールを読む 1
【10】:リオタールを読む 2
【11】:リオタールを読む 3
【12】:リオタールを読む 4
【13】:リオタールを読む 5
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自分がいつも読み慣れている外国語以外の言語にも積極的に取り組むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:70% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

Canvas LMS にアップする。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

作成:2024/10/02
科目コード:WY364

映像身体学特殊演習4

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 4

宮本　裕子(MIYAMOTO YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY364
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

映像に関する理論的な文章を自身で読み解けるようになる。映像に関する理論的な理解、とりわけアニメーションという視覚-文化的な形態への理論的な理解を深める。研究者にふさわしい論文読解能力と学術論文を執筆する能力を獲得する。

In this course, students will learn to independently analyze theoretical texts on moving images. Students will also deepen their theoretical understanding of moving images, particularly in animation as a form of visual-culture. Students will also be expected to acquire the academic reading and writing skills that are necessary for researchers.

授業の内容 / Course Contents

Hannah Frank の著書を講読し、アニメーションの物質性について考える。Frank は、主に商業用アニメーションにおける伝統的な手法であるセル・アニメーションに焦点化し、セルロイドシートや彩色、撮影といった物質と労働について検討することで、アニメーションの物質性についての再考を促している。同書の講読を通じて、映像と物質の関係に関する視点と理解を深める。これを通じて、研究者にふさわしい論文読解能力と優れた学術論文を執筆 する能力の獲得を目指す。

The aim of this course is to investigate the materiality of animation through the reading of Hannah Frank's book. Focusing on cel animation as one of the traditional commercial animation production processes, Frank examines celluloid sheets as material, compositing, photographing, and painting as labor, stimulating a rethinking of the materiality of animation. By reading the book, students will deepen their perspective and understanding of the relationship between moving images and materiality. Through this examination, students will acquire the academic reading and writing skills at an appropriate level for researchers.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:文献講読
【3】:文献講読
【4】:文献講読
【5】:文献講読
【6】:文献講読
【7】:文献講読
【8】:文献講読
【9】:文献講読
【10】:文献講読
【11】:文献講読
【12】:文献講読
【13】:学生発表

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習、授業の復習、発表準備、課題映像の視聴など。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への取り組み:40% 発表:20% 最終レポート割合::40%
全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:WY365

映像身体学特殊演習5

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 5
『荘子』郭象注を読む

加藤　千恵(KATO CHIE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY365
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

『荘子』郭象注を講読し、理解を深める。研究者として原文を正確に読み、批評する力を身につける。

授業の内容 / Course Contents

『荘子』郭象注を精読し、中国人がいかに世界や身体をとらえようとしていたのかを考察する。
授業は担当者の報告と全員の意見交換によって進めてゆく。担当者は担当箇所を調べて準備し、授業時に解説する。

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:『荘子』講読
【3】:『荘子』講読
【4】:『荘子』講読
【5】:『荘子』講読
【6】:『荘子』講読
【7】:『荘子』講読
【8】:『荘子』講読
【9】:『荘子』講読
【10】:『荘子』講読
【11】:『荘子』講読
【12】:『荘子』講読
【13】:『荘子』講読
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回指定した部分を精読してくる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告内容および授業参加への積極的な態度:70% 授業最終日に提出する小レポート:30%
後期課程にふさわしい高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

初回に紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:WY366

映像身体学特殊演習6

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 6
写真の本質への理解を深める

調　文明(SHIRABE BUNMEI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY366
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、写真分野におけるいくつかの必読文献を読み、学生が写真映像への深い理解を獲得することを促す。とりわけ機械の知覚としての写真の多彩な表現を映像身体学の観点から理解し、現代において写真をみることの意義を再認したうえで、それを自分の博士論文に反映できるようにすることを目標とする。
In this course, students will read several essential texts on photography to deepen the understanding of photographic images. The primary focus is on understanding the myriad forms of expression in photography as a means of mechanical perception from the standpoint of body expression and cinematic arts and reengaging with the meaning of viewing photographs in the contemporary world. Students will reach a final goal of reflecting this learning on their doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

機械映像についての学びは、映像身体学専攻の学びの核のひとつを成す。まずは、映像身体学の基礎をおさえたうえで関連文献を読み、さらに写真映像を分析することによって写真の本質への理解を深める。関連文献では、写真の本質を探究した写真のパイオニアたちや新鋭たち、フランツ・ローやジェフ・ウォールをはじめとする写真家や現代アーティストが書いたものをとりあげる予定。言葉により写真へアプローチすることを学ぶ方法を獲得するのに資するために、本授業の後半では、学生各人が写真集及び作品を選んで批評し、プレゼンテーションする実践的訓練をおこなう。
The study of mechanical images forms one of the core elements in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. After first studying the foundation of body expression and cinematic arts and reading related texts, students will deepen their understanding of the essence of photography through an analysis of photographic images. The course will focus on texts by photography pioneers who explored the essence of photography as well as young and talented photographers, including works by Franz Roh, Jeff Wall, and contemporary artists. Furthermore, to ensure that students hone methods of learning approaches to photography through words, the course will have the students select and critique a collection of photographs or a photographic work and present their assessments in the second half of the class.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション――映像身体学と写真
【2】:文献講読
【3】:文献講読
【4】:文献講読
【5】:文献講読
【6】:文献講読
【7】:文献講読

【8】:写真作品批評の方法を学ぶ1
【9】:写真作品批評の方法を学ぶ2
【10】:学生によるプレゼンテーション
【11】:学生によるプレゼンテーション
【12】:学生によるプレゼンテーション
【13】:学生によるプレゼンテーション
【14】:まとめ――写真という対象に向かって書くということ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への取り組み:30% 口頭発表:40% 最終レポート割合::30%
全ての評価方法において、前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:WY367

映像身体学特殊演習7

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 7
伝統芸能の言葉と身体

横山　太郎(YOKOYAMA TARO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	WY367
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

日本の伝統芸能における言語表現と身体表現の仕組みを理解する。博士後期課程においては、これらの理解を自身の専門領域と結びつけられるようになることを目指す。

授業の内容 / Course Contents

能と文楽の作品を一つずつ取り上げる。それぞれにつき、次のような順番で授業を進める。(1)台本の言語表現の分析、(2)ビデオ映像を通じた身体表現の分析、(3)可能な場合は劇場で作品を鑑賞。授業で扱う作品は、参加者と相談しつつ、この時期の上演作品や映像の入手可能性を考慮して決める。

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:能楽概説及び作品の背景
【3】:能楽作品の言語表現(1)
【4】:能楽作品の言語表現(2)
【5】:能楽作品の身体表現(1)
【6】:能楽作品の身体表現(2)
【7】:学生による読解の発表
【8】:文楽概説及び作品の背景
【9】:文楽作品の言語表現(1)
【10】:文楽作品の言語表現(2)
【11】:文楽作品の身体表現(1)
【12】:文楽作品の身体表現(2)
【13】:学生による読解の発表
【14】:授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストを読んでくること。作品を鑑賞すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表課題:100%
博士後期課程においては、専門的立場からの発表を評価をする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

郡司正勝 かぶきの美学 演劇出版社 1998 9784900256477